

平成27年度  
英語教育改善のための  
英語力調査事業(中学校)  
報告書



文部科学省

平成28年3月

## 平成 27 年度「英語教育改善のための英語力調査事業（中学校）」報告書 目次

1 章 調査の概要	3
1. 調査の目的	
2. 調査事項及び方法	
3. 調査期間、調査対象	
4. 調査結果の解釈などに関する留意事項	
5. 調査問題の構成	
6. 出題内容	
7. 「書くこと」及び「話すこと」の採点基準	
8. CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）を参照した分析方法	
2 章 調査結果の概要	17
3 章 技能ごとの調査結果の分析	39
（1）読むこと ～Reading～	40
（2）聞くこと ～Listening～	50
（3）書くこと ～Writing～	58
（4）話すこと ～Speaking～	68
4 章 質問紙調査結果の分析	81
5 章 学校の実践紹介	109
6 章 終章	155
<関連資料>	163
（1）「英語教育改善のための英語力調査の分析・活用に関する 検討委員会」の設置	164
説明（趣旨、取扱事項、実施方法、実施期間、その他）、執筆協力者	
（2）本調査の背景に関する参考資料	166
（第2期教育振興基本計画、グローバル化に対応した英語教育改革実施計画など）	

<参考資料>

資料1：質問紙調査結果の分析（公立学校）	173
（1）生徒質問紙	174
（2）学校質問紙	183
（3）教員質問紙	185
資料2：質問紙調査結果と各技能のクロス集計（公立学校）	193
（1）生徒質問紙とリーディングのクロス集計結果	194
（2）生徒質問紙とリスニングのクロス集計結果	208
（3）生徒質問紙とライティングのクロス集計結果	222
（4）生徒質問紙とスピーキングのクロス集計結果	236
資料3：質問紙調査結果の分析（国立学校）	251
（1）生徒質問紙	252
（2）学校質問紙	261
（3）教員質問紙	263
資料4：質問紙調査結果と各技能のクロス集計（国立学校）	271
（1）生徒質問紙とリーディングのクロス集計結果	272
（2）生徒質問紙とリスニングのクロス集計結果	286
（3）生徒質問紙とライティングのクロス集計結果	300
（4）生徒質問紙とスピーキングのクロス集計結果	314

## 1章 調査の概要

## 1. 調査の目的

- 教育基本法に基づき策定された「第2期教育振興基本計画」（平成25年6月閣議決定）において、グローバル人材の育成に向けた取組として、外部検定試験を活用した生徒の英語力の把握検証などによる戦略的な英語教育改善の取組の支援を行うとともに、高等学校卒業段階における英語力の目標が成果指標として掲げられた<sup>1</sup>。
- 同年12月、文部科学省が公表した「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」において、小・中・高等学校の各学校段階を通じて英語教育を充実し、生徒の英語力を向上<sup>2</sup>することなどが提言されたことを踏まえ、フィージビリティ調査として本事業を実施した。
- 全国の無作為抽出による中学校第3学年約5.7万人（570校）を対象に、英語に関する4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）がバランスよく育成されているかという観点から本調査を実施し、生徒の英語力や英語の学習状況の把握・分析を通じて、学校における生徒への指導の充実や学習状況の改善に活用する。
- 平成27年度の現行学習指導要領で学んだ生徒に対する調査に引き続き、平成28年度も調査を実施し、経年比較を行う予定である。その分析結果を今後の英語教育の改善・充実に生かすこととしている。
- なお、本調査は、中学校における英語教育の多様性を踏まえ、世界標準に基づいて日本の中学生全体の英語力を測定するため、CEFR（Common European Framework of Reference for Languages：ヨーロッパ言語共通参照枠）を参照して測定することとした。

---

<sup>1</sup> 第2期教育振興基本計画（平成25年～29年度）においては、グローバル人材育成に関する成果指標として、次の目標が掲げられた。

①国際共通語としての英語力の向上

・学習指導要領に基づき達成される英語力の目標（中学校卒業段階：英検3級程度以上、高等学校卒業段階：英検準2級程度～2級程度以上）を達成した中高校生の割合50%

<sup>2</sup> 同実施計画においては、将来目指す生徒の英語力として、高等学校卒業時に英検2級～準1級、TOEFL iBT 57点程度以上が示された。その後、「英語教育の在り方に関する有識者会議」報告（平成26年9月）において、生徒の英語力を把握し、きめ細かな指導の改善・充実や生徒の学習意欲の向上につなげるため、従来設定されている英語力の目標（学習指導要領に沿って設定される目標（中学校卒業段階：英検3級程度以上、高等学校卒業段階：英検準2級程度から2級程度以上）を達成した中高校生の割合50%）だけでなく、高等学校段階の生徒の特性・進路などに応じた英語力、例えば、高等学校卒業段階で、英検2級～準1級、TOEFL iBT 60点前後以上などを設定し、生徒の英語力の把握・分析・改善を行うことが必要であるとの指摘がなされた。

## 2. 調査事項及び方法

### ア. 英語力調査

- ・学習指導要領に基づき、3技能（聞くこと、読むこと、書くこと）を対象とした試験を2単位時間の中で実施した（所要約75分）。
- ・「話すこと」については1校あたり1クラスを対象とし、1受験者あたり10分程度実施した。
- ・筆記テストの試験監督は、調査対象校の英語担当教員が担当した。「話すこと」の試験官は、調査対象校の英語担当教員が研修（送付された研修資料を使った事前研修）を経て担当した。

### イ. 質問紙調査（生徒、英語担当教員、学校）

- ・受験した生徒に対し、英語学習に関する関心・意欲や学習状況
  - ・調査対象校の英語担当教員に対し、指導や研修の参加状況
  - ・調査対象校に対し、指導計画の作成や研修の実施状況
- などについて質問紙調査を実施した。

### ウ. 学校の取組事例

- ・調査対象校のうち、調査結果において特徴があった学校の取組について調査した。

## 3. 調査期間、調査対象

調査期間：平成27年6月末～7月

※上記期間内において調査対象校が希望する日程で実施。なお、筆記テストの実施日と「話すこと」のテストの実施日を分けることも可能とした。

調査対象：全国の中学校及び中等教育学校前期課程の第3学年約5.7万人を対象に実施。

「話すこと」のテストについては約1.8万人（1校あたり1クラス）を対象に実施。

学校種別の参加生徒数は、以下のとおり。

- ① 公立学校：全国で無作為抽出した 497 校（約 4 万 7 千人）
- ② 国立学校：国立大学法人附属中学校及び中等教育学校（前期課程）  
73 校（約 1 万人）

（参加した学校数、生徒数及び回答した教員数）

	校数	教員数	生徒数	
			読むこと 聞くこと 書くこと	話すこと
公立学校	497	1,521	46,747	15,656
国立学校	73	267	9,998	2,803
合計	570	1,788	56,745	18,459

#### 4. 調査結果の解釈などに関する留意事項

本調査結果の解釈などについては、以下の点に留意されたい。

- ・本調査は、生徒に求められる英語力や学習状況について把握・分析を行うとともに、それらの結果を指導の改善に生かすことを目的としている。また、民間事業者により提供された試験を活用するものであり、調査の結果は、生徒に求められる英語力の一部、又は学校における教育活動の一側面に関するものである。したがって、学校が日常的に行う評価に加え、英語によるコミュニケーション能力の一つの指標として本調査結果をとらえるべきであることに留意した上で、効果的な指導改善に活用されたい。
- ・本調査において用いられた試験問題は、平成 27 年度と平成 28 年度との経年比較を行うため、原則非公開としている。ただし、指導改善のために活用できるよう、一部の問題については本報告書の中で公開して取り上げることにした。
- ・本報告書は、「英語教育改善のための英語力調査の分析・活用に関する検討委員会」（P.164 参照）の委員各位の協力を得て作成した。
- ・調査対象は市町村規模と学校規模をもとに抽出を行った。調査結果は母集団に対する標本の抽出率に応じて抽出ウェイトをかけて集計を行っている。そのため、度数分布の各度数とアンケート回答人数は実際の被験者数とは異なる。

## 5. 調査問題の構成

- 「読むこと」：多肢選択式・3パート構成・28問（32分）
- 「聞くこと」：多肢選択式・4パート構成・32問（18分）
- 「書くこと」：自由記述式・2パート構成・2問（25分）
- 「話すこと」：音読、即興を前提とするやりとり、ある程度準備をした上で話すことについて、それぞれ評価基準を設け、英語担当教員が面接を実施・3問（約10分）

### 〈問題構成の全体概要〉

	Reading 読むこと	Listening 聞くこと	Writing 書くこと	Speaking 話すこと
測定する力	<b>実際の言語使用場面を前提とした英語コミュニケーション能力</b> (「知識・技能」の習得だけでなく、それらを活用して思考・判断・表現する総合的な力)			
問題構成	<b>語彙・語法問題 10問</b> <small>(短文の中で、文脈を理解するとともに、文法的に、また語彙選択上最も適切な表現を正確に判断できる力)</small> ※A1相当	<b>イラスト説明問題 8問</b> <small>(視覚的情報をもとに、ある状況や場面、事物を描写説明した短文レベルの英文を正しく聞き分ける力)</small> ※A1相当	<b>空所補充英作文問題 1問</b> <small>(対話中の空所に当てはまる応答を文脈から判断し、適切な英文を用いて表現する力)</small> ※A1相当	<b>音読問題 1問</b> <small>(適切な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大ききで話す力)</small> ※A1～A2相当
	<b>情報検索問題 8問</b> <small>(与えられた英文の題材について、短時間で必要な情報を引き出す力)</small> ※A1相当	<b>会話応答問題 8問</b> <small>(不意の問いかけに応答する適切な英文を素早く判断し、処理できる力)</small> ※A1相当	<b>意見展開問題 1問</b> <small>(身近な事柄について、与えられたテーマに対して個人の経験や他の事例を元に意見と理由を述べる力)</small> ※A1～A2相当	<b>質疑応答問題 1問</b> <small>(試験官からの問いかけに応じて生徒自身の経験や考えを適切に述べる力)</small> ※A1～A2相当
	<b>概要把握問題 2問</b> <small>(与えられた英文の題材について、短時間で全体の概要を理解する力)</small> ※A1相当	<b>課題解決問題 8問</b> <small>(日本語で事前に与えられる状況設定及び視覚情報(イラスト)と音声情報から、その場で求められている課題(タスク)を解決する力)</small> ※A1相当		<b>意見陳述問題 1問</b> <small>(与えられた話題について、事実と自分の意見を区別して、論理的に説明する力)</small> ※A1～A2相当
	<b>要点理解問題 8問</b> <small>(まとまった量の英文について、英文の主旨に関する内容や詳細部分の要点を理解し、必要な情報を読み取る力)</small> ※A1～A2相当	<b>要点理解問題 8問</b> <small>(英文音声の中から、事前に与えられる英語の質問に答えるために必要な情報を選択し、求められている解答を導くために適切な判断をする力)</small> ※A1～A2相当		

### 〈参加した生徒・調査対象校の英語担当教員・調査対象校に対する質問紙調査の構成〉

項目	内容
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> <li>○英語に関する意識（英語学習への関心、英語をどの程度身に付けたいかなど）</li> <li>○英語の授業における言語活動の状況</li> <li>○英語の学習方法・内容や学習時間について</li> <li>○英語使用に関する経験（スピーチ、ディベート大会、イングリッシュキャンプ、留学など）</li> <li>○中学校入学後の英語の資格・検定試験の受験経験など</li> </ul>
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業における言語活動の指導状況（スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなど）</li> <li>○授業における英語の使用状況</li> <li>○校内外の研修への参加状況</li> <li>○自己学習の状況 など</li> </ul>
教員質問紙	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校内研修の状況（模擬授業、授業相互参観など）</li> <li>○校内研修への参加、活用状況 など</li> </ul>



## 6. 出題内容

### ■読むこと

出題形式：多肢選択式・3パート構成・28問

実施時間：32分

読むこと	分野	測定する力	CEFRレベル
Part A	語彙・語法問題	単文レベルの英文の中で、文脈的なつながりを理解し、かつ文法的に、また語彙選択上最も適切な表現を正確に判断できる力を測定	A1レベル相当
Part B	情報検索問題	与えられた英文の題材から、短時間で必要な情報を引き出す力（情報検索力）を測定	A1レベル相当
	概要把握問題	与えられた英文で述べられている情報や考えなどの概要を理解する力を測定	
Part C	要点理解問題	与えられた英文の題材について、短時間で概要や要点を読み取る力を測定	A1～2レベル相当

### ■聞くこと

出題形式：多肢選択式・4パート構成・32問

実施時間：18分

聞くこと	分野	測定する力	CEFRレベル
Part A	イラスト説明問題	イラストをもとに、ある場面や状況、事物を描写説明した英文を正しく聞き分ける力を測定	A1レベル相当
Part B	会話応答問題	事前予測ができる情報がない中で、会話的な不意の問いかけに対する適当な応答英文を素早く判断し、処理できる力を測定	A1レベル相当
Part C	課題解決問題	日本語で事前に与えられる状況設定およびイラストと放送される英文から、その場で求められているタスク（課題）を解決する力を測定	A1レベル相当
Part D	要点理解問題	一定以上の長さの英文音声の中から、事前に与えられる英文の質問に答えるために必要な情報を選択して引き出し、求められている解答を導くための適切な判断を行う力を測定	A1～A2レベル相当

## ■書くこと

出題形式：自由記述式・2パート構成・2問

実施時間：25分

書くこと	分野	測定する力	CEFRレベル
1	空所補充問題	対話文中の空所に当てはまる応答を前後の文脈から判断し、適切な英語を用いて表現する力を測定	A1レベル相当
2	意見展開問題	与えられたテーマに対して、限られた時間の中で自分の意見や考えを説得力を持って書いて表現する力を測定	A1～A2レベル相当

## ■話すこと

出題形式：音読・1問

即興を前提とするやりとり・1問

ある程度準備をした上で話すこと・1問

※調査対象校の英語担当教員が試験方法及び採点の事前研修をした上で面接を実施

実施時間：約10分

話すこと	分野	測定する力	CEFRレベル
Part A	音読問題	適切な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさで英語を話す力を測定	A1～A2レベル相当
Part B	質疑応答問題	受験者が見聞きしたり経験したりしたことなどに基づいて、質問に即興的に応答する力を測定	A1～A2レベル相当
Part C	意見陳述問題	与えられた話題について、個人の考えや経験などに基づいて自分の意見とその理由を述べる力を測定	A1～A2レベル相当

■質問紙

生徒への質問	<ul style="list-style-type: none"> <li>○英語に関する意識               <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語学習への関心</li> <li>・英語を身につけ何をしたいか 【国際社会で活躍，大学で専門的に学ぶ，海外留学，日常会話，高校入試など】</li> </ul> </li> <li>○英語使用の経験               <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生になってから経験したこと 【イングリッシュキャンプ，スピーチ大会，プレゼンテーション，留学，ホームステイなど】</li> </ul> </li> <li>○英語の資格・検定試験の受験経験</li> <li>○英語の学習時間・手段               <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習・復習時間，PC，タブレットなど機器</li> </ul> </li> <li>○4技能の活動状況               <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒同士で意見交換などを行っていたか</li> </ul> </li> </ul>
教員への質問	<ul style="list-style-type: none"> <li>○英語の授業での言語活動や指導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーチ，プレゼンテーション，ディベート，ディスカッションなど</li> </ul> </li> <li>○英語の授業での英語の使用状況</li> <li>○生徒が英語の授業でコミュニケーション活動を行っている割合</li> <li>○校内外の研修会への参加状況</li> <li>○自分の英語力を向上させるための取組               <ul style="list-style-type: none"> <li>・英字新聞を読む，テレビの英語講座，語学学校など</li> </ul> </li> <li>○英語の資格・検定試験の受験状況</li> </ul>
学校への質問	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研修の実施状況               <ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬授業，授業相互参観，事例研究など</li> </ul> </li> <li>○学校外研修の活用状況</li> <li>○言語活動に重点を置いた指導計画作成状況</li> </ul>

## 7. 「書くこと」及び「話すこと」の採点基準

### ■書くこと

空所補充問題	0点		1点	
	表現	英文が書かれていなかったり、文脈から外れたことを書いている。	文法上の誤りがほぼ見られず、ほぼ正しく、内容を伝えることができる。	

意見展開問題	内容・意見 課題に対する自分の意見や立場を伝えることができる。	0点		1点		2点		3点		4点	
		表現・語い	英文が書かれていなかったり、出題のテーマから外れたことを書いている。	自分の言いたいことを伝える語いを適切に選ぶことができなかつたり、使い方に誤りが見られたりするため、伝えたい内容を理解できないところが多くある。	自分の言いたいことを伝える語いを適切に選ぶことができなかつたり、使い方に誤りが見られたりするため、考えが十分に伝わらないところが部分的にある。	理解が困難となるような文法上の誤りが見られることがあるため、考えが十分に伝わらないところが部分的にある。	さまざまな語いを文脈に合わせて適切に選ぶことができている。また、使い方もほぼ正しく、十分に考えを伝えることができている。	豊富で多様な語いを文脈に合わせて適切に選ぶことができている。また、使い方も正しく、効果的に考えを伝えることができている。			
		表現・文法	英文が書かれていなかったり、出題のテーマから外れたことを書いている。	理解が困難となるような文法上の誤りが見られるところが多くある。	理解が困難となるような文法上の誤りが見られるところが多くある。	さまざまな文のパターンを用いることができている。また、使い方もほぼ正しく、十分に考えを伝えることができている。	豊富で多様な文のパターンを用いることができている。また、使い方も正しく、効果的に考えを伝えることができている。				
内容・理由	自分の意見や立場をサポートする理由や具体例などを伝えることができる。	英文が書かれていなかったり、出題のテーマから外れたことを書いている。	文と文とのつながりが悪かったり、言いたいことがうまくまとまっていなかつたりするため、読み手が混乱して伝えたい内容を理解できないところが多くある。	文と文とのつながりがよくなかつたり、言いたいことがうまくまとまっていなかつたりするため、読み手が混乱して考えが十分に伝わらないところが部分的にある。	文と文とのつながりがよく、文章全体の流れもほぼ自然で、十分に考えを伝えることができている。	文と文とのつながりがよく、文章全体の流れが自然で一貫しており、考えを明確に伝えることができている。					
構成											

### ■話すこと

配点		0点	1点	2点	3点
Part A 音読	音読の評価	適切に発音できる内容は限定的で、聞き手が理解するのに困難が伴う。	母語アクセントが残っていたり、発音ミスも時があるが、聞き手がある程度理解できる発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを話している。	明瞭で自然な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを話している。	
	内容の評価	相手の発話に対応した適切な内容でほとんど応答できない。	相手の発話に対応した適切な内容で応答できているのは半分以下である。	相手の発話に対応した適切な内容で、おおよそ応答できている。	相手の発話に対応した適切な内容で、すべてに応答できている。
Part B 質疑応答	文法、表現の評価	使える文法や表現は限定的である、あるいは、適切な内容でほとんど応答することができない。	時制の誤りなど基本的なミスが繰り返し出てくるが、平易な表現は正しく使っていて、伝えたい内容はだいたいわかる。	ほぼ適切に内容で、文法や表現に誤りは出てくるが、伝えたい内容はわかる。	適切に内容で、適切な文法や表現を用いて話している。誤りがあっても理解には影響しない。
	内容、構成の評価	与えられた質問に対応した内容になっていない、あるいは内容が量的にほとんどないか断片的である。	与えられた質問に対応した内容となっているが、単純な要素を並べ立てている。	与えられた質問に対応した内容となっているが、単純な要素を関連づけて述べている。	与えられた質問に対応した内容となっているが、論理展開がわかりやすい構成となっている。
Part C 意見陳述	文法、表現の評価	使える文法や表現は限定的である、あるいは自分の言葉で話した内容が十数語に満たない。	自分の言葉で十数語以上は話して、時制の誤りなど基本的なミスが繰り返し出てくるが、平易な表現は正しく使っていて、伝えたい内容はだいたいわかる。	自分の言葉で十数語以上は話して、文法や表現に誤りは出てくるが、伝えたい内容はわかる。	自分の言葉で十数語以上は話して、適切な文法や表現を用いている。誤りがあっても理解には影響しない。

## 8. CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）を参照した分析方法

本調査における CEFR レベルの算出は、「生徒質問紙」に掲載の「英語 CAN-DO アンケート」への回答結果をもとに分析した。「英語 CAN-DO アンケート」の各アンケート項目は、文部科学省・科学研究費助成事業の CEFR-J 研究開発チーム（代表：投野由紀夫）の研究成果を用いた。CEFR の読むこと、聞くこと、書くこと、話すこと（発表）、話すこと（やりとり）の各 A1～A2 レベルに対応した CAN-DO 記述をベースにしつつ、A1 レベルは3段階に、また A2 レベルを2段階に細分化し、さらに Pre-A1 レベルを追加した。

### ○「英語 CAN-DO アンケート」で用いた CEFR レベル段階数：

A2 レベル→ A2.1、A2.2 の2段階（A2.1 よりも A2.2 が高いレベル）

A1 上位レベル→A1.2、A1.3 の2段階（A1.2 よりも A1.3 が高いレベル）

A1 下位レベル→Pre-A1、A1.1 の2段階（Pre-A1 よりも A1.1 が高いレベル）

※P. 14～15 参照

また、各アンケート項目への回答は、以下の例のような4つの選択肢の中から当てはまるものを1つずつ回答する形式とした。

### ○アンケート質問例：

簡単な英語で表現されていれば、旅行ガイドブック、レシピなど実用的・具体的で内容が予想できるものから必要な情報を探することができる。

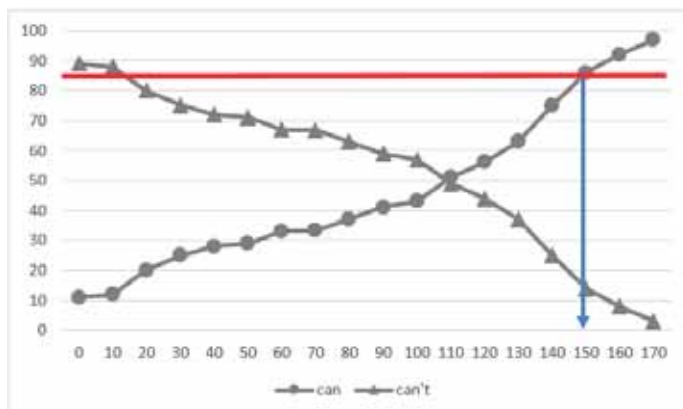
- ① 経験したことがあり、できる
- ② 経験したことはあるが、できない
- ③ 経験したことはないが、できると思う
- ④ 経験したことがなく、できないと思う

集計に当たっては、各アンケート項目で記述している言語活動が「できる (can)」と判定する方法を以下の基準に従って求め、「できる (can)」と判定された回答者 (=受験者) の英語テストのスコアと CEFR レベルとの閾 (しきい) 値を設定した。

○ 閾値の設定方法：

- ・「英語 CAN-DO アンケート」への各回答のうち、「経験したことがあり、できる」と「経験したことはないが、できると思う」の二つを当該言語活動が「できる (can)」の回答とみなし、「経験したことはあるが、できない」と「経験したことがなく、できないと思う」の二つを当該言語活動が「できない (can't)」の回答とみなした。
- ・アンケート回答者のスコアが高まるにつれて、「できない (can't)」の回答割合が減少していき、一方で「できる (can)」の回答割合が増加する。そこで、アンケート回答の「できる (can)」の割合が 85%<sup>3</sup>を上回っている CEFR レベルを抽出して、英語テストの技能別スコア帯に対応した CEFR レベルとした。
- ・英語テストの技能別スコア帯に対応した CEFR レベルを決定する際、A1 レベルを細分化した 3 段階のうち 2 段階目、また A2 レベルを細分化した 2 段階のうち、より高い 2 段階目のアンケート項目において「できる (can)」の割合が 85%を上回っている CEFR レベルを、英語テストの技能別スコア帯に対応した CEFR レベルとした。

※図はイメージであり、実際のデータではない。



左記を例にとると、該当するアンケート項目に対して、「できる (can)」の回答が 85%を上回るスコア帯は 150 点となるため、これを閾 (しきい) 値とした。

<sup>3</sup> 本調査における cut point の設定については、これまでの様々な調査結果から「中学生は高校生よりも自分の能力を過大評価する傾向にあること」がわかっており、85%を選択した。なお、これよりももっと高いところに cut point を設定すれば更に確実性は高まるが、一方で学習者が「できる」と言えることが減少していくことを想定した。

【参考】CEFR-J ディスクリプター (A1.1~B2.2 のみ抜粋)

○読むこと

A1.1	A1.2	A1.3	A2.1	A2.2	B1.1	B1.2	B2.1	B2.2
「駐車禁止」・「飲食禁止」等の日常生活で使われる非常に短い簡単な指示を読み、理解することができる。	簡単なポスターや招待状等の日常生活で使われる非常に短い簡単な文章を読み、理解することができる。	簡単な語を用いて書かれた、スポーツ・音楽・旅行など個人的な興味のあるトピックに関する文章を、イラストや写真も参考にしながら理解することができる。	簡単な語を用いて書かれた人物描写、場所の説明、日常生活や文化の紹介などの、説明文を理解することができる。	簡単な英語で表現されている、旅行ガイドブック、レシピなど実用的・具体的で内容が予想できるものから必要な情報を採ることができる。	学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事の要点を理解することができる。	インターネットや参考図書などを調べて、文章の構成を意識しながら、学業や仕事に関係ある情報を手に入れることができる。必要であれば時に辞書を用いて、図表と関連づけながら理解することができる。	現代の問題など一般の関心の高いトピックを扱った文章を、辞書を使わずに読み、複数の視点の相違点や共通点を比較しながら読むことができる。	記事やレポートなどのやや複雑な文章を一読し、文章の重要度を判断することができる。精密な読みが必要と判断した場合は、読む速さや読み方を変えて、正確に読むことができる。

○聞くこと

A1.1	A1.2	A1.3	A2.1	A2.2	B1.1	B1.2	B2.1	B2.2
当人に向かって、ゆっくりはっきりと話されれば、「立て」「座れ」「止まれ」といった短い簡単な指示を理解することができる。	趣味やスポーツ、部活動などの身近なトピックに関する短い話を、ゆっくりはっきりと話されれば、理解することができる。	ゆっくりはっきりと話されれば、自分自身や自分の家族・学校・地域などの身の回りの事柄に関連した句や表現を理解することができる。	ゆっくりはっきりと話されれば、公共の乗り物や駅や空港の短い簡単なアナウンスを理解することができる。	スポーツ・料理などの一連の行動を、ゆっくりはっきりと指示されれば、指示通りに行動することができる。	外国の行事や習慣などに関する説明の概要を、ゆっくりはっきりと話されれば、理解することができる。	自然な速さの録音や放送（天気予報や空港のアナウンスなど）を聞いて、自分に興味のある、具体的な情報の大部分を聞き取ることができる。	自然な速さの標準的な英語で話されている、テレビ番組や映画の母語話者同士の会話の要点を理解できる。	非母語話者への配慮としての高語速の調整がなされていなくても、母語話者同士の多様な会話の流れ（テレビ、映画など）についていくことができる。

○書くこと

A1.1	A1.2	A1.3	A2.1	A2.2	B1.1	B1.2	B2.1	B2.2
住所・氏名・職業などの項目がある表を埋めることができる。	簡単な語や基礎的な表現を用いて、身近なこと（好き嫌い、家族、学校生活など）について短い文章を書くことができる。	自分の経験について、辞書を用いて、短い文章を書くことができる。	日常的・個人的な内容であれば、招待状、私的な手紙、メモ、メッセージなどを簡単な英語で書くことができる。	身の回りの出来事や趣味、場所、仕事などについて、個人的経験や自分に直接必要な領域での事柄であれば、簡単な描写ができる。	自分に直接関わりのある環境（学校、職場、地域など）での出来事を、身近な状況で使われる語彙・文法を、ある程度まとまりのあるかたちで、描写することができる。	新聞記事や映画などについて、専門的でない語彙や複雑でない文法構造を用いて、自分の意見を含めて、あらすじをまとめたり、基本的な内容を報告したりすることができる。	自分の専門分野であれば、メールやファックス、ビジネス・レターなどのビジネス文書、感情の度合いをある程度含め、かつ用途に合った適切な文体で、書くことができる。	自分の専門分野や関心のある事柄であれば、複雑な内容を含む報告書や論文などを、原因や結果、仮定的な状況も考慮しつつ、明確かつ詳細な文章で書くことができる。

○話すこと（発表）

A1.1	A1.2	A1.3	A2.1	A2.2	B1.1	B1.2	B2.1	B2.2
基礎的な語句、定型表現を用いて、限られた個人情報（家族や趣味など）を伝えることができる。	前もって発話することを意識した上で、限られた身近なトピックについて、簡単な語や基礎的な句を限られた構文を用い、簡単な意見を言うことができる。	前もって発話することを意識した上で、限られた身近なトピックについて、簡単な語や基礎的な句を限られた構文を用い、複数の文で意見を言うことができる。	一連の簡単な語句や文を使って、自分の趣味や特技に触れながら自己紹介をすることができる。	写真や絵、地図などの視覚的補助を利用しながら、一連の簡単な語句や文を使って、自分の毎日の生活に関連のあるトピック（自分のこと、学校のこと、地域のことなど）について、短いスピーチをすることができる。	使える語句や表現を覚えて、自分の経験や夢、希望を順序だてて、話しを広げながら、ある程度詳しく語るることができる。	短い読み物か短い新聞記事であれば、ある程度の流暢さをもって、自分の感想や考えを加えながら、あらすじや要点を順序だてて伝えることができる。	ある視点に賛成または反対の理由や代替案などをあげて、事前に用意されたプレゼンテーションを聴衆の前で流暢に行うことができ、一連の質問にもある程度流暢に対応することができる。	要点とそれに関連する詳細の両方に焦点を当てながら、流暢にプレゼンテーションができ、また、あらかじめ用意されたテキストから自然にはなれて、聴衆が興味のある点に対応してプレゼンテーションの内容を調整し、そこでもかなり流暢に容易に表現できる。

○話すこと（やりとり）

A1.1	A1.2	A1.3	A2.1	A2.2	B1.1	B1.2	B2.1	B2.2
なじみのある定型表現を使って、時間・日にち・場所について質問したり、質問に答えたりすることができる。	基本的な語や言い回しを使って日常のやりとり(何ができるかできないかや色についてのやりとりなど)、において単純に回答することができる。	趣味、部活動などのなじみのあるトピックに関して、はっきりと話されれば、簡単な質疑応答をすることができる。	順序を表す表現である first, then, nextなどのつなぎ言葉や「右に曲がって」や「まっすぐ行って」などの基本的な表現を使って、単純な道案内をすることができる。	簡単な英語で、意見や気持ちをやりとりしたり、賛成や反対などの自分の意見を伝えたり、物や人を比べたりすることができる。	身近なトピック(学校・趣味・将来の希望)について、簡単な英語を幅広く使って意見を表明し、情報を交換することができる。	病院や市役所といった場所において、詳細にまた自信を持って、問題を説明することができる。関連する詳細な情報を提供して、その結果として正しい処置を受けることができる。	ある程度なじみのあるトピックならば、新聞・インターネットで読んだり、テレビで見たニュースの要点について議論することができる。	一般的な分野から、文化、学術などの、専門的な分野まで、幅広いトピックの会話に積極的に参加し、自分の考えを正確かつ流暢に表現することができる。

【参考】CEFR (Common European Framework of Reference for Languages :

ヨーロッパ言語共通参照枠)

- CEFR は、語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために、透明性が高く、包括的な基盤を提供するものとして、2001年に欧州評議会 (Council of Europe) が発表した。現在、欧州域内外で使われている。
- 欧州域内では、国により、CEFR の「共通参照レベル」が、初等教育、中等教育を通じた目標として適用されたり、欧州域内の言語能力に関する調査を実施する際に用いられたいしている。

熟練した言語使用者	C2	聞いたり読んだりした、ほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構築できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができる。
	C1	いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文章を理解できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会生活を営むため、また学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文章を作ることができる。
自立した言語使用者	B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。
	B1	仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいいてい事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。
基礎段階の言語使用者	A2	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。
	A1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができる。住んでいるところや、誰と知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。



【参考】各種試験団体のデータによるCEFRとの対照表

CEFR	Cambridge English	英検	GTEC CBT	GTEC for STUDENTS	IELTS	TEAP	TOEFL iBT	TOEFL Junior Comprehensive	TOEIC / TOEIC S&W
C2	CPE (200+)				8.5-9.0				
C1	CAE (180-199)	1級 (2810-3400)	1400		7.0-8.0	400	95-120		1305-1390 L&R 945~ S&W 360~
B2	FCE (160-179)	準1級 (2596-3200)	1250-1399	980 L&R&W 810	5.5-6.5	334-399	72-94	341-352	1095-1300 L&R 785~ S&W 310~
B1	PET (140-159)	2級 (1780-2250)	1000-1249	815-979 L&R&W 675-809	4.0-5.0	226-333	42-71	322-340	790-1090 L&R 550~ S&W 240~
A2	KET (120-139)	準2級 (1635-2100)	700-999	565-814 L&R&W 485-674	3.0	186-225		300-321	385-785 L&R 225~ S&W 160~
A1		3級-5級 (790-1875)	-699	-564 L&R&W -484	2.0				200-380 L&R 120~ S&W 80~

英検：日本英語検定協会 <http://www.eiken.or.jp/forteachers/data/cefr/>  
[http://www.eiken.or.jp/association/info/2014/pdf/0901/20140901\\_gpressrelease\\_01.pdf](http://www.eiken.or.jp/association/info/2014/pdf/0901/20140901_gpressrelease_01.pdf)

TOEFL：米國ETS <http://www.ets.org/Media/Research/pdf/RM-15-05.pdf?WT.ac=cklb>

IELTS：ブリタニカ・カンシム（および日本英語検定協会）資料より

TEAP：第1回 英語力の評価及び入試における外部試験活用に関する検討会 吉田研作教授資料より

Cambridge English（ケンブリッジ英検）：ケンブリッジ大学英語検定機構 <http://www.cambridgeenglish.org/exams-and-qualifications/cefr/cefr-exams/>  
<http://www.cambridgeenglish.org/exams/cambridge-english-scale/>

GTEC：ベネッセコーポレーションによる資料より  
 (L&R&W)の記載が無い数値が4技能の合計点

TOEIC：IDRC <http://www.toeic.or.jp/toeic/about/result.html>  
 (L&R)または(S&W)の記載が無い数値が4技能の合計点

※各団体の公表資料より文部科学省において作成

## 2章 調査結果の概要

## 1. 国立・公立学校全体の技能別調査結果

○「書くこと」「話すこと」の CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）<sup>1</sup> A1 上位以上の割合は 30~40%程度、「読むこと」「聞くこと」の割合は 20%程度である。

※本調査対象の中学3年生は、平成23年度に必修化された、小学校の外国語活動を経験した生徒。

○「書くこと」の得点者は全体の85%以上（無解答：12.5%）、「話すこと」の得点者は全体の約97%（無解答：2.9%）となっている。

### 【国立・公立学校全体のスコア分布】

<読むこと>				<聞くこと>				<書くこと>				<話すこと>				
Reading		平成27年度		Listening		平成27年度		Writing		平成27年度		Speaking		平成27年度		
CEFR	得点	人数	割合	CEFR	得点	人数	割合	CEFR	得点	人数	割合	CEFR	得点	人数	割合	
A2	170	32148	3.2%	A2	170	22749	2.3%	A2	95	0	0.2%	A1 上位	14	18314	33.0%	
A1 上位	160	11982	23.4%	A1 上位	160	9277	18.4%	A2	90	0	0.2%	A1 上位	13	17685	33.0%	
	150	14212			150	13593			85	0			12	20943		
	140	18473			140	20951			80	28			11	20153		
	130	25901			130	28026			75	134			10	24448		
	120	36390			120	43820			70	1510			9	23390		
	110	52923			110	67274			65	5985			8	24253		
	100	72876			100	104438			60	30987			7	26748		
A1 下位	90	99537	73.3%	A1 下位	90	143648	79.3%	A1 上位	55	42620	43.6%	A1 下位	6	27021	67.0%	
	80	123353			80	174551			50	55783			5	28066		
	70	131888			70	166106			45	83750			4	20341		
	60	123685			60	111394			40	17392			3	23515		
	50	99011			50	51753			35	98147			2	11652		
	40	77209			40	21332			30	92696			1	12222		
	30	43803			30	6657			25	77102			0	9006		
	20	18699			20	2511			20	68738			平均スコア	7.4		
	10	9333			10	2541			15	27045			0点	9,006		2.9%
	0	2310			0	3121			10	87080			調査対象	307,756		
平均スコア	83.1	調査対象	993,742	平均スコア	90.9	調査対象	993,742	平均スコア	28.7	0点	124,318	12.5%				
								調査対象	997,153							

<sup>1</sup> CEFR は、語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために、透明性が高く、包括的な基盤を提供するものとして、2001年に欧州評議会（Council of Europe）が発表した。現在、欧州域内外で使われている。欧州域内では、国により、CEFRの「共通参照レベル」が、初等教育、中等教育を通じた目標として適用されたり、欧州域内の言語能力に関する調査を実施する際に用いられたりしている。本調査ではテスト設計上、CEFRのA1～A2までのレベルを「読むこと」及び「聞くこと」は10点刻み、「書くこと」は5点刻み、「話すこと」は1点刻みで設定し、スコア分布の状況を見ることとした。

※第2期教育振興基本計画においては、生徒の英語力の目標を、中学校卒業段階：英検3級程度（CEFRのA1レベル）以上、高等学校卒業段階：英検準2級程度～2級程度（同A2～B1レベル）以上を達成した中高校生の割合が50%としている。

## 2. 公立学校の技能別調査結果及び課題と指導改善のポイント

○公立学校における「書くこと」「話すこと」のCEFR A1 上位以上の割合は 30~40%程度、「読むこと」「聞くこと」の割合は 20%程度。

※本調査対象の中学3年生は、平成23年度に必修化された、小学校の外国語活動を経験した生徒。

○「書くこと」の得点者は全体の85%以上（無解答：12.6%）、「話すこと」の得点者は全体の約97%（無解答：約3.0%）となっている。

### 【公立学校のスコア分布】

<読むこと>				<聞くこと>				<書くこと>				<話すこと>			
Reading		平成27年度		Listening		平成27年度		Writing		平成27年度		Speaking		平成27年度	
CEFR	得点	人数	割合	CEFR	得点	人数	割合	CEFR	得点	人数	割合	CEFR	得点	人数	割合
A2	170	29751	<b>3.0%</b>	A2	170	20920	<b>2.1%</b>	A2	95	0	<b>0.1%</b>	A1 上位	14	17694	<b>32.6%</b>
A1 上位	160	11417	<b>23.1%</b>	A1 上位	160	8713	<b>18.1%</b>	90	0	A1 上位		13	17221		
	150	13558			150	12915		A2	85	0		A1 上位	12	20525	
	140	17780			140	20081		A2	80	20		A1 上位	11	19837	
	130	25113			130	27065		A2	75	111		A1 上位	10	24180	
	120	35536			120	42781		A1 上位	70	1,342		A1 上位	9	23200	
110	52016	<b>73.9%</b>	A1 下位	110	66200	<b>79.8%</b>	A1 上位	65	5,463	A1 下位	8	24094			
100	72067			100	103445		A1 上位	60	29,181	A1 下位	7	26597			
90	98810			90	142805		A1 上位	55	40,866	A1 下位	6	26921			
80	22758			80	173988		A1 上位	50	54,332	A1 下位	5	28002			
70	31467			70	165773		A1 下位	45	82,315	A1 下位	4	20323			
60	23406	<b>56.7%</b>	A1 下位	60	111255	<b>43.1%</b>	A1 下位	40	116,251	A1 下位	3	23500			
50	98874			50	51704		A1 下位	35	97,538	A1 下位	2	11642			
40	77130			40	21314		A1 下位	30	92,319	A1 下位	1	12219			
30	43771			30	6647		A1 下位	25	76,900	A1 下位	0	8999			
20	18676			20	2509		A1 下位	20	68,606	平均スコア	7.4				
10	9321	10	2533	0	3108	A1 下位	15	26,999	0点	8,999	<b>3.0%</b>				
0	2306	0	0	平均スコア	90.5	A1 下位	10	86,955	調査対象	304,953					
平均スコア	82.6	983,756		平均スコア	90.5	調査対象	983,756	調査対象	987,155						
調査対象	983,756			調査対象	983,756			調査対象	987,155						
								平均スコア	28.5						
								0点	124,230	<b>12.6%</b>					
								調査対象	987,155						

課題と指導改善のポイント (◇…相当数の生徒ができている点 ◆…課題のある点)

### 読むこと

- ◇短文レベルの語彙・語法問題 (Part A) や、概要把握問題 (Part B) の中には、正解率が 50%を超えるものもある。
- ◆英文全体の意味を把握し、文脈や前後関係を押さえながら読むことに課題がある。
- ◆英文を読む際に、概要を把握する、詳細の情報を読み取るなど、読む目的を意識することに課題がある。
- ◆まとまった量の英文を読み、必要な情報を読み取ることに課題がある。

### ☞指導改善のポイント

- 逐語的な読みから脱却し、英文を意味のかたまりとしてとらえる活動を行う。
- 学習者のレベルに合った文章をたくさん読む活動を行う。
- 目的に合わせて英文を読む活動を行う。

### 聞くこと

- ◇短い英文で、問われている語句が直接示されている場合は、それを認識して正しく理解することができる。
- ◆語句単位など断片的な理解はできているが、文全体および文脈で意味を把握することに課題がある。
- ◆まとまった英文から必要な情報を聞き取ることに課題がある。

### ☞指導改善のポイント

- 多様な表現をインプット・アウトプットする活動を行う。
- 聞くポイントを事前に示したり、聞く場面や状況を明確にしたりするなど、目的を持って聞く活動を行う。

### 書くこと

- ◇設問 2 について、テーマ自体の身近さもあり、全体の 70%を超える生徒が自分の「考え」、60%以上の生徒が自分の考えに対する「理由」を書くことができています。A1 下位レベルでも約 50%の生徒が自分の「考え」、約 40%の生徒が「理由」を書くことができています。

- ◆文脈に沿った内容を適切に表現することができていない。
- ◆観点「内容」「表現」「構成」の中では、「構成」の得点がほかよりやや低い結果となっている。文を作ることはできても、まとまりのある文章を書くことに課題がある。

#### ☞指導改善のポイント

- 英文を書く機会を増やす工夫を行う。
- 文脈に沿った内容を書く指導の工夫を行う。
- 求められている内容を適切に表現し、読み手に伝わる英文を書く指導の工夫を行う。

#### 話すこと

- ◇7割弱の生徒が、与えられた40語程度の英文を、母語アクセントが残っていたり、一部発音ミスがあったりするが、聞き手がある程度理解できる発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを発話することができる。
- ◇45%の生徒が、基本的で身近な話題に関する即興的な質問について、相手の発話に対応した適切な内容で、おおむね応答できていた。
- ◆約6割の生徒は、基本的で身近な話題に関する即興的な質問について、伝えたい内容はおおむね伝わるものの、時制の誤りなど基本的なミスが繰り返し出てくる、もしくは使える文法や表現が限定的な解答であった。
- ◆約8割の生徒は、与えられた質問について、ある程度の準備をした上で、個人の考えや経験に基づいて、意見、理由などの要素を関連づけながら考えを述べることに課題がある。

#### ☞指導改善のポイント

- 生徒に話す活動をさせた後は、それで終わらず、必ず教員からフィードバックをしたり、生徒が振り返ったりする機会を設ける。
- まずは簡単なチャットから、即興的なやりとりを行う機会を増やす。
- 話す活動を段階的に行うにあたっては、表現の例や、会話を展開するための話の流れのフォーマットを提示する。
- 生徒にとってできるだけ興味・関心のある話題・内容を扱い、「相手に伝える」ことを重視した活動とする。

### 3. 公立学校の質問紙調査結果

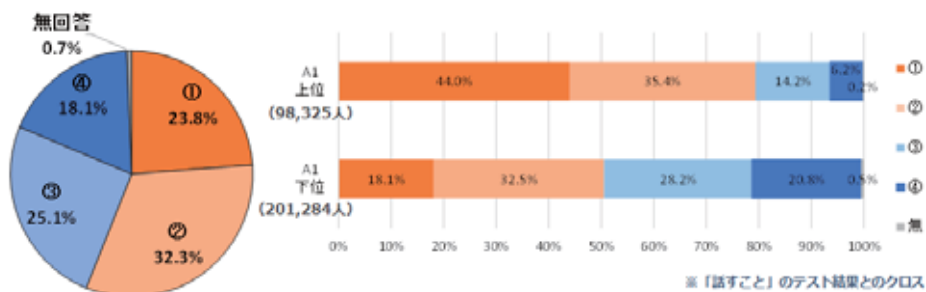
#### ① 生徒質問紙調査結果の主な特徴

##### 【英語学習に対する意識】

- 「英語が好きではない」（選択肢③④合計）との回答が、43.2%。
- 「話すこと」のテストスコアが高いほど、「英語が好きである」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

No. 1 英語の学習は好きですか。最も当てはまる選択肢を1つ選んでください。

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない

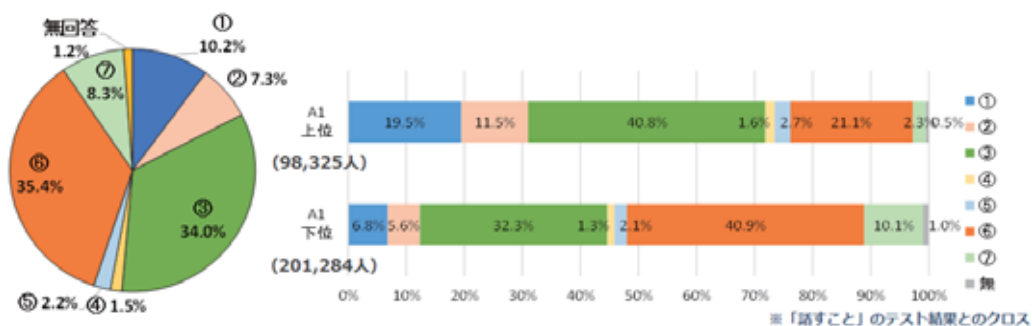


##### 【現在の英語力と将来の英語使用のイメージ】

- 現在の英語力のレベルによって将来の英語使用のイメージが異なる。「どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか」という問いに対し、「話すこと」のテストスコアが高いほど、「英語を使って、国際社会で活躍できるようになりたい」（選択肢①）「海外でのホームステイや語学研修を楽しめるようになりたい」（選択肢②）を選択する生徒の割合が高い。

No. 2 どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか。最も当てはまるものを1つ選んで下さい。

① 英語を使って、国際社会で活躍できるようになりたい ② 海外でのホームステイや語学研修を楽しめるようになりたい  
 ③ 海外旅行などをするとときに、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しめるようになりたい  
 ④ 高校卒業後に、海外の大学などに進学できるようになりたい ⑤ 大学で自分が専攻する学問を英語で学べるようになりたい  
 ⑥ 高校入試に対応できる力を付けたい ⑦ 特に学校の授業以外での利用を考えていない



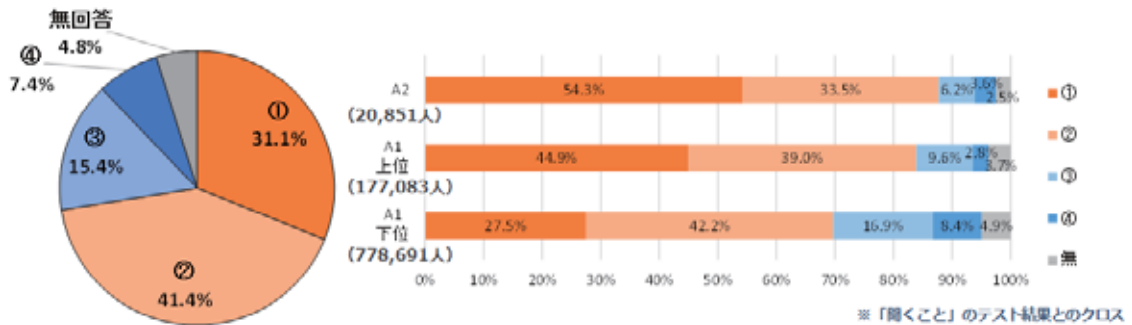
#### 【4技能の言語活動に対する生徒の意識】

##### < 4技能を通じた言語活動に対する生徒の意識「聞くこと」 >

- 英語を聞いて、概要や要点をとらえる活動をしていた(選択肢①②合計)生徒は、72.5%。
- 「聞くこと」のテストスコアが高いほど、授業において「英語を聞いて、(一文一文ではなく全体の) 概要や要点をとらえる活動をしていたと思う」(選択肢①②合計) 生徒の割合が高い。

No.10-(2) 第2学年の英語の授業では、英語を聞いて、(一文一文ではなく全体の) 概要や要点をとらえる活動をしていると思いますか。

①そう思う    ②どちらかといえば、そう思う    ③どちらかといえば、そう思わない    ④そう思わない

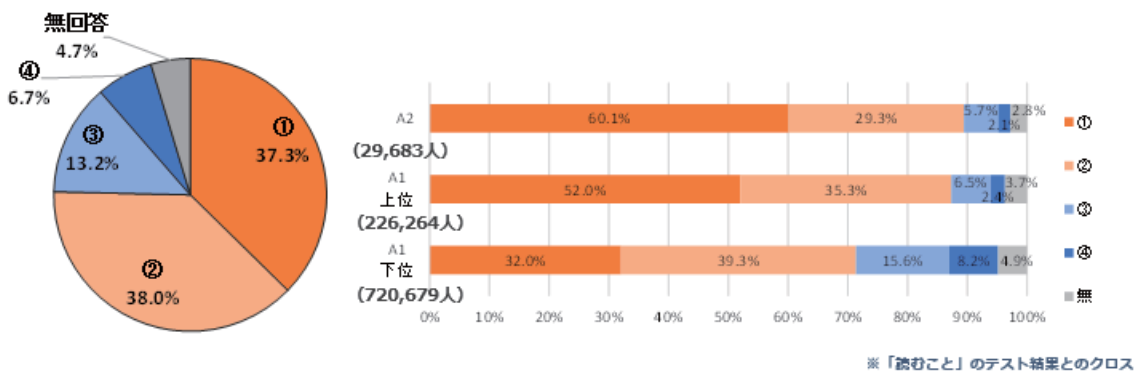


##### < 4技能を通じた言語活動に対する生徒の意識「読むこと」 >

- 英語を読んで、概要や要点をとらえる活動をしていた(選択肢①②合計)生徒は、75.3%。
- 「読むこと」のテストスコアが高いほど、授業において「英語を読んで、(一文一文ではなく全体の) 概要や要点をとらえる活動をしていたと思う」(選択肢①②合計) 生徒の割合が高い。

No.11-(2) 第2学年での英語の授業では、英語を読んで、(一文一文ではなく全体の) 概要や要点をとらえる活動をしていると思いますか。

①そう思う    ②どちらかといえば、そう思う    ③どちらかといえば、そう思わない    ④そう思わない



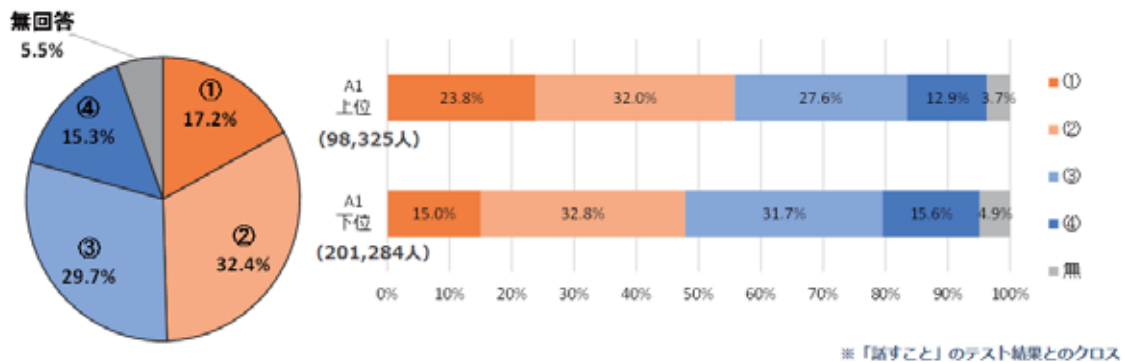


< 4技能を通じた言語活動に対する生徒の意識「話すこと」 >

- 与えられた話題について、即興で話す活動をしていた（選択肢①②合計）生徒は、49.6%。
- 「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「与えられた話題について、即興で話す活動をしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

No.13-(2) 第2学年での英語の授業では、与えられた話題について、（特に準備をすることなく）即興で話す活動をしていたと思いますか。

①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない

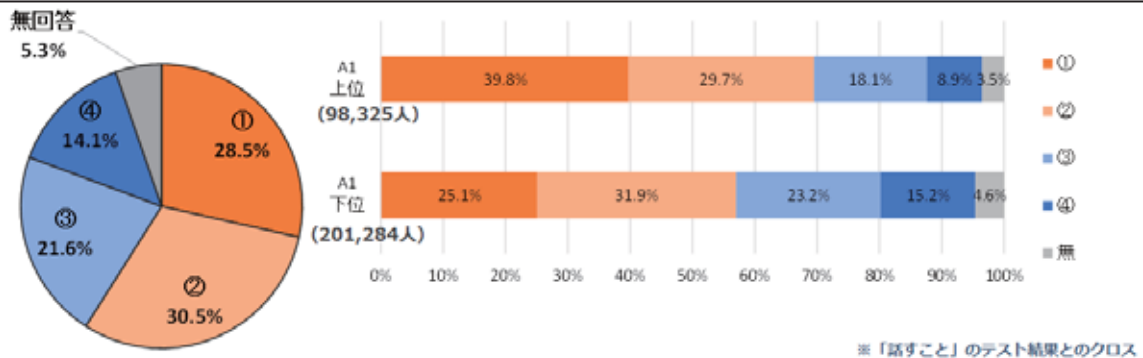


< 4技能を通じた言語活動に対する生徒の意識「話すこと」 >

- 英語でスピーチやプレゼンテーションをする活動をしていた（選択肢①②合計）生徒は、59.0%。
- 「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

No.15-(2) 第2学年での英語の授業では、英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思いますか。

①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない



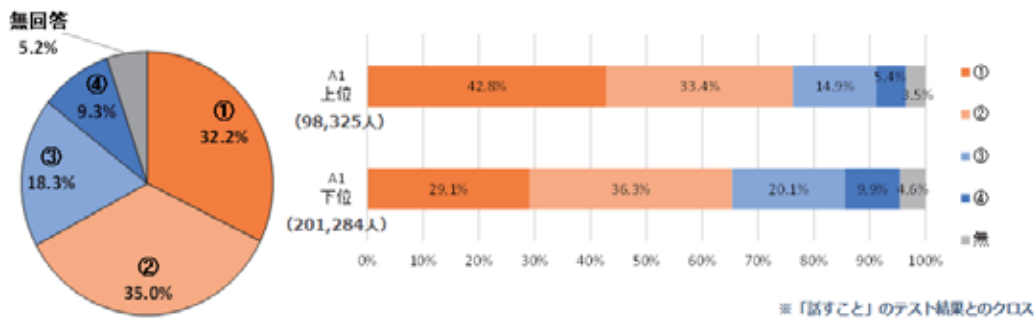
< 4技能を通じた言語活動に対する生徒の意識（技能統合型：聞いたり読んだりして話すこと） >

○ 聞いたり読んだりしたことについて、英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動をしていた（選択肢①②合計）生徒は、67.2%。

○ 「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

No.12-(2) 第2学年での英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりしていたと思いますか。

①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない



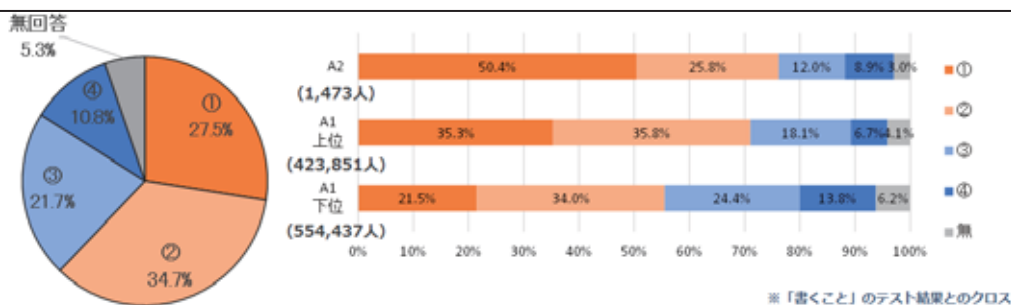
< 4技能を通じた言語活動に対する生徒の意識（技能統合型：聞いたり読んだりして書くこと） >

○ 聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動をしていた（選択肢①②合計）生徒は、62.2%。

○ 「書くこと」のテストスコアが高いほど、授業において「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

No.14-(2) 第2学年での英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思いますか。

①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない



## ②教員質問紙調査結果の主な特徴

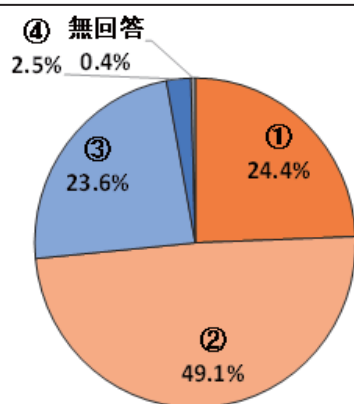
### 【授業における言語活動の指導に対する教員の意識】

#### <授業における言語活動の指導「聞くこと」>

○ まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取る活動を行っている（選択肢①②合計）教員は、73.5%。

No.1-(5) まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取る活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

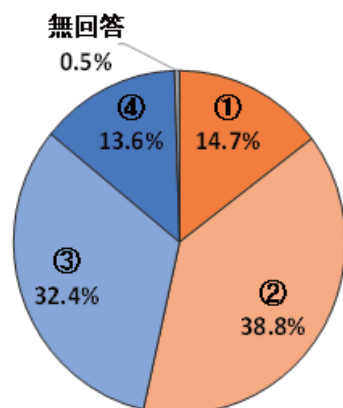


#### <授業における言語活動の指導「話すこと」>

○ スピーチを行っている（選択肢①②合計）教員は、53.5%。

No.1-(9) 与えられたテーマについて簡単なスピーチをする活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

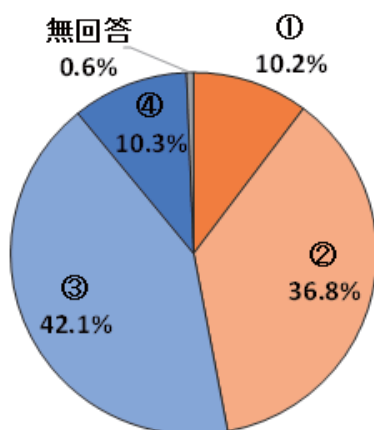


<授業における言語活動の指導「読むこと」>

○ 伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じる活動を行っている（選択肢①②合計）教員は、47.0%。

No. 1-(13) 伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じる活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

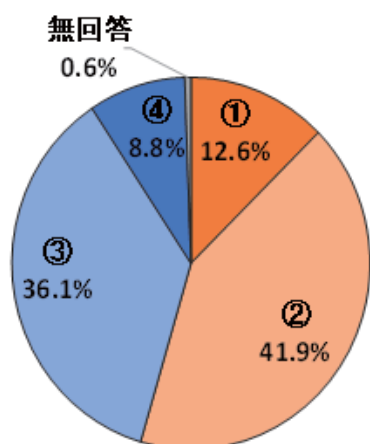


<授業における言語活動の指導「書くこと」>

○ 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書く活動を行っている（選択肢①②合計）教員は、54.5%。

No.1-(19) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書く活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない



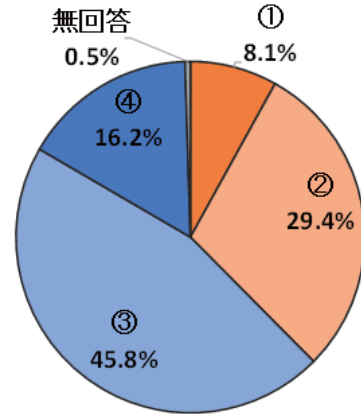
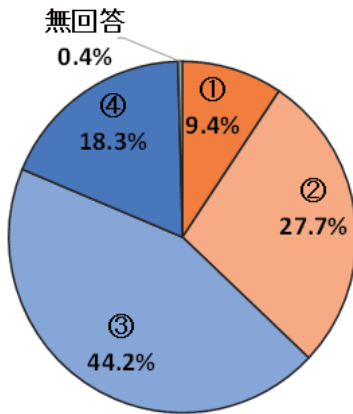
＜授業における言語活動の指導（技能統合型：聞いたり読んだりしたことに基づく話し  
いや意見交換・書く活動）＞

○ 聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話し合いや意見交換を行っている（選択肢①②の合計）教員は、37.1%、書く活動を行っている（選択肢①②合計）教員は、37.5%。

No.1-(7) 聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどする活動を行っていますか。

No.1-(17) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどする活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

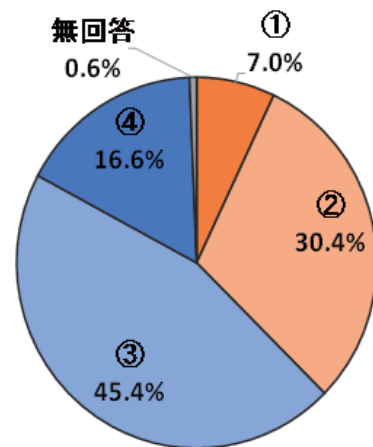


＜授業における言語活動の指導（技能統合型：感想を述べたり賛否やその理由を示すため、英語を読んで概要や要点をとらえる活動）＞

○ 英語を読んで、感想を述べたり賛否やその理由を示すことができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえる活動をしている（選択肢①②合計）教員は、37.4%。

No.1-(14) 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえる活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している  
③あまりしていない ④ほとんどしていない



#### 4. 国立学校の技能別調査結果及び課題と指導改善のポイント

- 国立学校における「読むこと」「聞くこと」「書くこと」「話すこと」の4技能において  
CEFR A1 上位以上の割合が70%以上となっており公立学校よりも高い。
- 「書くこと」「話すこと」の無解答はいずれも1%未満となっている。

##### 【国立学校のスコア分布】

<読むこと>				<聞くこと>				<書くこと>				<話すこと>				
Reading		平成27年度		Listening		平成27年度		Writing		平成27年度		Speaking		平成27年度		
CEFR	得点	人数	割合	CEFR	得点	人数	割合	CEFR	得点	人数	割合	CEFR	得点	人数	割合	
A2	170	2397	24.0%	A2	170	1829	18.3%	A2	95	0	2.0%	A1 上位	14	620	74.4%	
A1 上位	160	565	52.8%	A1 上位	160	564	51.9%	A2	90	0	2.0%	A1 上位	13	464	74.4%	
	150	654			150	678			85	0			12	418		
	140	693			140	870			80	8			11	316		
	130	788			130	961			75	23			10	268		
	120	854			120	1039			70	168			9	190		
	110	907			110	1074			65	522			8	159		
	100	809			100	993			60	1,896			7	151		
A1 下位	90	727	23.2%	A1 下位	90	843	29.8%	A1 上位	55	1,754	87.2%	A1 下位	6	100	25.6%	
	80	595			80	563			50	1,451			5	64		
	70	431			70	333			45	1,435			4	18		
	60	279			60	139			40	1,141			3	15		
	50	137			50	49			35	609			2	10		
	40	79			40	18			30	377			1	3		
	30	32			30	10			25	202			0	7		
	20	23			20	2			20	132			平均スコア	11.1		0.2%
	10	12			10	8			15	46			0点	7		
	0	4			0	13			0	163			調査対象	2,803		
平均スコア	128.6	調査対象	9,986	平均スコア	128.7	調査対象	9,986	平均スコア	49.9	調査対象	9,998	0点	88	0.9%		

### 3. 国立学校の質問紙調査結果

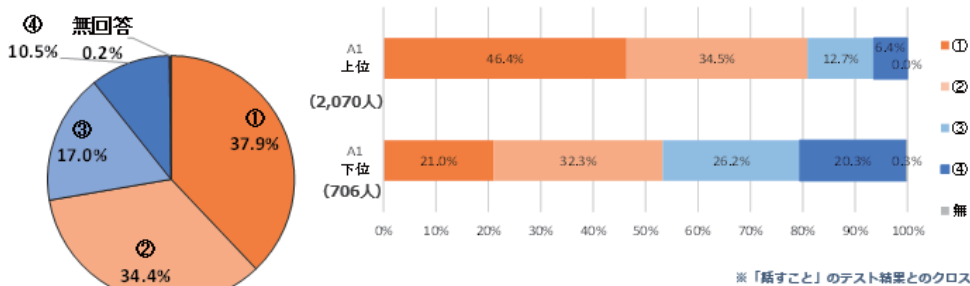
#### ① 生徒質問紙調査結果の主な特徴

##### 【英語学習に対する意識】

- 「英語が好きではない」（選択肢③④合計）との回答が、27.5%。
- 「話すこと」のテストスコアが高いほど、「英語が好きである」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

No. 1 英語の学習は好きですか。最も当てはまる選択肢を1つ選んでください。

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない

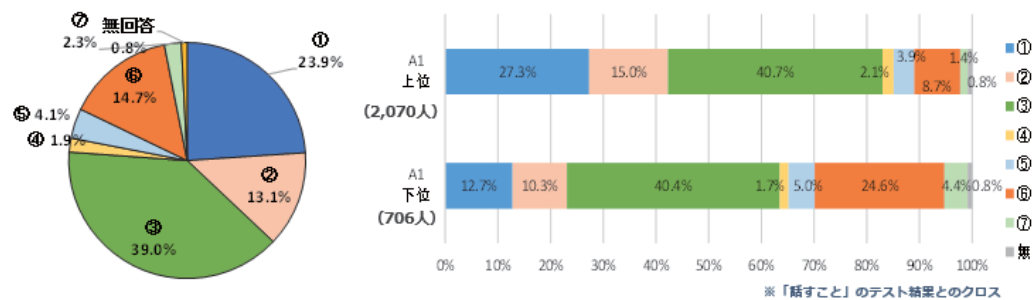


##### 【現在の英語力と将来の英語使用のイメージ】

- 現在の英語力のレベルによって将来の英語使用のイメージが異なる。「どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか」という問いに対し、「話すこと」のテストスコアが高いほど、「英語を使って、国際社会で活躍できるようになりたい」（選択肢①）「海外でのホームステイや語学研修を楽しめるようになりたい」（選択肢②）を選択する生徒の割合が高い。

No. 2 どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか。最も当てはまるものを1つ選んで下さい。

① 英語を使って、国際社会で活躍できるようになりたい  
 ② 海外でのホームステイや語学研修を楽しめるようになりたい  
 ③ 海外旅行などをするとときに、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しめるようになりたい  
 ④ 高校卒業後に、海外の大学などに進学できるようになりたい  
 ⑤ 大学で自分が専攻する学問を英語で学べるようになりたい  
 ⑥ 高校入試に対応できる力を付けたい  
 ⑦ 特に学校の授業以外での利用を考えていない

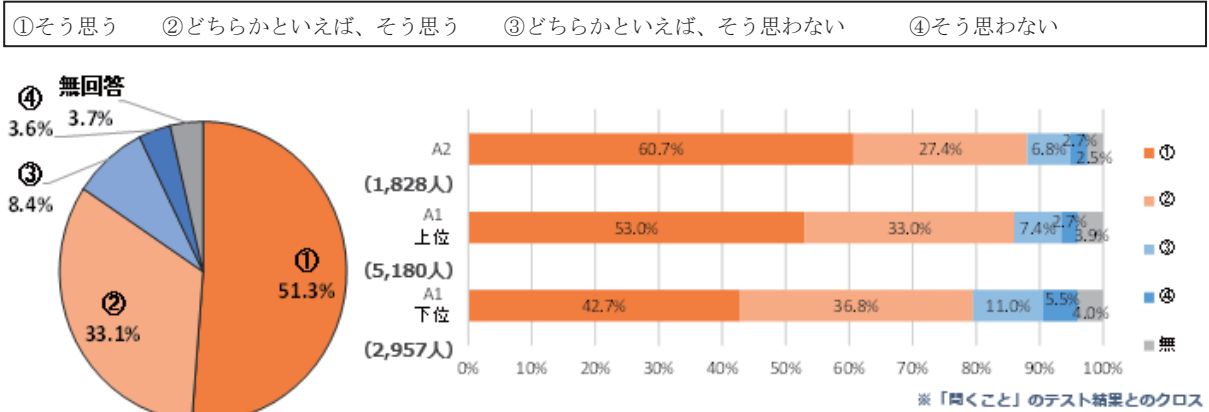


## 【4技能の言語活動に対する生徒の意識】

### < 4技能を通じた言語活動に対する生徒の意識「聞くこと」 >

- 英語を聞いて、概要や要点をとらえる活動をしていた(選択肢①②合計)生徒は、84.4%。
- 「聞くこと」のテストスコアが高いほど、授業において「英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

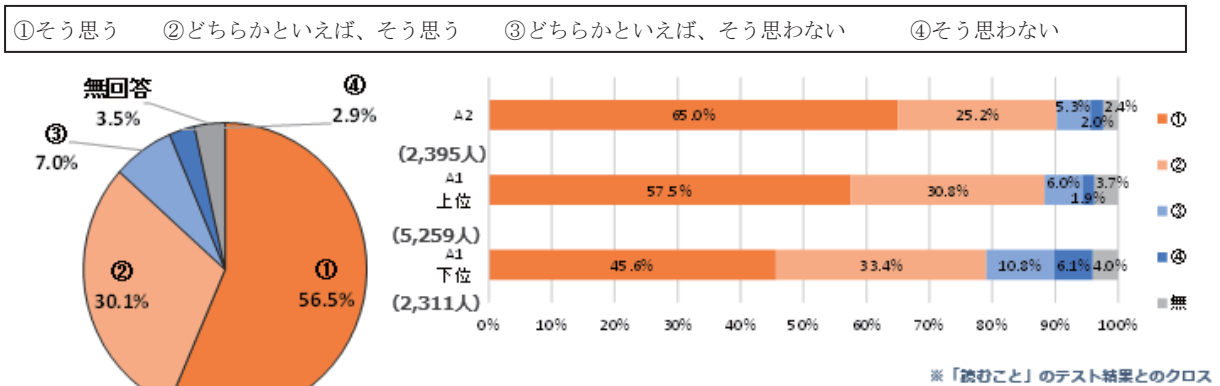
No.10-11 第2学年の英語の授業では、英語を聞いて、（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていると思いますか。



### < 4技能を通じた言語活動に対する生徒の意識「読むこと」 >

- 英語を読んで、概要や要点をとらえる活動をしていた(選択肢①②合計)生徒は、86.6%。
- 「読むこと」のテストスコアが高いほど、授業において「英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

No.11-14 第2学年での英語の授業では、英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていると思いますか。



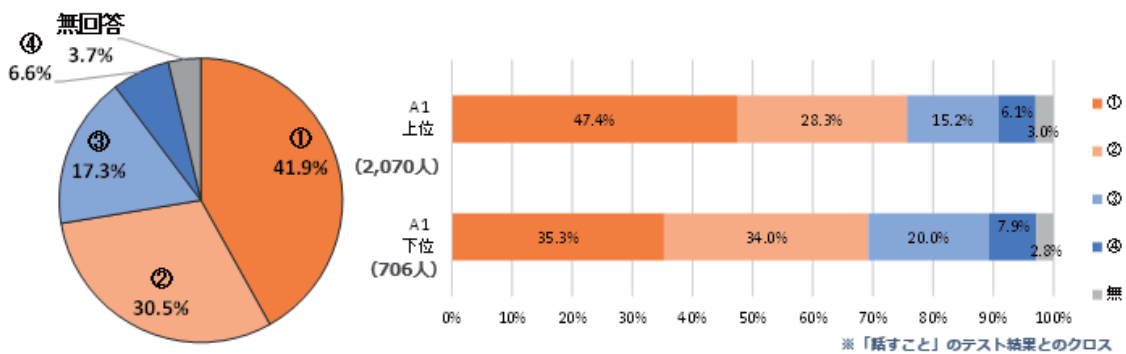


< 4技能を通じた言語活動に対する生徒の意識「話すこと」 >

- 与えられた話題について、即興で話す活動をしていた（選択肢①②合計）生徒は、72.4%。
- 「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「与えられた話題について、即興で話す活動をしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

No.13-20 第2学年での英語の授業では、与えられた話題について、（特に準備をすることなく）即興で話す活動をしていましたか。

①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない

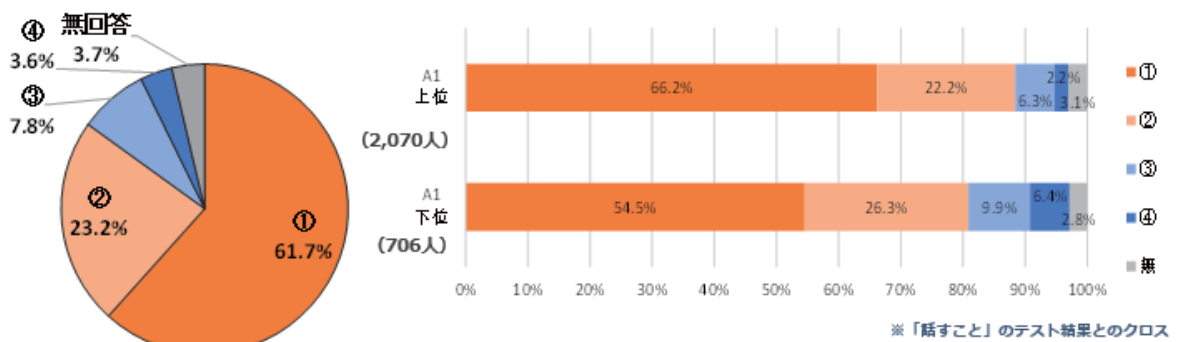


< 4技能を通じた言語活動に対する生徒の意識「話すこと」 >

- 英語でスピーチやプレゼンテーションをする活動をしていた（選択肢①②合計）生徒は、84.9%。
- 「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

No.15-26 第2学年での英語の授業では、英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思いますか。

①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない



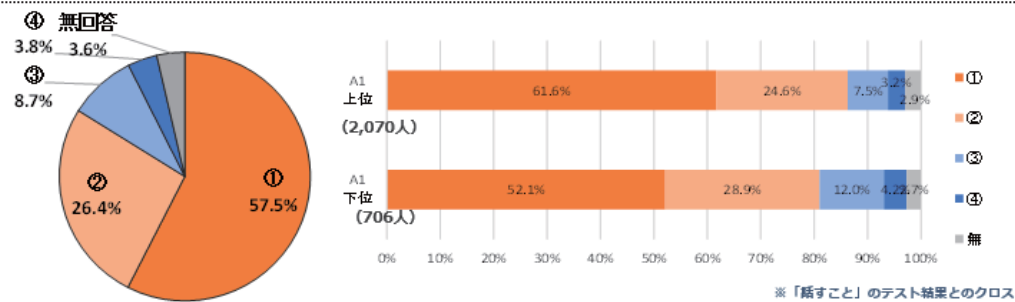
< 4技能を通じた言語活動に対する生徒の意識（技能統合型：聞いたり読んだりして話すこと） >

○ 聞いたり読んだりしたことについて、英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動をしていた（選択肢①②合計）生徒は、83.9%。

○ 「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

No.12-17 第2学年での英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりしていたと思いますか。

- ① そう思う    ② どちらかといえば、そう思う    ③ どちらかといえば、そう思わない    ④ そう思わない



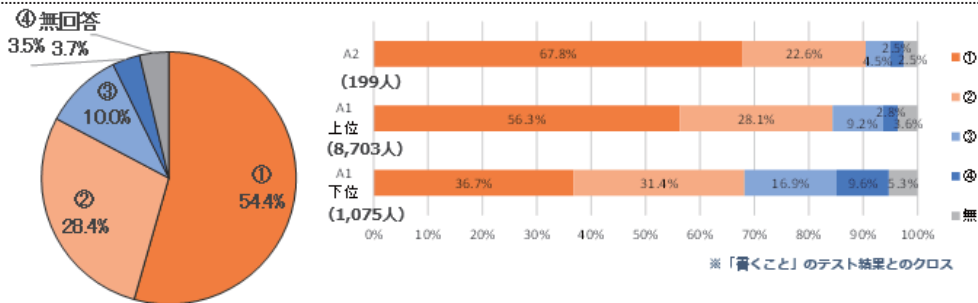
< 4技能を通じた言語活動に対する生徒の意識（技能統合型：聞いたり読んだりして書くこと） >

○ 聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動をしていた（選択肢①②合計）生徒は、82.8%。

○ 「書くこと」のテストスコアが高いほど、授業において「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

No.14-23 第2学年での英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思いますか。

- ① そう思う    ② どちらかといえば、そう思う    ③ どちらかといえば、そう思わない    ④ そう思わない



## ②教員質問紙調査結果の主な特徴

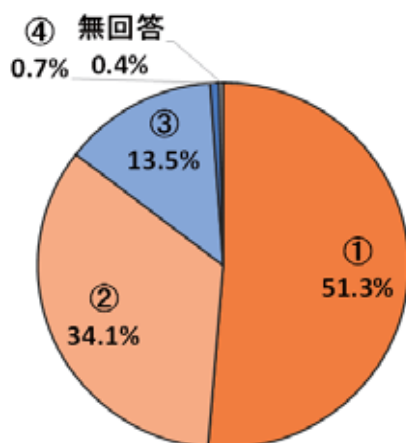
### 【授業における言語活動の指導に対する教員の意識】

#### <授業における言語活動の指導「聞くこと」>

- まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取る活動を行っている（選択肢①②合計）教員は、85.4%。

No.1-(5) まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取る活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

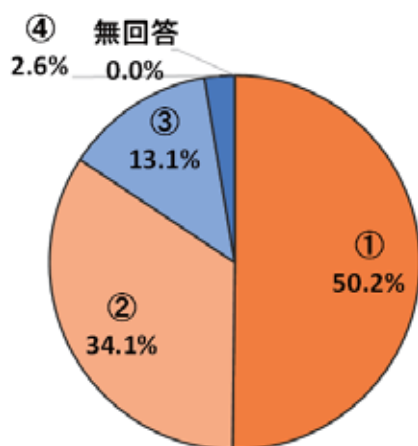


#### <授業における言語活動の指導「話すこと」>

- スピーチを行っている（選択肢①②合計）教員は、84.3%。

No.1-(9) 与えられたテーマについて簡単なスピーチをする活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

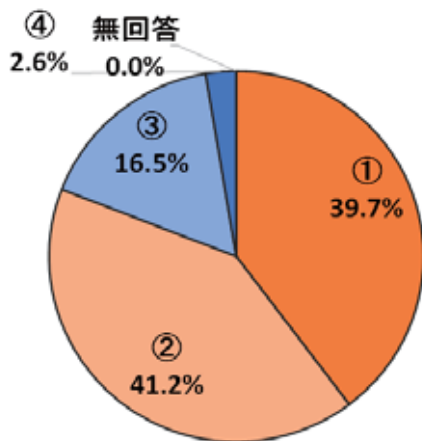


<授業における言語活動の指導「読むこと」>

○ 伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じる活動を行っている（選択肢①②合計）教員は、80.9%。

No. 1-(13) 伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じる活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

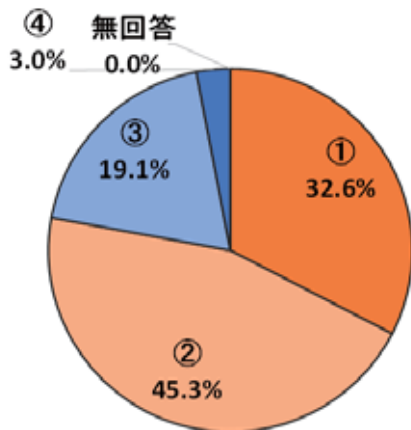


<授業における言語活動の指導「書くこと」>

○ 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文章を書く活動を行っている（選択肢①②合計）教員は、77.9%。

No.1-(9) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書く活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない



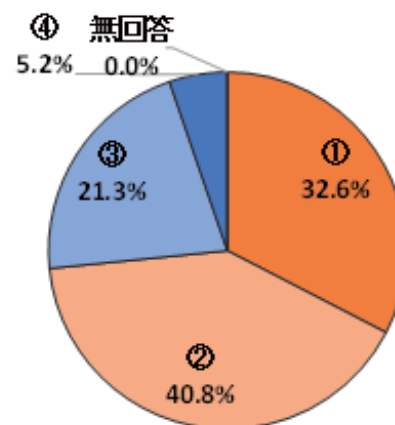
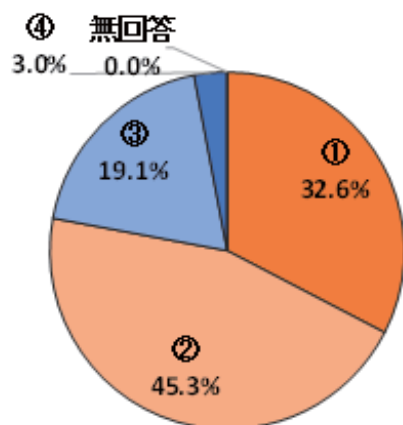
<授業における言語活動の指導<技能統合型:聞いたり読んだりしたことに基づく話し合いや意見交換・書く活動>>

○ 聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話し合いや意見交換を行っている（選択肢①②の合計）教員は、77.9%、書く活動を行っている（選択肢①②合計）教員は、73.4%。

No.1-(7) 聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどする活動を行っていますか。

No.1-(17) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどする活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

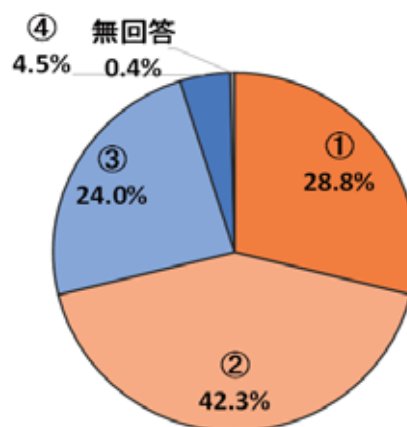


<授業における言語活動の指導<技能統合型:感想を述べたり賛否やその理由を示すため、英語を読んで概要や要点をとらえる活動>>

○ 英語を読んで、感想を述べたり賛否やその理由を示すことができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえる活動をしている（選択肢①②合計）教員は、71.1%。

No.1-(14) 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえる活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している  
③あまりしていない ④ほとんどしていない







### **3章 技能ごとの調査結果の分析**

**(1) 読むこと ～ Reading ～ . . . 40**

**(2) 聞くこと ～ Listening ～ . . . 50**

**(3) 書くこと ～ Writing ～ . . . 58**

**(4) 話すこと ～ Speaking ～ . . . 68**

※本章で扱うデータは、特に注記がない限り、公立学校の調査対象校のものとする。



## (1) 読むこと ～ Reading ～

### 1. 学習指導要領における内容

① 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ることができる。

### 2. 本調査において当技能で問うている力

Part A 「語彙・語法問題」…短文中の空所に適切な語を補う問題で、文脈を理解するとともに、文法的に最も適切な表現を判断する力を測定している。

Part B 「情報検索問題」…与えられた英文の題材について、短時間で必要な情報を引き出す力（情報検索力）を測定する問題で、上記学習指導要領における①の力を見ている。

Part B 「概要把握問題」…与えられた英文の題材について、短時間で全体の概要を理解する力を測定する問題で、上記学習指導要領における①の力を見ている。

Part C 「要点理解問題」…まとまった量の英文について、英文の趣旨に関する内容や詳細部分の要点を理解し、必要な情報を読み取る力を測定する問題で、上記学習指導要領における①の力を見ている。

### 3. 課題など（◇…相当数の生徒ができている点 ◆…課題のある点）

以下の内容は、約 70%の生徒が該当する A1 下位レベルの特徴である。

#### 読むこと

◇短文レベルの語彙・語法問題（Part A）や、概要把握問題（Part B）の中には、正解率が 50%を超えるものもある。

◆英文全体の意味を把握し、文脈や前後関係を押さえながら読むことに課題がある。

◆英文を読む際に、概要を把握する、詳細の情報を読み取るなど、読む目的を意識することに課題がある。

◆まとまった量の英文を読み、必要な情報を読み取ることに課題がある。

## 4. 指導改善のポイント

### 読むこと

#### ○逐語的な読みから脱却し、英文を意味のかたまりとしてとらえる活動

普段の授業において、単語や短文の正確な理解を目指す指導を積み重ねるだけでは、文章全体を理解する力が十分には身に付かない。教科書の本文であれば、最初から詳細な読みに入るのではなく、英文を意味のかたまりごとで大枠でとらえて読み取らせる指導が必要である。語彙については、その単語がどのような場面で、またどのようなニュアンスで使用されるのかを意識しながら、実際にコミュニケーションの中で使うなどの活動を取り入れることで、「理解 (input)」を「取り込み (intake)」につなげることができ、英語を読む際だけでなく、聞く、話す、書く際にも役立つであろう。

#### ○学習者のレベルに合った文章をたくさん読む活動

教科書での指導以外にも、学習者のレベルに合った英文をできるだけたくさん読む活動が求められる。英語に接する時間を個人学習も含めて多く取らせることができるように指導を工夫したい。英文素材については、生徒にとって身近なトピック（学校生活、スポーツ、食べ物、旅行など）を選び、イラストや写真などを補助としながら理解する活動を取り入れたい。その際、未知語は読みの妨げにならない程度に少量にとどめる必要がある。未知語については、前後の文脈からどのような意味をもつのかを生徒同士で連想したり、教師が問いかけたりする活動などを行い、その意味を知らなくても周辺の情報から内容を押さえながら読み進めるスキルを身に付けさせたい。

#### ○目的に合わせて英文を読む活動

教師質問紙 No.1-(12)の「物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取る活動を行っていますか」という問いに対して、公立学校全体（3年生）で82.0%（選択肢①と②の合計）がそうした活動を行っていると回答している。「読むこと」の指導は、これまで「内容を正確に読み取る」ことに多くの時間が割かれてきたと言える。しかし、現実のコミュニケーションの場面では、それぞれ様々な目的があって読むことが通常であり、「内容を正確に読み取る」以外にも、「内容を大づかみする」「必要な情報のみ検索する」などの読み方を求められることも多い。英文にあたる際は、読む目的を示し、目的に沿った活動や発問を工夫したい。例えば、「必要な情報のみ検索する」読みの活動の際は、求めている情報以外の部分はあまり重視することなく活動を終えることも必要であろう。

## 5. 問題詳細分析

### Part A Question 6

6 Tom didn't like playing baseball at first, \_\_\_\_\_ he's starting to enjoy it now.

[A] and

[B] but

[C] or

[D] so

※ Copyright © 2016 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

#### ■出題の趣旨・形式

短文中の空所に適切な語を補う問題で、文脈を理解するとともに、文法的に最も適切な表現を判断する。

#### ■解答類型と反応率

Q. 6

選択肢	A1 下位レベル反応率	A1 上位レベル反応率
A	12.0%	2.1%
B (正解)	44.6%	88.0%
C	9.3%	0.4%
D	28.8%	9.3%
無解答	5.4%	0.3%

## ■分析結果と課題

英文の内容を理解して、選択肢の中から空所にあてはまる適切な語句を選ぶ設問である。このような設問では、一文全体に目を通して、話の内容や流れを理解した上で、その文脈にあてはまる語句を選ぶ必要がある。この問いでは、空所の前の情報と空所の後の情報の逆接の関係に着目し、選択肢[B] but を選ぶ必要があった。A1 下位レベルの正解率は 44.6%、一方で、A1 上位レベルの正解率は 88.0%と 43.4 ポイントの差がある。A1 下位レベルの誤答は、選択肢 [D] が最も多く 28.8%であった。空所の前の情報に対して、空所の後の情報が逆接的な関係にあることがとらえられていない。

以上より、A1 下位レベルの課題は、短文における話の流れや複数の情報相互の論理関係を理解する力が弱いことにあると思われる。

## ■学習指導に当たって

英文を逐語的に理解するのではなく、文全体として何を言っているのかを理解する指導が必要である。英文を読む際には、個々の単語の意味にとらわれすぎずに、英文の意図を問う活動を取り入れたい。また、語彙指導においては、実際に使用場面を意識して身に付けられるような活動も必要であろう。

英文読解においては、逐語的に読んだり、振り返りをしたりする習慣から脱却するために、英文を意味のまとまり（チャンク）としてとらえたり、振り返りをせず前から理解しながら読むスキルを身に付けておきたい。意味のまとまりを意識させ、それを教師のモデルについて音読したりなどの活動が考えられる。単なる英文の読み上げで終わることなく、適切な場所で区切りながら読んでいるかを活動中に確認することも忘れないでおきたい。

今回の出題で言えば、空所の前後の情報を正確に踏まえて、正しい接続詞を選べるかどうかポイントであった。授業内の活動においては、教師がある一文の前半部分と接続詞だけを与えておき、接続詞から後ろの内容を生徒が自由に想像して、表現する活動などが効果的である。例えば、“I like baseball, but…”と教師が英文を提示し、生徒が、“(I like baseball, but) I don't like soccer.”や“(I like baseball, but) I played soccer yesterday.”などといったことを自由に話したり書いたりする。同様に、“I like baseball, so…”という英文も提示し、“(I like baseball, so) I am in the baseball club.”や“(I like baseball, so) I am going to play it with my friends tomorrow.”などの表現をする活動をすれば、二つの接続詞の意味の違いが真に理解でき、読解の際にも、次に来る話題を予測しながら読むことができるようになるであろう。また、このような活動をしておくことで、読解だけでなく、実際に話したり書いたりする場面でも正しく使用できるようになると思われる。

## Part B Question 20

Libraries have many books that you can borrow. Did you know your library may also have useful information about your town's history? For example, it may have maps, newspapers and pictures from a long time ago. These will help you understand the history of your town. So, please visit your local library. You can get to know your town better!

20 これは主に何について書かれていますか。

- [A] How to borrow books at a library.
- [B] How to find pictures of your town.
- [C] Where to buy maps and newspapers.
- [D] Where to learn about local history.

※ Copyright © 2016 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

### ■出題の趣旨・形式

与えられた英文の題材について、短時間で全体の概要を理解する。

### ■解答類型と反応率

Q. 20

選択肢	A1 下位レベル反応率	A1 上位レベル反応率
A	37.3%	24.5%
B	16.4%	8.6%
C	18.7%	4.1%
D (正解)	25.9%	62.8%
無解答	1.8%	0.1%

### ■分析結果と課題

この設問では、詳細の読みをするのではなく、英文にざっと目を通し、概要をつかむ問題である。A1 下位レベルの正解選択肢 [D] の選択率は 25.9%であり、一方で、A1 上位レベルの正解率は 62.8%と 36.9 ポイントの差がついた。A1 下位レベルの誤答は、選択肢 [A] が 37.3%と最も多かった。一文目に “Libraries have many books that you can borrow.” とあり、選択肢 [A] に borrow という単語があるため、それに引きずられて、最後まで読み通さず選択肢 [A] を選択したことが原因の一つと考えられる。

以上より、A1 下位レベルは、本設問のように、最後まで読み通して、英文の流れを大ま

かに押さえながら概要を把握することに課題があると言える。

### ■学習指導に当たって

教科書本文以外にも、適切なレベルの英文素材を初見で与え、大まかな内容について、簡単な問いを投げかけたり、生徒同士で Q&A したりなどして概要を把握する活動などが効果的と思われる。このような活動は、第 1 学年の早い時期から取り入れたい。

具体的には、ペア・ワークなどで二人が力を合わせながら読み進め、概要把握した内容を確認し合ったり発表したりする活動などが考えられる。また、グループごとに異なる素材を与え、グループ内で概要の把握・確認を行った上で、別のグループの生徒とペアを組み、相手に話の概要を簡潔に伝えるなどの活動も考えられる。このような活動を通して、概要を把握することが求められる読み方においては、1 語 1 語の意味を辞書で確認するのではなく、内容が大まかに押さえられていればよいということを実感させたい。

第 1 学年のレベルでは、短めの英文から始め、慣れてくるにしたがって語数を増やしていくとよい。英文素材は生徒の興味・関心にあったトピック（学校生活、スポーツ、食べ物、旅行など）を選定する必要がある。なじみの薄いトピックは避けるほうが望ましいが、絵や写真を使って少しでも興味がわくように工夫する方法もある。英文素材に関しては、インターネット、ニュースや英文雑誌等で題材のヒントを得ることもでき、中学生用に易しく書き換えるなどして学習段階に合ったものを使用したい。

Part C Question 21, 24

Mr. Norton, the third grade science teacher, coaches the baseball team and plays the piano at school shows. After the last day of school, he's going to go to a country in Africa for a year to help build a school there.

His students want to get him a present, so they have collected a hundred dollars. Two of the students, Ken and Mary, are in charge of choosing the present.

"We have so much money," says Mary. "What should we get him?"

"Nothing heavy," says Ken. "Why don't the two of us make a calendar? We can use photos of Mr. Norton and the students for each month."

Mary says, "Great idea! I'll ask everyone to write a few words for him on the calendar."

"It won't cost much, so what should we do with the rest of the money?" asks Ken.

Mary answers, "Let's use it to buy books for the school in Africa."

"Sounds nice," says Ken. "Actually, I'm worried about the calendar. Will it be finished in time for his goodbye party?"

Mary answers, "No problem, it's three weeks away. I know I'll miss his lessons, but I can't wait for the party. It'll be fun!"

21 Why is Mr. Norton going to Africa?

- [A] To coach baseball at a school.
- [B] To help build a school.
- [C] To play the piano at a school.
- [D] To teach science at a school.

22 Every student in Ken and Mary's class will \_\_\_\_\_.

- [A] buy books about Africa for Mr. Norton
- [B] order a calendar for their class
- [C] take a photo of their teachers
- [D] write a message for Mr. Norton

23 Why is Ken worried about the calendar?

- [A] He thinks it will be too expensive.
- [B] He thinks it will be too heavy to carry.
- [C] He thinks it won't be ready in time.
- [D] He thinks it won't have nice photos.

24 What is Mary excited about?

- [A] Mr. Norton's goodbye party.
- [B] Mr. Norton's last lesson.
- [C] The school show.
- [D] The trip to Africa.

## ■出題の趣旨・形式

まとまった量の英文について、英文の趣旨に関する内容や詳細部分の要点を理解し、必要な情報を読み取る。

## ■解答類型と反応率

Q. 21

選択肢	A1 下位レベル反応率	A1 上位レベル反応率
A	13.6%	1.3%
B (正解)	60.9%	96.8%
C	15.4%	0.9%
D	9.0%	1.0%
無解答	1.1%	0.0%

Q. 24

選択肢	A1 下位レベル反応率	A1 上位レベル反応率
A (正解)	43.2%	84.6%
B	22.0%	9.9%
C	15.4%	2.5%
D	17.2%	2.8%
無解答	2.1%	0.3%



## ■分析結果と課題

やや長めのまとまりのある文章に関して詳細を問う出題である。Q.21 は、A1 下位レベルの正解選択肢 [B] の選択率は 60.9%であり、A1 上位レベルの正解率 96.8%と 35.9 ポイントの差がついた。A1 下位レベルの誤答は、選択肢 [A] が 13.6%、[C] 15.4%とそれぞれに 10%以上集まっている。この設問に正解するためには、同じ第 1 段落最終文の “After the last day of school, he’s going to go to a country in Africa for a year to help build a school there.” の部分が読み取れなければならない。誤答選択肢 [A] To coach baseball at a school.、[C] To play the piano at a school. とともに、Mr. Norton が「現在している」ことであり、設問である “Why is Mr. Norton going to Africa?” の答えにあたるものではない。該当箇所である第 1 段落の内容ではあるが、読み取るべき箇所を誤っており、英文の冒頭から内容を押さえながら読めていないことがわかる。

Q.24 は、A1 下位レベルの正解選択肢 [A] の選択率は 43.2%であり、A1 上位レベルの正解率 84.6%と 41.4 ポイントの差がついた。A1 下位レベルの誤答は、選択肢 [B] 22.0% が最も多かった。質問文の “What is Mary excited about?” の内容を理解した上で、最終段落最後の “I know I’ll miss his lessons, but I can’t wait for the party. It’ll be fun!” の部分を正確に把握する必要があった。“miss” や “~can’t wait for…” といった表現に注意しながら、Mary の気持ちを正しく読み取ることもポイントである。

以上より、A1 下位レベルは、英文にあたる際に、読み進めながら得られる情報を頭の中での的確に処理しながら読むことができていないと言える。一つ一つの単語や文を断片的に読んでおり、内容の詳細を押さえつつ、英文の流れをつかみながら読み進めていないことが課題である。

## ■学習指導に当たって

Part ごとの正解率は、それぞれ、Part A 51.6%、Part B 63.3%、Part C 42.4%と、この Part の正解率が最も低い。英文の分量も Part A、Part B に比べて多いこともあり、初見のある程度分量のある英文について、「内容を大づかみする」と同時に、「事実関係を正確に押さえながら詳細を理解する読み」も行う必要があった。

英文を読む際に、常に単語の意味を日本語に変換しながら読むのではなく、概要から詳細へ無理なく理解が進むような指導を心掛けたい。授業の中でも、全体の流れを押さえる活動、詳細の読みを求める活動といったように、これからどのような目的で読むのかを明確にしながら進めたい。

実際の読む指導の流れとして、次のような例が考えられる。

(導入) 本文のテーマやストーリー全体についてブレンストーミングを行う。キーワー

ドから連想できることをペアになって伝え合う。その際に、「まったくこの話を知らない人に説明してみよう」と指示するなど、読む目的を明示して、わかりやすく大まかな内容に絞って説明する習慣をつけたい。

（聞き取り）モデルリーディングを聞いた後、聞き取れたことをペアで共有する。

（概要把握）段落ごとに Q&A の形で簡単にやりとりし、大まかに内容をつかむ。Q&A については、概要を理解するにとどめる必要があるため、詳細な質問はせず数問程度でよい。ペアで意見交換したり、段落ごとのタイトルを考えたり、話の流れを図示したりする活動も有効である。

（詳細理解）段落ごとに詳細の理解を確認する。あらかじめワークシートなどに準備された話のポイントとなる質問に解答する。その際、本文の表現と、質問のパラフレーズされた表現に着目させて、言い換え表現などへの意識も高めたい。

## (2) 聞くこと ～ Listening ～

### 1. 学習指導要領における領域・内容

標準的な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを話された場合、以下のことができる。

- ① 短い英文を聞いて、情報を正確に聞き取ることができる。
- ② 質問や依頼などを聞いて適切に応じることができる。
- ③ まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ることができる。

### 2. 本調査において当技能で問うている力

Part A「イラスト説明問題」…視覚情報（イラスト）をもとに、ある状況や場面、事物を描写説明した短い英文を正しく聞き分ける力を測定する問題で、上記学習指導要領における①の力を見ている。

Part B「会話応答問題」…不意の問いかけに応答する適当な英文を素早く判断する力を測定する問題で、上記学習指導要領における①及び②の力を見ている。

Part C「課題解決問題」…日本語で事前に与えられる状況設定及び視覚情報（イラスト）と音声情報から、その場面で求められている課題（タスク）を解決する力を測定する問題で、上記学習指導要領における①、②及び③の力を見ている。

Part D「要点理解問題」…一定の長さの英文音声の中から、事前に与えられる英語の質問に答えるために必要な情報を選択し、適切な判断をする力を測定する問題で、上記学習指導要領における③の力を見ている。

### 3. 課題など（◇…相当数の生徒ができている点 ◆…課題のある点）

以下の内容は、相当数の生徒が該当する A1 下位レベルの特徴である。

#### 聞くこと

- ◇短い英文で、問われている語句が直接示されている場合は、それを認識して正しく理解することができる。
- ◆語句単位など断片的な理解はできているが、文全体及び文脈で意味を把握することに課題がある。
- ◆まとまった英文から必要な情報を聞き取ることに課題がある。

## 4. 指導改善のポイント

### 聞くこと

#### ○多様な表現をインプット・アウトプットする活動

まとまりのある英文を聞いてその意味を理解する力を伸ばすためには、多様な語・表現のインプットとアウトプットを繰り返しながら、使える力にしていくことが大切である。また、教員が話す英語は定型文にこだわらず、多様な表現を織り交ぜることを意識したい。例えば、授業開始直後のウォーミングアップとして日常生活で起きたことを教員がまとまった英文で話し、生徒がその内容に対して応答するなど、口語表現も含めてインプット及びアウトプットする機会を積極的に取り入れたい。その際、質問に対する応答は必ずしも表現が固定されていないことにも留意させる必要がある。

インプット活動においては、ある程度の速さの英文を聞かせて速さに慣れさせることも重要である。英語学習初期段階であっても、ナチュラルスピードの英語で様々な英語表現を聞かせて概要把握をするトレーニングは、英文の意味を理解する力を養うのに効果的である。

#### ○目的を持って聞く活動

リスニングでは、あらゆる情報を一時的に記憶しなければならず、すばやく意味を理解しないと、直前に聞いた単語だけが記憶に残ってしまう状態を起こしやすい。本調査でも、直前に聞こえたものが含まれた誤答を選んでしまう生徒が多かった。この傾向は中学生だけでなく高校生対象の調査でも見られたことから、多くの生徒の大きな課題であることは明らかである。この状態を防ぐためには、日頃から目的を持って聞く活動が重要である。例えば、教科書の文字を目で見て追いながら音声を聞くだけでは意味を把握するところまで到達しづらい。文字情報なしで音声を聞かせて、適切な応答をさせる、内容に関する質問に答えさせるなど、目的を持って聞く活動を多く取り入れたい。

## 5. 問題詳細分析

### Part A Question 7



- [A]
- [B]
- [C]

<スクリプト> [F: Female]

F:

- [A] A man is drinking tea at a table with a woman.
- [B] A woman is sitting on a sofa next to a man.
- [C] A man and a woman are reading a newspaper together.

※Copyright © 2016 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

#### ■出題の趣旨・形式

視覚情報（イラスト）をもとに、ある状況や場面、事物を描写説明した短い英文を正しく聞き分ける。

#### ■解答類型と反応率

Q.7

選択肢	A1 下位レベル反応率	A1 上位レベル反応率
A	24.9%	11.8%
B (正解)	29.0%	79.8%
C	44.5%	8.1%
無解答	1.5%	0.3%

#### ■分析結果と課題

A1 上位レベルの正解率は 79.8%だったが、A1 下位レベルは正解率が 29.0%と、大きな差がある問題である。A1 下位レベルの誤答としては選択肢 [C] が 44.5%と最も多く、半

数近くの生徒が選択肢 [C] を選んだことがわかる。これは、イラストの印象から、選択肢 [C] の英文で流れる“A man and a woman are reading a newspaper together.”の “newspaper”に引きずられてしまったことや、最後に読まれる“together”が記憶に残ったことなどが原因と考えられる。また、正解選択肢 [B] “A woman is sitting on a sofa next to a man.”の“next to ~”という表現が A1 下位レベルには定着していないと思われ、正解率の低さにつながった可能性が高い。

A1 下位レベルの共通点として、英文を聞き取る際に印象的な語に引きずられてしまい、一文全体として意味をとらえることに課題があると言える。英文全体の意味を理解し、その情報を一時的に保持した上で、解答にたどり着く力が求められる。

### ■学習指導に当たって

自然な速さの英語に慣れさせることが必要である。特に初級レベルの学習者に対してはゆっくりと区切って聞かせがちであるが、不自然な箇所で区切るような聞かせ方をすると、語句単位での理解にとどまり、文全体の意味を理解する力につながらない。日頃から教員が授業で話す際は、ある程度自然な速さ・リズムで聞かせるようにすることで、素早く英文の意味をとらえる力につながるだろう。

また、直前に聞いた情報に惑わされないためには、情報を一時的に記憶にとどめる必要がある。短い英文を聞き、聞こえた単語や句のまとまりを声に出してみるなど、「話す」活動とセットで行うことが効果的である。

積極的に「話す」活動を取り入れることで、「話すために聞く」姿勢も身に付き、リスニング力の底上げにつながる。教員質問紙の回答結果によると、No.1-(7)の「聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどする活動を行っていますか」という問いに対して、「よくしている」「どちらかといえば、している」と答えた割合は公立学校全体で 37.1%にとどまっている。「聞くこと」「読むこと」と「話すこと」を統合した活動を取り入れることで、各技能をバランスよく伸ばしていくことができる。

指導例の一つとして Show & Tell が挙げられる。聞き手側の立場の生徒は、教員が話す英語だけでなく、ほかの生徒の発表も意味を意識しながら聞くことができるため、スピーキング力だけでなくリスニング力向上にも有効である。例えば、様々な動作をしている人物が描かれたイラストを見せて、読み取れることを自由に発話するなどの活動を取り入れたい。このとき、生徒から出された英語表現を整理してまとめ、「一つの事柄でもいろいろな表現ができる」という点を意識させることも重要である。生徒は様々な表現・語句を知ることができ、自身の思考・表現の幅も広げることができる。

**Part B Question 11**

- [A]
- [B]
- [C]

<スクリプト> [F: Female, M: Male]

M: How many computers are there in the library?

F:

- [A] My town has two libraries.
- [B] I think there are more than five.
- [C] You can use a computer for \$10.

※Copyright © 2016 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

■出題の趣旨・形式

不意の問いかけに応答する適当な英文を素早く判断する。

■解答類型と反応率

Q.11

選択肢	A1 下位レベル反応率	A1 上位レベル反応率
A	31.8%	8.6%
B (正解)	39.6%	86.5%
C	27.3%	4.9%
無解答	1.3%	0.1%

■分析結果と課題

A1 上位レベルの正解率は 86.5%であるが、A1 下位レベルの正解率が 39.6%と低かった問題である。この問題は事前の文字情報がない分、頭の中で会話の場面を瞬時に理解し、応答すべき内容を考える必要があった。誤答としては選択肢 [A] が 31.8%と最も多い。質問文“How many computers are there in the library?”の“How many ～?”と“library”が印象に残り、選択肢 [A] “My town has two libraries.”の“two libraries”に引きずられたことが原因と考えられる。また、日頃から“How many ... are there ～?”の疑問文に対して“There

are ~."の形式で答えることに慣れているため、正解選択肢 [B] "I think there are more than five."が"I think"から始まることで、適切な応答ではないと判断した生徒も多かったと思われる。"more than ~"という表現も、意味まで理解するに至らなかった可能性が高い。

Q.7 同様、慣れ親しんでいる単語・表現が使われている選択肢を選びやすい傾向がある。また、1文の中に不慣れな表現が含まれている場合は、全体の意味の把握に困難が生じると言える。

### ■学習指導に当たって

「誰が／何が」「どうした」など、キーワードになる部分を聞き取って状況をとらえ、英文全体の意味を理解する力が問われる。英文の一語一句すべての意味を理解できなくても、キーワードとなる語を聞き取って会話の状況を把握することが重要である。その前提として、そういった語句の意味は音と関連付けしておかなければならない。声に出しながら書いてみるように指導するなど、「音」を意識させることが必要である。

更に、日常の言語活動においては、定型的なやりとりだけでなく様々な表現を提示したい。そうすることで、自然な場面で発話される様々な英語表現に対応する力がつく。例えば本問に出てきた“How many ... are there ~?”という問いかけについて、“There are ~.”という定型表現だけでなく、“I think there are ~”のように口語表現も含めて多様な答え方を併せて示すようにしたい。日頃から教員が話す英語に様々な表現を入れ込んで意味を把握させることで、インプット量を増やしていくことが重要である。

「聞くこと」の技能を育成するためには、アウトプット活動が欠かせない。英語を正確に話すという行為は音を知らないと成立しないので、「話せる英語」を増やすことは「聞ける英語」を増やすことに繋がると言える。例えば、一度聞いたトピックについて、おそらく聞けなかったであろう単語を書き出して実際に声に出し、もう一度聞くというステップを踏むとよい。声に出していると、複雑な表現であっても聞き取りやすく、記憶にも残りやすい。

また、生徒同士のスキット活動も有効である。簡単な英語でストーリー性のある対話をするすることで、話し手側の生徒は「話せる英語」を増やすことができ、聞き手側の生徒も知らない表現を聞いて意味を理解することができるのである。



**Part D Question 27**

<スクリプト> [F: Female , M: Male]  
F: Is it raining now?  
M: No, it's just cloudy. I heard it may snow tonight!  
F: Oh! We should go skiing tomorrow if it's sunny.  
M: Great idea!

What is the weather like now?

- [A] It's raining.
- [B] It's cloudy.
- [C] It's snowing.
- [D] It's sunny.

※Copyright © 2016 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

■出題の趣旨・形式

一定の長さの英文音声の中から、事前に与えられる英語の質問に答えるために必要な情報を選択し、適切な判断をする。

■解答類型と反応率

Q.27

選択肢	A1 下位レベル反応率	A1 上位レベル反応率
A	8.1%	2.7%
B (正解)	39.4%	80.0%
C	24.6%	11.3%
D	26.6%	6.0%
無解答	1.4%	0.0%

■分析結果と課題

A1 下位レベルでは、誤答が選択肢 [C] 24.6%、選択肢 [D] 26.6%と、約 25%ずつ

集まっている。これは1文目と2文目の“Is it raining now?” “No,…”より、選択肢 [A] は消去したものの、その後の英文の意味を理解できず、残りの選択肢から正しい答えを導き出すことができなかったことが原因と考えられる。また、この問題は情報が1文ごとに変わっていくため、聞くと同時に意味を理解する必要があった。しかし、3文目“Oh! We should go skiing tomorrow if it's sunny.”のようにif節を含んで1文が長くなっている箇所もあったため、英文の速さ・長さに慣れていない生徒は会話展開についていけなかったと思われる。

A1 下位レベルにとっては、英語を聞くと同時にその意味を理解することに困難があると言える。

### ■学習指導に当たって

英語を聞くと同時に意味を理解するというのは実際のコミュニケーション場面では極めて重要である。しかし、「何のために聞くのか」「何の情報を得る必要があるのか」という目的意識がないまま聞いていても、英語を聞き流してしまい、文全体の意味を理解する力につながらない。日頃の言語活動において、聞く目的を意識させながらリスニングに取り組ませる必要がある。例えばペア・ワークにおいて、教員のモデルリーディングを聞いたあと、聞き取れたことを互いに伝え合うという活動が考えられる。生徒はあらかじめどのようなアウトプットが求められているのかを理解した上でリスニングに取り組むことができるので、より目的意識を持って聞こえてくる英文を理解しようとするだろう。ペア・ワークの後は、グループやクラス全体で発表させる。教員は文節ごとにあいづちを打つようにしながら、発音やイントネーションの修正をするとよい。

また、リスニング指導で扱うトピックとしては、生徒の経験や活動を基本にしたものが望ましい。例えば、買物の場面における店員と客の対話文を聞き、その内容に合うイラストを選ばせるなど、現実場面に即した状況で聞く目的を意識させることが必要である。

### (3) 書くこと ～ Writing ～

#### 1. 学習指導要領における領域・内容

- ① 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くことができる。
- ② 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くことができる。

#### 2. 本調査において当技能で問うている力

設問1 「空所補充英作文問題」… 対話中の空所に当てはまる応答を文脈から判断し、適切な英語を用いて表現する力を測定する問題で、上記学習指導要領における①の力を見ている。

設問2 「意見展開問題」… 与えられたテーマに対して、限られた時間の中で自分の意見とその理由を表現する力を測定する問題で、上記学習指導要領における①及び②の力を見ている。

#### 3. 課題など (◇…相当数の生徒ができていない点 ◆…課題のある点)

以下の内容は、相当数の生徒が該当する A1 下位レベルの特徴である。

#### 書くこと

- ◇設問2について、テーマ自体の身近さもあり、全体の70%を超える生徒が自分の「考え」、60%以上の生徒が自分の考えに対する「理由」を書くことができていない。A1 下位レベルでも約50%の生徒が自分の「考え」、約40%の生徒が「理由」を書くことができていない。
- ◆文脈に沿った内容を適切に表現することができていない。
- ◆観点「内容」「表現」「構成」の中では、「構成」の得点がほかよりやや低い結果となっている。文を作ることはできて、まとまりのある文章を書くことに課題がある。

#### 4. 指導改善のポイント

##### 書くこと

###### ○文脈に沿った内容を書く指導の工夫

会話文に限らず、文脈に沿った内容を自分の言葉で表現できるようになるためには、単に英文1文の意味を理解するのではなく、その文が使われる場面を意識しながら話の流れ全体を理解する必要がある。そして、その場面に応じて、今自分が伝えないといけないことは何かを判断した上で表現できるように指導することが重要である。「聞く」「読む」のインプットを増やししながら、その内容をしっかりと理解した上で、様々な形で「書くこと」の活動と関連付けて統合的な言語活動に慣れ親しませる工夫が求められる。

###### ○求められている内容を適切に表現し、読み手に伝わる英文を書く指導の工夫

様々な場面、目的に応じた適切な内容を書いて表現できるようになることが大切である。今回のように、与えられたテーマについて自分の意見やその理由を書く力をつけるためには、自分の「意見」が何であるか、またそう思う「理由」はどこにあるのか、を区別して表現するよう指導することが重要である。また、すぐに文章を書き始めるのではなく、まずアイディアの整理をすることも大切である。そうすることで、内容面の充実とともに、文章の構成も意識しながら文章を書くことが可能になる。

このようにして書く目的や、どのような内容を書くことが適切であるかを意識させることが指導の上で大切なポイントである。

## 5. 問題詳細分析

### 設問 1

#### ■この設問で問うている力

- ① 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くことができる。

1. 次の対話文(1)、(2)の( )に合う適切な英文を作成し、自然な会話を完成させなさい。ただし、英文は主語と動詞を含んだ文にすること。時間は2問あわせて5分です。

- (1) あなたは友だちのAnnaと映画館へ向かって歩いています。

Anna: What time is it now?

You: (                    1                    )

Anna: Well, the movie starts at five thirty.

You: We should walk faster. We only have thirty minutes left!

- (2) あなたは自分でつくったサンドイッチを自宅で友だちのRobertと一緒に食べています。

Robert: This sandwich looks great!

You: Thank you. (                    2                    )

Robert: Yes, please. What do you have?

You: We have milk and orange juice.

Robert: Milk, please.

※ Copyright © 2016 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

#### ■出題の趣旨・形式

対話中の空所に当てはまる応答を文脈から判断し、適切な英語を用いて表現する。

## ■得点と割合

### 設問 1 (1)

「内容」		各レベルにおける 1 点の割合	
得点	割合	A2 レベル	100.0%
0 点	57.7%	A1 上位レベル	78.2%
1 点	42.3%	A1 下位レベル	14.9%

### 設問 1 (2)

「内容」		各レベルにおける 1 点の割合	
得点	割合	A2 レベル	100.0%
0 点	88.2%	A1 上位レベル	25.9%
1 点	11.8%	A1 下位レベル	0.8%

## ■分析結果と課題

(1) は、“What time is it now?”という発話から始まる「時間」について解答することを求められた問題である。空所のあとで“the movie starts at five thirty”、“We only have thirty minutes left!”ということが述べられているため、それらの文脈から今の時間が「5時」であると判断し、それを英語で表現できるかが問われている。A2 レベルに到達している生徒の 100%が、文脈に合う内容で適切に英文を書くことができていた。しかし、A1 上位レベルでは約 80%と、A2 レベルと約 20%の差があった。さらに、A1 下位レベルでは約 15%しか書けていなかった。

A1 下位レベルの生徒でも、時間を答えるときは“It is ~”で表現することは理解できている。ただし、be 動詞が抜けていたり、“five time”など基本的な表現の仕方を誤っていたり、文を構成する段階でのつまずきがみられる。また、“Yes, it is.”という解答が散見され、直前の文の意味を理解した上での解答ではなく、文の形から（前の文が疑問文だから Yes / No で答えるという思考で）解答していると考えられる。A1 上位レベルの生徒は、A1 下位レベルの生徒と比較すると、本問については、語順の誤りがあり見受けられなかった。また be 動詞が抜ける誤りの数も大幅に減っていることから、「文を構成すること」はできている段階だといえる。時間を“It is ~”で表せているが、時刻を誤って解釈しているケースが多く、前後の文の内容の正しい読み取りに課題が残る。

(2) は、空所のあとに“Yes, please.”とあることから、空所には何かを尋ねる内容が入

ると予測される。そして後半に“*We have milk and orange juice.*”とあることから、飲み物について質問をする適切な文 (“*Would you like something to drink?*”など) を解答できるかが問われている。

A2 レベルに到達している生徒の 100%が適切な内容を表現できていた。A1 上位レベルでは約 30%の正解率と、(1) の約 80%の正解率と比較すると、A1 上位レベルで書けている割合は約 50 ポイントも低くなっている。しかし、文脈上、疑問文をあてはめることが適切であることや、相手に何かを尋ねる意味の文を入れることは理解できている。A1 下位レベルでは 1%以下となっており、ほとんどの A1 下位レベルの生徒が適切に表現できていない。A1 下位レベルは、解答している場合、肯定文を書いているものや単語“*sandwich*”を使った文が目立ち、後ろの文脈をまったく考慮せずに解答しているケースが圧倒的に多い。

上記 (1) と (2) から、A1 下位レベルでは、文を構成する段階でのつまずきや、場面内容の理解そのものに課題があることがわかった。

## ■学習指導に当たって

### ○英文を書く機会を増やす工夫

A1 下位レベルの生徒の書く力においては、文を作る段階に課題があることがわかった。この課題に対しては、例えば日記など、身近な話題について分量や文章構成にとらわれない形式で英文を書く機会を増やすことが有効だと考えられる。このような活動をする際には、自分の言いたいことを伝えるためにはどのような単語を使えばよいのか、どのような文構造にすればよいのかなど、必要に応じて辞書や教科書を活用しながら、英語で表現することに慣れることを意識させながら取り組ませる工夫が重要である。

### ○文脈に沿った内容を書く指導の工夫

友人や学校の先生との会話など、日常生活において、文脈に沿った内容を自分の言葉で表現できるようになることは大変重要である。単に英文 1 文の意味を文脈から切り離して理解するのではなく、その文が使われる場面を意識しながら活動する工夫が大切である。

例えば、教科書で取り扱われているダイアログを用いて、「もう 1 文この会話のあとに付け足すとしたらどのような内容を続けるか」という問いかけをする。または、3 文程度からなるモノログの真ん中の 1 文を抜き、その抜けている文を前後の文脈に合うように適切な形で表現させる。こうした活動により、生徒は会話や文章全体の流れの中で内容を把握しようとする。またそれと同時に、会話の流れに合った適切な内容をどう表現すればよいのかを考えることができる。英文を一から書き始めることにハードルが

ある場合は、既にかかれている英文を活用することなどにより、「英語を書く」ことへの心理的ハードルを下げることが可能であろう。

また、教科書の新出の文法事項を示す基本文に、自分で考えた文を付け足すという活動で表現する力を伸ばす工夫を凝らせる。例えば、現在完了形を用いた文“I have played soccer for 8 years.”のあとに続く文を考えて書かせる場合、“So I’m very good at playing soccer.”や“So I want to start a new sport.”などを付け足すことができる。現在完了形を使うからこそ伝えられる意味など、文脈の中で言いたいことを表すのに適した書き方ができるよう意識させながら書く練習を重ねることも、前述の課題に対して有効な手段の一つである。



## 設問2

### ■この設問で問うている力

- ① 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くことができる。
- ② 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くことができる。

あなたは授業中に、下記のテーマで英語の作文を提出することになりました。

作文のテーマ：

あなたが1年のうちで最も好きな月は何月ですか。1つ取り上げて、なぜそう思うか、その理由を書きなさい。

〔 ※下のイラストは具体的に例を挙げるときの参考です。  
イラストの内容を描写しても、あなた自身の経験を書いてもかまいません。 〕



※ Copyright © 2016 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

### ■出題の趣旨・形式

与えられたテーマに対して、限られた時間の中で自分の意見とその理由を表現する。

## ■得点と割合

設問2

項目：「内容」

### ① 意見

得点	割合
0点	29.8%
1点	70.2%

各レベルにおける1点の割合	
A2 レベル	100.0%
A1 上位レベル	96.3%
A1 下位レベル	50.2%

### ② 理由

得点	割合
0点	33.6%
1点	66.4%

各レベルにおける1点の割合	
A2 レベル	100.0%
A1 上位レベル	99.6%
A1 下位レベル	41.0%

項目：「表現」

### ① 語彙

得点	割合
0点	38.4%
1点	53.5%
2点	8.1%
3点	0.0%
4点	0.0%

### ② 文法

得点	割合
0点	48.0%
1点	47.8%
2点	4.2%
3点	0.0%
4点	0.0%

項目：「構

成」

得点	割合
0点	57.1%
1点	37.9%
2点	5.0%
3点	0.0%
4点	0.0%

## ■分析結果と課題

A2 レベル、A1 上位レベルの生徒は、ほぼ 100%が「意見」(好きな月)と「理由」(なぜその月が好きであるか)を何らかの形で書くことができている。一方、A1 下位レベルでは、約半分の生徒しか「意見」も「理由」も書くことができていない。

A1 下位レベルの中には、「意見」を述べておらず、理由のみを述べているケースが散見された。また、「意見」を書こうとしていることは読み取れるが、「一番好き」を“the likest”や“the most month”のように誤った表現で書いているものも見られた。その結果として「意見」が伝えられていないケースがあり、表現に課題があると言える。文章の構成は、1文ずつ羅列して書かれている傾向が非常に強く、文をつなげて書ける段階ではない。

A1 上位レベルになると、「意見」に加え、「理由」も表現できることがわかった。ただし、英語としての正確さに欠けるため、理解を阻害する部分がある。1文1文はまだ短く、接続詞を使って文をつないで書く力にも課題が残る。

A2 レベルになると、意見→理由→結論という基本的な文章構成を意識した文章が書けるようになる。文法の誤りはあるが、用いている文の種類や語彙に広がりが見られる。

生徒質問紙 No.14-(2)「次の学年（第2学年）の英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていただけますか」に対し、「そう思う」（選択肢①）又は「どちらかといえば、そう思う」（選択肢②）と回答した生徒が全体の62.2%であった。「書くこと」のスコアとのクロス集計によると、A1 下位レベルの生徒が55.5%、A1 上位レベルの生徒が71.1%、A2 レベルの生徒が76.2%と、ライティング力が高い生徒ほど「そう思う」（選択肢①）「どちらかといえば、そう思う」（選択肢②）と回答した生徒が多い。そのことから、授業においてこのような活動の機会を増やすことも上記の課題を解決するための方法として考えられる。

## ■学習指導に当たって

### ○与えられたテーマについて自分の意見やその理由を書くための準備活動

自分の考えを明確に、読み手にわかりやすく述べるようになるために、その準備活動を工夫することが重要である。日頃の指導において、下記の点に留意しながら行う書く練習は、前述の課題を解決するための一つの手段として考えられる。

1. すぐに英文を書き始めるのではなく、書き始める前にまず書く内容についての準備をする。【内容】
2. 与えられたテーマに対する最も大事な部分について考える。つまり、何を伝えなければいけないのかを考える。【内容】

（例）賛成・反対を問われる場合⇒自分はどちらの立場を取るのか

ある事柄に対して自分の考えを問われる場合⇒自分が言いたいことは何か

3. アイディアを思いっただけ列挙する。与えられたテーマに対して、思いっく限りの考えや経験、情報などをメモに書きだす。【内容】
4. 列挙したアイディアの順番に書き始めるのではなく、どのような順番で文章を書く

読み手に伝わりやすいかを考える（アイデアに番号をつけていくなど）。その際、3.で書きだしたすべてのアイデアを内容に盛り込むのではなく、取捨選択してもかまわない。【内容・構成】

5. 4. で整理した考えを英文でまとめる。【表現】

#### ○最も言いたいことを明確に書けるようになるための工夫

「書く」だけでなく、「読む」授業の中でも書くことを見据えた活動の工夫ができる。例えば、教科書などの文章を読む際、英文を1文ずつ理解するだけでなく、各段落で最も重要であること、筆者が言いたいことは何であるかを言ったり、書きだしたりするなどして、“topic sentence”を把握しながら読む機会を与える。そうすることで、自分が英文を書くときに、どのような書き方をすれば、読み手に主張したいことが伝わるかを意識しながら、書く活動に生きる読み方ができると考えられる。

## (4) 話すこと ～Speaking～

### 1. 学習指導要領における領域・内容

- ① 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく発音することができる。
- ② 自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えることができる。
- ③ 聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすることができる。
- ④ つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けることができる。
- ⑤ 与えられたテーマについて簡単なスピーチをすることができる。

### 2. 本調査において当技能で問うている力

Part A「音読問題」…英文を音読し、単語を正しく発音できているか、意味のまとまりを理解して音読できているかを測定する問題で、上記学習指導要領における①の力を見ている。

Part B「質疑応答問題」…試験官からの問いかけに応じて、個人の経験や考えをもとに、もしくは聞いたり読んだりしたことをもとに、即座にかつ適切に応答する力を測定する問題で、上記学習指導要領における②及び③の力を見ている。

Part C「意見陳述問題」…与えられた日常的な話題に対して、ある程度の準備をした上で、個人の考えや経験に基づいて考えを述べる力を測定する問題で、上記学習指導要領における④及び⑤の力を見ている。

### 3. 課題など (◇相当数の生徒ができています点 ◆課題のある点)

以下の内容は、相当数の生徒が該当する A1 下位レベルの特徴である。

#### 話すこと

◇7割弱の生徒が、与えられた40語程度の英文を、母語アクセントが残っていたり、一部発音ミスがあったりするが、聞き手がある程度理解できる発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを発話することができる。

◇45%の生徒が、基本的で身近な話題に関する即興的な質問について、相手の発話に対応した適切な内容で、おおむね応答できていた。

◆約6割の生徒は、基本的で身近な話題に関する即興的な質問について、伝えたい内容はおおむね伝わるものの、時制の誤りなど基本的なミスが繰り返し出てくる、もしくは使える文法や表現が限定的な解答であった。

◆約8割の生徒は、与えられた質問について、ある程度の準備をした上で、個人の考えや経験に基づいて、意見、理由などの要素を関連付けながら考えを述べることに課題がある。

#### 4. 指導改善のポイント

○生徒に話す活動をさせた後は、それで終わらず、教員からフィードバックをしたり、生徒が振り返ったりする機会を設け、最後にもう一度同じ活動を行うというサイクルが必要である。

○まずは簡単なチャットから、即興的なやりとりを行う機会を増やす必要がある。

○話す活動を段階的に行うに当たっては、表現の例や、会話を展開するための話の流れのフォーマットを提示することが有効である。

○生徒にとってできるだけ興味・関心のある話題・内容を扱い、「相手に伝える」ことを重視した活動とする必要がある。

## 5. 問題詳細分析

### Part A

#### ■この設問で問うている力

適切な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを英語を話すことができる。

<試験官スクリプト>

*Please read the passage silently for 30 seconds.*

<30 seconds>

*Now please read it aloud.*

What did you do last summer? I visited my grandmother. She lives in a very big house in the country. You can climb the mountains near her house. It's a lot of fun! Do you want to come with me next time?

※ Copyright © 2016 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

#### ■出題の趣旨・形式

問題冊子に印字された英文（42語）を音読する。

#### ■得点と割合

観点1：適切な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを話すことができる。

<全体>

得点	割合
0点	7.0%
1点	46.3%
2点	46.7%

<A1 上位レベル・A1 下位レベル別>

得点	割合	
	A1 上位 レベル	A1 下位 レベル
0 点	0.2%	5.2%
1 点	18.4%	68.1%
2 点	81.5%	26.7%

■分析結果と課題

約 47%の生徒が、与えられた 40 語程度の英文を、明瞭で自然な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを話していた（2点）。ほぼ同数の約 46%の生徒について、日本語の発音になっていたり、一部発音ミスがあったりするが、聞き手がある程度理解できる発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを話していた（1点）。0点となる「聞き手が理解するのに困難が伴う」生徒は7%と最も少なかった。

スピーキング受験者の A1 上位レベルと A1 下位レベルを比較すると、A1 上位レベルの約 80%以上は2点だったのに対し、A1 下位レベルの 70%弱は1点となった。また Part A 音読の結果と、スピーキングテスト全体のスコアには正の相関が認められた ( $r = .707$ )。相手に伝わる発音、リズム、イントネーションで話すことは、発話を適切に相手に伝えるために重要であり、スピーキング力の土台となることを意味している。

A1 下位レベルの生徒は、聞き手がある程度理解できる発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを話していたものの、母語のアクセントや、不適切な発音、リズム、イントネーションを伴っているという課題がある。この設問では、grandmother、climb など発音が難しい語彙につまづいたり、感嘆文 “It’s a lot of fun!” や、疑問文 “What did you do last summer?/ Do you want to come with me next time?” を適切なイントネーションを伴わずに読み上げてしまうことなどが、つまづいたポイントと考えられる。

■学習指導に当たって

相手に伝わる発音やリズム、イントネーション、速度で発話することは、情報や考えを適切に伝える上で重要であり、話す力の土台となる。これらが正しいものになるよう、日頃より授業中のペア・ワークや発表活動において、その都度指導を行うことが重要である。その際に気をつけたいことがある。

1つ目は「誤りを指導するだけで終わらせない」ということである。必ず再度生徒自身



が発話し、正しい発音、リズム、イントネーションを体得することが重要である。ある生徒のつまずいたポイントは、他の生徒にとってもよい気づきを促すことができる。2つ目は「意味を重視した音読」となるよう指導を工夫することである。音読活動とは、時としてスラスラと読めることや、英文を暗記すること自体が目的となってしまうこともありうるが、それらはあくまでも結果であって目的ではない。発話の目的はメッセージを伝えることであり、伝えることを意識した音読活動となるよう配慮する必要がある。具体的な指導としては、英語の音声 CD をリピートする活動では、速く読むのではなく CD と同じスピードを保ちながら読むよう促すことが有効である。また、大事な箇所を強く読み、大事ではない箇所を弱く読むよう指導したり、英文中で意識すべき語句を伝えた上で音読させたりすることも効果があるだろう。イメージをわかせるために、チャンクごとに意味を確認しながら音読をするのもよいだろう。あるいは、ペアで音読をする際に、話す方のみ原稿を持っている形をとり、もう片方を聞き手とすれば、英文を見ていない人にも意味が伝わる発話となるように、注意を促しながら音読を行うことができる。

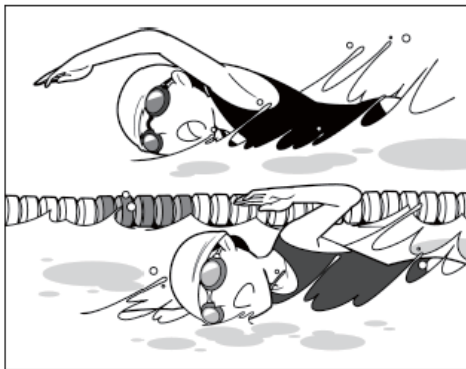
## Part B

### ■この設問で問うている力

試験官からの問いかけに応じて、個人の経験や考えをもとに、もしくは聞いたり読んだりしたことをもとに、質問に対して即座にかつ適切に応答することができる。

#### Question No.1

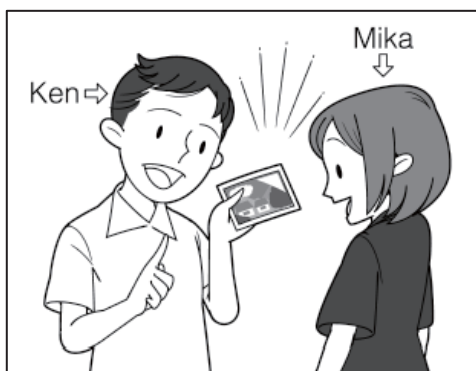
Picture A



<試験官スクリプト> *Please look at Picture A. What are the girls doing?*

#### Question No.2

Picture B



<試験官スクリプト> *Please look at Picture B. What is Ken doing?*

#### Question No.3

<試験官スクリプト> *Which do you like better, dogs or cats? Why?*

※ Copyright © 2016 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

■出題の趣旨・形式

試験官からの問いかけに応じて、イラストを見ながら適切に応答する。(Question1,2)  
 試験官からの問いかけに応じて、生徒自身の経験や考えを述べる。(Question3)

■得点と割合

観点2：相手の発言に対応した適切な内容のやり取りとなっている。

観点3：適切な文法や表現を用いている。

<全体>

	観点2	観点3
得点	割合	
0点	7.6%	11.9%
1点	25.8%	38.0%
2点	38.2%	35.7%
3点	28.4%	14.4%

<観点2：A1 上位レベル・A1 下位レベル別> <観点3：A1 上位レベル・A1 下位レベル別>

得点	割合	
	A1 上位 レベル	A1 下位 レベル
0点	0.0%	7.7%
1点	1.4%	40.7%
2点	41.0%	45.2%
3点	57.7%	6.3%

得点	割合	
	A1 上位 レベル	A1 下位 レベル
0点	0.0%	13.8%
1点	7.0%	59.4%
2点	71.8%	25.6%
3点	21.2%	1.2%

## ■分析結果と課題

この設問では、適切な表現を用いながら、相手の発話に対応した適切な内容で応答する力が要求される。準備をする時間は与えられず、即興での応答が求められるが、質問は日常的な場面のイラスト描写や、自分自身の好みについてであり、生徒にとっては身近な内容である。全体では70%弱の生徒が相手の発話に対応した適切な内容で、おおむね、もしくはすべてに応答できていた（観点2）。また約50%の生徒が、適切、もしくはほぼ適切に応答できていて、文法や表現に誤りがあったとしても、伝えたい内容はわかるだけの解答ができていた（観点3）。

A1 上位レベルと A1 下位レベルを比較すると、A1 上位レベルは60%弱が内容の評価（観点2）で3点だったのに対し、A1 下位レベルでは約6%とかなり少ない。A1 下位レベルでは1点、2点の割合がそれぞれ約40%、45%と合計で大部分を占める。文法・表現の評価（観点3）についても、A1 上位レベルは2点が約70%なのに対し、A1 下位レベルは1点に約60%が集まっている。A1 下位レベルは、ある程度は適切な内容で応答できているものの、表現の誤り、曖昧さや発話量の不足などにより、十分な応答となっていなかったと考えられる。身近な話題の問いであっても、即興的に応答する内容を判断し、適切な英文を組み立て発話する力に課題があると言えるだろう。具体的に問題を見ると、A1 下位レベルは Question No.2 の “What is Ken doing?” という質問に対し、be 動詞と一般動詞の重複使用や、三単現の s や冠詞の誤り等があった。Question No.3 では、“Which do you like better, dogs or cats? Why?” という質問に対し、単複や冠詞の誤りがあった他に、Why? に対する応答に、途中で詰まってしまうたり、意見を支持する理由を言うことができなかつたりした。

また A1 下位レベルの内容評価（観点2）の平均点は1.5点なのに対し、文法・表現（観点3）の評価の平均点は1.1点であった。同様に A1 上位レベルの内容評価（観点2）の平均点は2.7点なのに対し、文法・表現（観点3）の評価の平均点は2.4点であり、いずれも内容評価より文法・表現の評価の得点率が低いことがわかった。このことより、即興的な応答に際して、文法・表現を適切に使いこなす力は A1 上位レベル・下位レベル共通の課題と言えるだろう。とりわけ、A1 下位レベルは、基本的なミスが繰り返し出てきたり、使える文法や表現が限定的であったりする点に課題があると読み取れる。

生徒質問紙 No.13 で「(特に準備をすることなく) 即興で話す活動をしていましたか」という問いに対し、いずれの学年でも A1 上位レベルの方が A1 下位レベルよりも「そう思う」の割合が高かった。当然ではあるが、校内での学習経験とも関連があることを示している。

## ■学習指導に当たって

教員質問紙 No.1-(3)の「質問や依頼などを聞いて適切に応じる活動を行っていますか」という質問について、「よくしている」(選択肢①)、「どちらかといえば、している」(選択肢②)の回答の合計は 81.6%である。しかしこれらの活動は、あらかじめ準備した英文を発表するもので、即興的なやりとりを行う割合は低いと思われる。即興的なやりとりの力を身に付けるためには、やはり即興的な活動を行う必要があり、ここでは2つ方法を紹介したい。

1つ目は、ペア・ワークの中で質問カードを使って相手に即興的な質問を行うものである。質問カードには質問すべき内容が英語で書かれており、質問者にとってはカードに記載された質問を読み上げることもできるが、回答者は即興的な受け答えが必要な活動である。最初のうちは、定型的な質問でもかまわないが、徐々に定型外の質問も盛り込みたい。多くの生徒は既習の表現や文法を、場面や状況に合わせて使い分けたり、組み合わせたりしながら運用することに課題があるため、質問カードには様々な既習表現を入れ、繰り返し扱っていくのがよいだろう。活動の際には、より双方向のやりとりとなるように、質問者はただ質問をするだけにとどまらずに、“Me, too.” “Really?”などの簡単なあいづちを打ったり、アイコンタクトをしたりするよう促したい。

2つ目は、やや発展的な活動である。1つ目の活動では即興的なやりとりをすることはできても、投げかけられた質問に答えることが前提である。自ら質問を投げかけたり、話題を発展させるための指導も併せて行うことが理想である。その際に、何の準備もなく自由な会話をするのは難しいので、何らかの会話の型を与えることが1つの方法である。下記は一例である。

1. 相手の発話の中から、自分の興味のある単語を1語繰り返す。
2. 自分の興味のある単語と、コメントを付け加える。
3. 自分の興味のある単語と、質問を付け加える。

例) A: I went to Hokkaido last week.

B(1): Hokkaido!

B(2): Hokkaido! Hokkaido is famous for a lot of snow.

B(3): Hokkaido! Did you ski?

いずれの活動においても、教室全体に指導しただけで終わるのではなく、誤った箇所にもう1度取り組んだり、別のペアが発表する際に気づきを促したりすることが重要である。

## Part C

### ■この設問で問うている力

与えられた話題について、個人の考えや経験などに基づいて自分の意見とその理由を述べる力を測定する問題。

Topic : Your best way to enjoy weekends

<試験官スクリプト>

*Please tell me your best way to enjoy weekends. Please tell me why.*

*You will have one minute to think about your answer. Then, you will have one minute to speak.*

<60 seconds>

*Now, please begin.*

※ Copyright © 2016 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

### ■出題の趣旨・形式

試験官からの問いかけに応じて、準備時間 1 分の後に、生徒自身の考えや経験などに基づいて自分の意見とその理由を述べる。解答時間は 1 分である。

### ■得点と割合

観点 4：与えられた問いに対応した適切な内容となっており、論理展開がわかりやすい構成になっている。

観点 5：適切な文法や表現を用いている。

<全体>

	観点 4	観点 5
得点	割合	
0 点	28.1%	31.6%
1 点	27.0%	28.6%
2 点	26.3%	25.8%
3 点	18.5%	14.1%

<観点4：A1 上位レベル・A1 下位レベル別><観点5：A1 上位レベル・A1 下位レベル別>

得点	割合	
	A1 上位 レベル	A1 下位 レベル
0 点	0.0%	40.0%
1 点	4.6%	39.8%
2 点	49.2%	19.2%
3 点	46.3%	1.0%

得点	割合	
	A1 上位 レベル	A1 下位 レベル
0 点	0.3%	44.9%
1 点	5.9%	42.7%
2 点	68.3%	12.1%
3 点	25.5%	0.3%

### ■分析結果と課題

この設問では、生徒自身の考えや経験などに基づいて自分の意見とその理由を述べる力が要求される。準備時間は1分間与えられ、テーマは「週末を楽しむ最適な方法」と、生徒にとっては比較的身近な話題である。

全体では、与えられた質問に対応した内容で、論理展開がわかりやすい構成を伴って応答できた生徒は全体の2割弱にとどまった（観点4）。一方で、与えられた質問に対応した内容になっていない、あるいは内容が量的にほとんどないか断片的であると判断された生徒は3割弱と多かった。また、適切な文法や表現を用いていて、誤りがあっても理解には影響しない程度と判断された生徒は、約14%と少なく（観点5）、全体の約3割が、使える文法や表現は限定的、あるいは自分の言葉で話せた内容が10数語に満たないと判断された。

A1 上位レベルと A1 下位レベルを比較すると、A1 上位レベルは95%以上が2点以上で、要素を関連付けながら、論理的に応答できていたのに対し（観点4）、A1 下位レベルの4割が0点で、与えられた質問に対応していない、もしくは発話がほとんど無いか断片的であった。ほぼ同数となる4割弱の生徒が1点で、質問に応答してはいるものの、単純な要素を並べ立てているのみの発話であった。文法に関しても、A1 上位レベルの生徒の9割以上が2点以上で、文法や表現に誤りは出てくるものの、伝えたい内容はわかる、もしくは理解に影響しない程度だった（観点5）のに対し、A1 下位レベルでは4割強が0点、約4割が1点と低い結果だった。

A1 下位レベルのうち4割に属する生徒は、発話量自体が非常に少ない、もしくは断片的になってしまったり、相手の発話に対応した応答ができなかったりする状況にある。この点をクリアした4割弱の層であっても、単純な要素を並べ立てて発話するところまではできるが、要素を関連付けながら応答する点に課題があると読み取れる。身近なテーマとは

言え、1分間で自分の考えと理由をまとめ、適切な英文を組み立てて順序立てながら応答するのは、A1 下位レベルにとって非常に難しい問いだったと思われる。

Part C の内容評価（観点4）と文法・表現評価（観点5）の間には強い正の相関が認められた（ $r=.859$ ）。当然ではあるが、発話内容を向上させるためには、文法や表現の適切さやバリエーション及びその運用力が不可欠となり、その点にも課題があることがわかる。

生徒質問紙 No.15 で「(次の学年の英語の授業では、) 英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思いますか」という問いに対し、中学1年～3年のいずれの学年でも A1 上位レベルの方が A1 下位レベルよりも「そう思う」の割合が高かった。ただし A1 下位レベルでも2年生の段階で57%の生徒が経験があると回答をしている。段階を踏みながら、更に経験を積んでいくことが重要である。

### ■学習指導に当たって

質問に対して問われている内容はわかるが、回答内容が思い浮かばないというのが最初の課題である。内容構築ができない生徒のためには、まずアイディア出しのトレーニングが必要である。自分の経験したことや、新聞・ニュースで見聞きしたことをもとに、意見・考えとその理由を具体的にメモすることから始めたい。

次に、「言いたいことはあるが、英語が出てこない」という課題がある。そのような生徒には、発表のためのフォーマットを与えることが有効である。ライティングとは異なり、全体の発表内容を精緻に整理することなく、思いついたアイディアを述べることになるので、会話を続けるために役立つ、「I think...」「It is because...」などの表現の型を導入することが重要であろう。また、発話を構成する上での型を導入することも考えられる。例えば、発表する際には「出来事・事実に加えて、感想を述べよう」「理由を3つ考えてみよう」などの、「話の流れの型」を与えることで、徐々に発表活動に慣れていこう。まずは教員によるモデルを示し、最初のうちはモデル発話を真似てもよいなど、段階的に指導することが望ましい。題材は、なるべく生徒が当事者として考えられるものにするなど、内容が思い浮かびやすくなるような工夫が必要である。

他の Part でも同様であるが、スピーキング活動では「間違ってもいいから、とにかく発話することが大事」と指導されることがある。もちろん非常に重要なポイントではあるが、ある程度、臆することなく発話する習慣が身に付いた生徒には、より正確に話すことができるよう意識づけしたい。





## 4章 質問紙調査結果の分析

※本章で扱うデータは、特に注記がない限り、公立学校の調査対象校のものとする。

## 1. はじめに

本章では、生徒・学校・教員に対して実施された質問紙調査のうち、公立学校の調査データを中心に、特徴のある項目について分析を行った。なお、生徒データに関しては、各技能とも対象者の95%以上がCEFRのA1レベル（A1上位、A1下位）に集中しているため、レベル別の分析はあくまでも参考程度という前提で行われている。

## 2. 主な特徴

### 2.1 生徒質問紙調査から

#### <生徒の英語に関する意識>

- (1) 「英語の学習が好きである」と回答している生徒は約半数である。
- (2) 将来の英語使用のイメージとして、「高校入試に対応できる力をつけたい」と回答する生徒が多い。

#### <生徒の英語使用などに関する経験 / 英語の学習方法・内容・時間>

- (3) 英語を使った各種活動を経験している生徒が非常に少ない。
- (4) 生徒の自主的な英語学習時間が少ない。
- (5) 生徒は英語で概要や要点をとらえる活動や、聞いたり読んだりした内容をもとに英語で話し合ったり書いたりするなどの技能を統合した活動を、ある程度経験していると回答している。

#### <生徒の英語に関する資格・検定試験の受験経験>

- (6) 中学生になってから資格・検定試験を受験した経験を持つ生徒は少ない。

## 2.2 学校・教員質問紙調査から

### <学校の目標設定>

- (1) 外国語科教員の間で指導目標やその達成に向けた方策は共有されており、言語活動に重点を置いた指導計画が作成されている。しかし、「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標を技能別に設定している学校は少ない。

### <授業内・授業以外の取組>

- (2) 英語で概要や要点をとらえる活動はある程度実施しているが、技能の統合を意識した言語活動への取組に関しては改善の余地がある。
- (3) 授業以外での国際交流やコミュニケーション能力育成のための取組が少ない。

### <英語に関する研修の実施状況 / 資格・検定試験の受験経験>

- (4) 「実践的な研修」は多くの学校で行われている。また、教員が他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できる状況にある。
- (5) 教員になってから英語に関する資格・検定試験を受験し、かつ英検準1級、TOEFL iBT80点、TOEIC730点以上のいずれかを取得している教員は少ない。

### 3. それぞれの分析

#### 3.1 生徒質問紙調査から

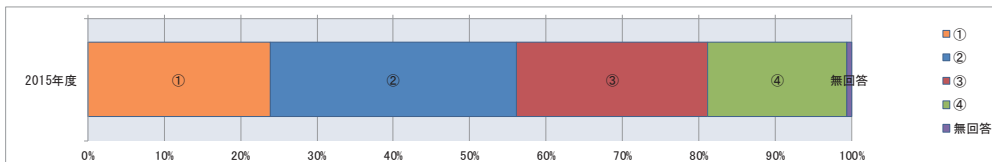
(1)「英語の学習が好きである」という回答が、半数を上回る。

##### ・No. 1 「英語学習への意識」

No. 1 英語の学習は好きですか。最も当てはまるものを1つ選んで下さい。

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ ほとんどそう思わない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
2015年度	回答数	234,757	318,195	247,136	178,392	6,511	984,991
	選択率	23.8%	32.3%	25.1%	18.1%	0.7%	100%



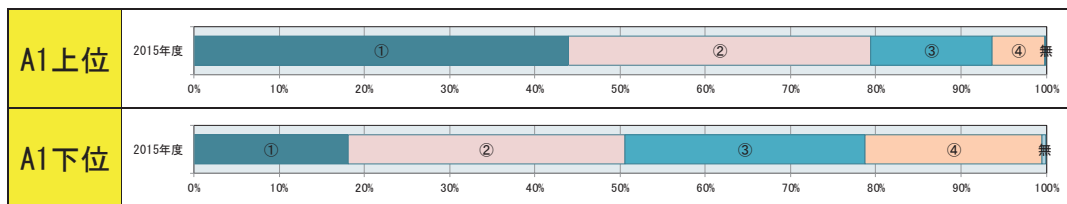
##### ・No. 1 「英語学習への意識」

##### クロス集計(生徒質問紙×話すこと)

No. 1 英語の学習は好きですか。最も当てはまるものを1つ選んで下さい。

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ ほとんどそう思わない

CEFR	実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
A1 上位	2015年度	回答数	43,270	34,771	13,956	6,127	200	98,325
		選択率	44.0%	35.4%	14.2%	6.2%	0.2%	100%
A1 下位	2015年度	回答数	36,432	65,318	56,689	41,799	1,046	201,284
		選択率	18.1%	32.5%	28.2%	20.8%	0.5%	100%



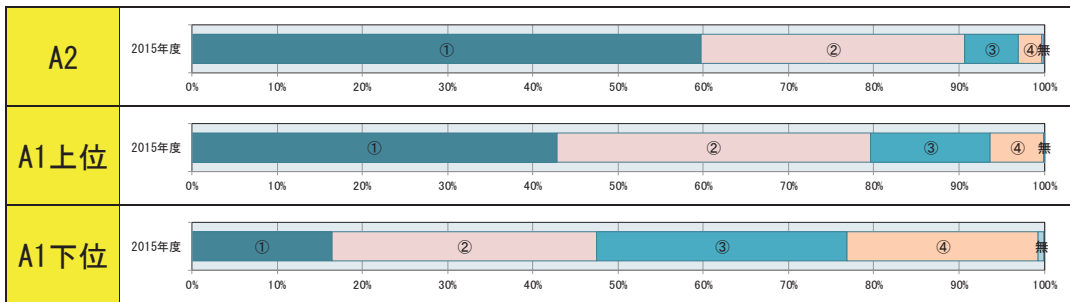
## ・No. 1 「英語学習への意識」

### クロス集計(生徒質問紙×読むこと)

No. 1 英語の学習は好きですか。最も当てはまるものを1つ選んで下さい。

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ ほとんどそう思わない

CEFR	実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
A2	2015年度	回答数	17,746	9,175	1,877	808	77	29,683
		選択率	59.8%	30.9%	6.3%	2.7%	0.3%	100%
A1 上位	2015年度	回答数	96,898	83,259	31,860	13,937	310	226,264
		選択率	42.8%	36.8%	14.1%	6.2%	0.1%	100%
A1 下位	2015年度	回答数	119,214	223,604	211,660	161,473	4,727	720,679
		選択率	16.5%	31.0%	29.4%	22.4%	0.7%	100%



「英語の学習が好きである」(選択肢①②合計)との回答が、約半数である。「話すこと」のテストスコアが高いほど、あるいは「読むこと」のテストスコアが高いほど、「英語の学習が好きである」生徒の割合が高い。

過去の中学校における調査(ベネッセコーポレーション、2009年)においては、生徒に英語嫌いの傾向がみられた<sup>1</sup>。一方で、今回の調査結果では、全体で56.1%と約半数の生徒が「英語の学習が好きである」の回答をしている。「話すこと」でA1上位の生徒は79.4%が、「読むこと」でA1上位の生徒は79.6%が「英語の学習が好きである」と回答しており、英語力と「英語の学習が好きである」という回答に関係性がみられる。一方で、依然として半数近くの生徒が「英語の学習が好きではない」(選択肢③④合計)と回答している点は課題と考えられる。

<sup>1</sup> 「第1回 中学校英語に関する基本調査報告書【教員調査・生徒調査】 [2009年]」(ベネッセ教育総合研究所)「中学入学前は45.0%の生徒が英語を「好き」と回答しているが、本調査対象の中学2年生になると全体で25.5%と、その比率は大幅に減少している。」

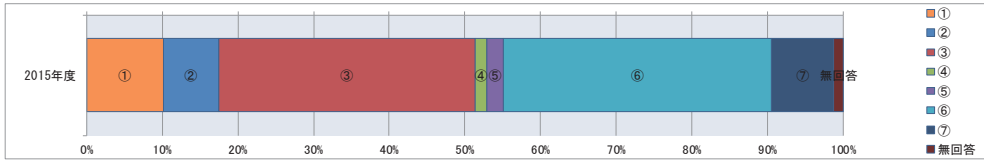
## (2) 将来の英語使用のイメージが、現在の英語力のレベルによって異なる

### ・No. 2 「将来の英語使用のイメージ」

No. 2 どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか。最も当てはまるものを1つ選んで下さい。

- ①英語を使って国際社会で活躍できるようになりたい ②海外でのホームステイや語学研修を楽しめるようになりたい  
 ③海外旅行などをするとときに、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しめるようになりたい  
 ④高校卒業後に、海外の大学などに進学できるようになりたい ⑤大学で自分が専攻する学問を英語で学べるようになりたい  
 ⑥高校入試に対応できる力を付けたい ⑦特に学校の授業以外での利用を考えていない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	無回答	計
2015年度	回答数	100,062	71,473	334,673	14,845	21,864	348,437	81,987	11,651	984,991
	選択率	10.2%	7.3%	34.0%	1.5%	2.2%	35.4%	8.3%	1.2%	100.0%



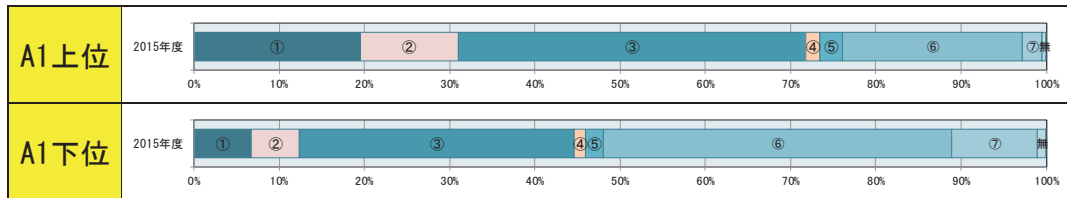
### ・No. 2 「将来の英語使用のイメージ」

#### クロス集計(生徒質問紙×話すこと)

No. 2 どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか。最も当てはまるものを1つ選んで下さい。

- ①英語を使って国際社会で活躍できるようになりたい ②海外でのホームステイや語学研修を楽しめるようになりたい  
 ③海外旅行などをするとときに、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しめるようになりたい  
 ④高校卒業後に、海外の大学などに進学できるようになりたい ⑤大学で自分が専攻する学問を英語で学べるようになりたい  
 ⑥高校入試に対応できる力を付けたい ⑦特に学校の授業以外での利用を考えていない

CEFR	実施年度	選択番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	無回答	計
A1 上位	2015年度	回答数	19,161	11,327	40,151	1,605	2,667	20,711	2,237	466	98,325
		選択率	19.5%	11.5%	40.8%	1.6%	2.7%	21.1%	2.3%	0.5%	100%
A1 下位	2015年度	回答数	13,680	11,204	64,965	2,519	4,212	82,353	20,394	1,955	201,284
		選択率	6.8%	5.6%	32.3%	1.3%	2.1%	40.9%	10.1%	1.0%	100%



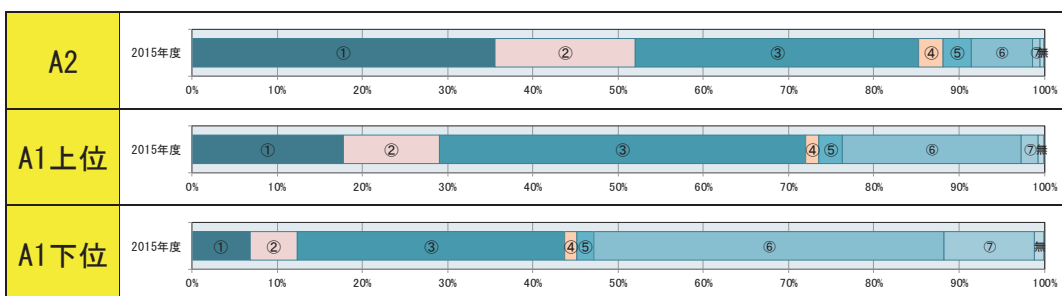
## ・No. 2 「将来の英語使用のイメージ」

### クロス集計(生徒質問紙×読むこと)

No. 2 どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか。最も当てはまるものを1つ選んで下さい。

- ①英語を使って国際社会で活躍できるようになりたい ②海外でのホームステイや語学研修を楽しめるようになりたい  
 ③海外旅行などをすると、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しめるようになりたい  
 ④高校卒業後に、海外の大学などに進学できるようになりたい ⑤大学で自分が専攻する学問を英語で学べるようになりたい  
 ⑥高校入試に対応できる力を付けたい ⑦特に学校の授業以外での利用を考えていない

CEFR	実施年度	選択番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	無回答	計
A2	2015年度	回答数	10,527	4,908	9,842	842	985	2,148	280	149	29,683
		選択率	35.5%	16.5%	33.2%	2.8%	3.3%	7.2%	0.9%	0.5%	100%
A1 上位	2015年度	回答数	40,259	25,426	97,241	3,622	6,188	47,612	4,428	1,488	226,264
		選択率	17.8%	11.2%	43.0%	1.6%	2.7%	21.0%	2.0%	0.7%	100%
A1 下位	2015年度	回答数	48,753	40,691	225,730	10,248	14,559	296,171	75,876	8,650	720,679
		選択率	6.8%	5.6%	31.3%	1.4%	2.0%	41.1%	10.5%	1.2%	100%



「どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか」という質問に対して、最も多かった回答は「高校入試に対応できる力を付けたい」(選択肢⑥)の35.4%であり、次いで「海外旅行などをすると、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しめるようになりたい」(選択肢③)の34.0%が続いた。

一方で、「英語を使って国際社会で活躍できるようになりたい」(選択肢①)は10.2%、「海外でのホームステイや語学研修を楽しめるようになりたい」(選択肢②)は7.3%と低い割合となっている。しかし、その割合は、「話すこと」や「読むこと」のスコアが高いほど高くなる傾向がある。



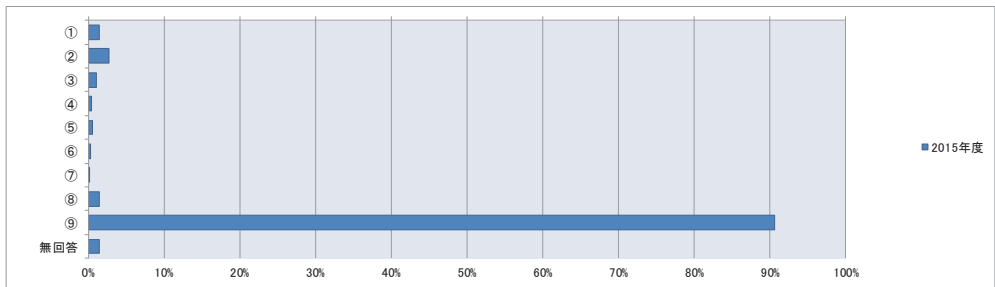
**(3) 英語を使った各種活動を経験している生徒が非常に少ない。**

**・No. 3 「英語を使った各種活動の経験」**

No. 3 中学生になってから経験したことがあることは何ですか。当てはまるものをすべて選んで下さい（複数回答可）。

- ①イングリッシュキャンプ ②英語のスピーチ大会（校内での予選などは除く）  
 ③英語のプレゼンテーション大会（校内での予選などは除く） ④英語のディベート大会（校内での予選などは除く）  
 ⑤留学（学校主催のプログラムを含む）（2週間未満） ⑥留学（学校主催のプログラムを含む）（2週間以上3か月未満）  
 ⑦留学（学校主催のプログラムを含む）（3か月以上） ⑧ホームステイ（現地の教育機関などで学習した場合を除く）  
 ⑨当てはまるものはない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	無回答	計
2015年度	回答数	14,649	27,259	10,558	4,192	4,984	2,556	1,358	13,678	904,596	14,471	998,300
	選択率	1.5%	2.7%	1.1%	0.4%	0.5%	0.3%	0.1%	1.4%	90.6%	1.4%	100%



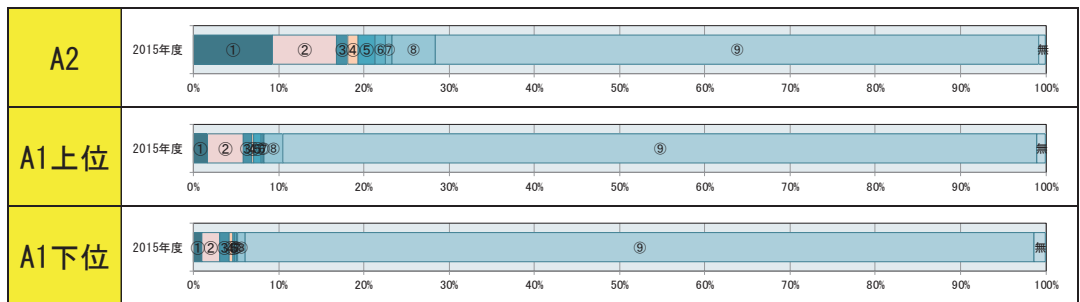
**・No.3 「英語を使った各種活動の経験」**

**クロス集計(生徒質問紙×読むこと)**

No. 3 中学生になってから経験したことがあることは何ですか。当てはまるものをすべて選んで下さい（複数回答可）。

- ①イングリッシュキャンプ ②英語のスピーチ大会（校内での予選などは除く）  
 ③英語のプレゼンテーション大会（校内での予選などは除く） ④英語のディベート大会（校内での予選などは除く）  
 ⑤留学（学校主催のプログラムを含む）（2週間未満） ⑥留学（学校主催のプログラムを含む）（2週間以上3か月未満）  
 ⑦留学（学校主催のプログラムを含む）（3か月以上） ⑧ホームステイ（現地の教育機関などで学習した場合を除く）  
 ⑨当てはまるものはない

GEFR	実施年度	選択番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	無回答	計
A2	2015年度	回答数	2,981	2,412	433	373	647	389	266	1,617	22,736	256	32,110
		選択率	9.3%	7.5%	1.3%	1.2%	2.0%	1.2%	0.8%	5.0%	70.8%	0.8%	100%
A1上位	2015年度	回答数	3,917	9,541	2,281	775	1,960	793	198	5,094	203,812	2,555	230,927
		選択率	1.7%	4.1%	1.0%	0.3%	0.8%	0.3%	0.1%	2.2%	88.3%	1.1%	100%
A1下位	2015年度	回答数	7,586	15,101	7,644	2,978	2,312	1,339	836	6,857	671,793	10,285	726,732
		選択率	1.0%	2.1%	1.1%	0.4%	0.3%	0.2%	0.1%	0.9%	92.4%	1.4%	100%



生徒質問紙 No.3 「中学生になってから経験したことがあることは何ですか」との問いに対して、イングリッシュキャンプ、スピーチ大会、プレゼンテーション大会、ディベート大会、留学など、体験型の学習を中学生になってから経験したことがない（選択肢⑨）と回答した生徒は 90.6%に上る。このことから、「実際に使う」活動を通して英語を学ぶ機会

が極めて少ないことがわかる。なお、A1 上位、A2 となるにつれて体験型の学習を経験したことがある割合は高まる。

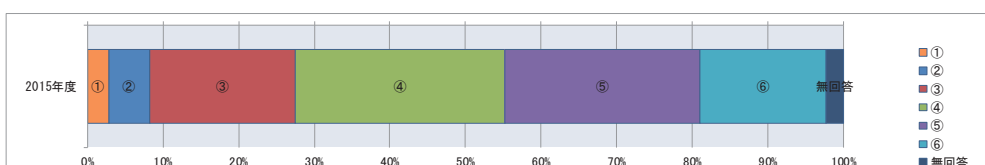
#### (4) 生徒の自主的な英語学習時間が少ない。

##### ・No.7 「平日の予習・復習以外の英語学習時間」

No.7 学校の授業や予習・復習以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、英語に接していますか（英語を聞く、読む、話す、書くのいずれも含む）。当てはまるものを1つ選んで下さい。

① 3時間以上 ② 2時間以上3時間未満 ③ 1時間以上2時間未満 ④ 30分以上1時間未満 ⑤ 30分未満 ⑥ 全くしない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	⑤	⑥	無回答	計
2015年度	回答数	27,110	52,841	191,349	272,399	254,784	164,097	22,413	984,991
	選択率	2.8%	5.4%	19.4%	27.7%	25.9%	16.7%	2.3%	100%



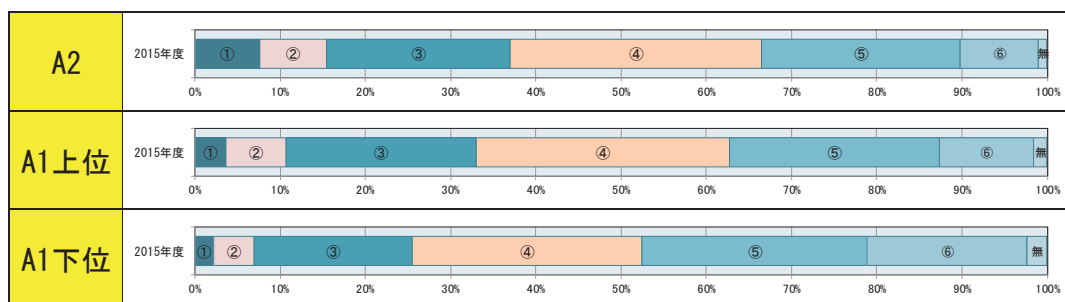
##### ・No.7 「平日の予習・復習以外の英語学習時間」

##### クロス集計(生徒質問紙×読むこと)

No.7 学校の授業や予習・復習以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、英語に接していますか（英語を聞く、読む、話す、書くのいずれも含む）。当てはまるものを1つ選んで下さい。

① 3時間以上 ② 2時間以上3時間未満 ③ 1時間以上2時間未満 ④ 30分以上1時間未満 ⑤ 30分未満 ⑥ 全くしない

CEFR	実施年度	選択番号	①	②	③	④	⑤	⑥	無回答	計
A2	2015年度	回答数	2,242	2,330	6,401	8,752	6,937	2,721	300	29,683
		選択率	7.6%	7.9%	21.6%	29.5%	23.4%	9.2%	1.0%	100%
A1 上位	2015年度	回答数	8,349	15,746	50,466	67,442	55,639	25,103	3,519	226,264
		選択率	3.7%	7.0%	22.3%	29.8%	24.6%	11.1%	1.6%	100%
A1 下位	2015年度	回答数	16,163	34,408	133,220	194,704	190,573	134,606	17,005	720,679
		選択率	2.2%	4.8%	18.5%	27.0%	26.4%	18.7%	2.4%	100%

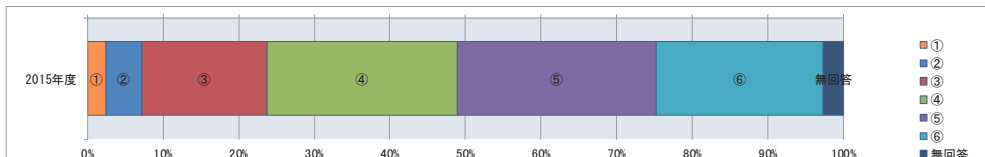


## ・No.8「休日の予習・復習以外の英語学習時間」

No. 8 土曜日・日曜日、祝日など学校が休みの日に、学校の授業の予習・復習以外に、1日当たりどれくらいの時間、英語に接していますか（英語を聞く、読む、話す、書くのいずれも含む）。当てはまるものを1つ選んで下さい。

① 3時間以上 ② 2時間以上3時間未満 ③ 1時間以上2時間未満 ④ 30分以上1時間未満 ⑤ 30分未満 ⑥ 全くしない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	⑤	⑥	無回答	計
2015年度	回答数	23,562	47,136	162,829	248,673	258,715	218,773	25,303	984,991
	選択率	2.4%	4.8%	16.5%	25.2%	26.3%	22.2%	2.6%	100%



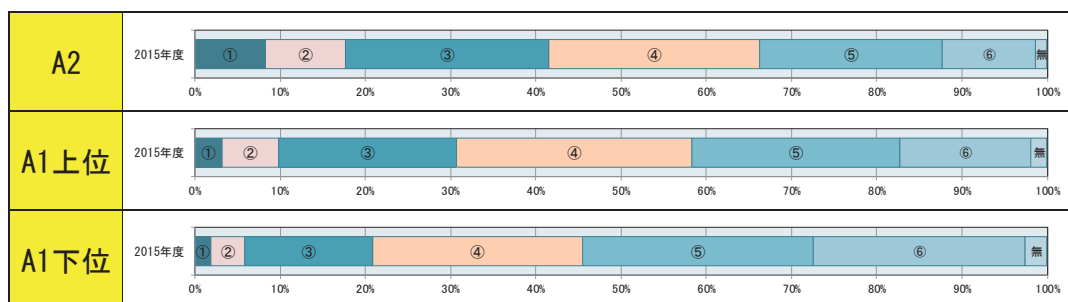
## ・No.8「休日の予習・復習以外の英語学習時間」

### クロス集計(生徒質問紙×読むこと)

No. 8 土曜日・日曜日、祝日など学校が休みの日に、学校の授業の予習・復習以外に、1日当たりどれくらいの時間、英語に接していますか（英語を聞く、読む、話す、書くのいずれも含む）。当てはまるものを1つ選んで下さい。

① 3時間以上 ② 2時間以上3時間未満 ③ 1時間以上2時間未満 ④ 30分以上1時間未満 ⑤ 30分未満 ⑥ 全くしない

OEFR	実施年度	選択番号	①	②	③	④	⑤	⑥	無回答	計
A2	2015年度	回答数	2,457	2,782	7,092	7,324	6,369	3,249	410	29,683
		選択率	8.3%	9.4%	23.9%	24.7%	21.5%	10.9%	1.4%	100%
A1上位	2015年度	回答数	7,342	14,961	47,285	62,332	55,228	34,928	4,188	226,264
		選択率	3.2%	6.6%	20.9%	27.5%	24.4%	15.4%	1.9%	100%
A1下位	2015年度	回答数	13,494	29,057	107,588	177,592	195,478	178,387	19,083	720,679
		選択率	1.9%	4.0%	14.9%	24.6%	27.1%	24.8%	2.6%	100%



生徒質問紙 No.7「学校の授業や予習・復習以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、英語に接していますか」との問いに対して、「30分未満」（選択肢⑤）と回答したものが25.9%、「全くしない」（選択肢⑥）と回答したものが16.7%となっている。合わせると42.6%の平日の自主的な英語学習時間が30分未満という現状が明らかになった。さらに生徒質問紙 No.8「土曜日・日曜日、祝日など学校が休みの日に、学校の授業の予習・復習以外に、1日当たりどれくらいの時間、英語に接していますか」という問いに対しては、合わせて48.5%の生徒が「30分未満」「全くしない」（選択肢⑤⑥）と回答している。また、英語力とのクロス集計結果を確認すると、英語力が低いA1下位の生徒に、この傾向が顕著にみられる（A1下位：51.9%、A1上位：39.8%、A2：32.4%）。

(5) 生徒は英語の授業において、概要や要点をとらえる活動や、それをもとにして英語で話し合ったり書いたりする活動がある程度経験している。

#### 4技能を通じた言語活動に対する生徒の意識「聞くこと」

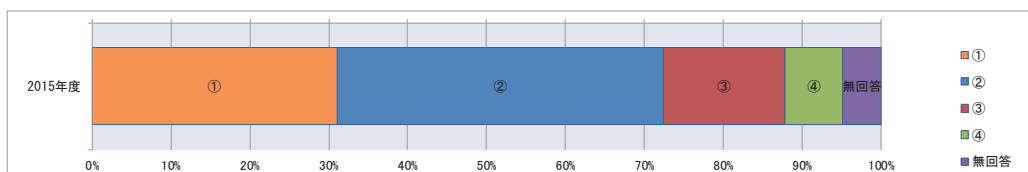
##### ・No. 10-(2) 「英語を聞いて概要や要点をとらえる活動」

No. 10 以下の学年の英語の授業では、英語を聞いて、  
(一文一文ではなく全体の) 概要や要点をとらえる活動をしていたと思いますか。

(2) 第2学年

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
2015年度	回答数	306,349	407,490	151,464	72,403	47,285	984,991
	選択率	31.1%	41.4%	15.4%	7.4%	4.8%	100%



##### ・No. 10-(2) 「英語を聞いて概要や要点をとらえる活動」

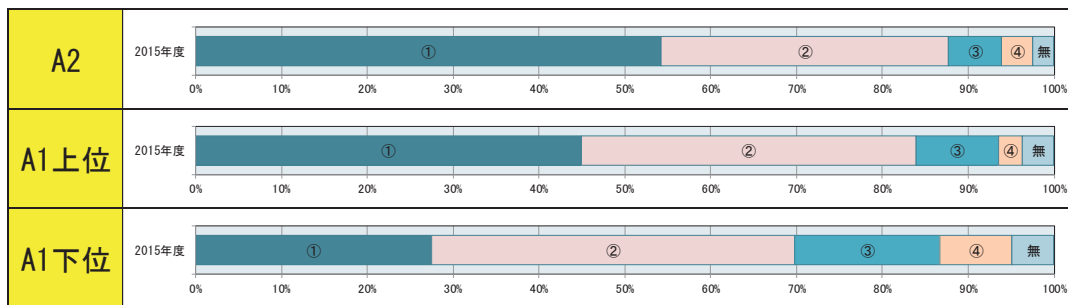
#### クロス集計(生徒質問紙×聞くこと)

No. 10 以下の学年の英語の授業では、英語を聞いて、  
(一文一文ではなく全体の) 概要や要点をとらえる活動をしていたと思いますか。

(2) 第2学年

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない

CEFR	実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
A2	2015年度	回答数	11,314	6,975	1,286	761	516	20,851
		選択率	54.3%	33.5%	6.2%	3.6%	2.5%	100%
A1 上位	2015年度	回答数	79,525	69,006	17,000	4,961	6,591	177,083
		選択率	44.9%	39.0%	9.6%	2.8%	3.7%	100%
A1 下位	2015年度	回答数	214,122	328,901	131,909	65,322	38,437	778,691
		選択率	27.5%	42.2%	16.9%	8.4%	4.9%	100%



生徒質問紙 No.10 「以下の学年の英語の授業では、英語を聞いて、(一文一文ではなく全体の) 概要や要点をとらえる活動をしていたと思いますか。」という問いに対して、英語を聞いて、概要や要点をとらえる活動をしていた(選択肢①②合計)生徒は、72.5%である。「聞くこと」のテストスコアが高いほど、授業において「英語を聞いて(一文一文ではなく全体の) 概要や要点をとらえる活動をしていたと思う」(選択肢①②合計)生徒の割合が高い。

## 4技能を通じた言語活動に対する生徒の意識「読むこと」

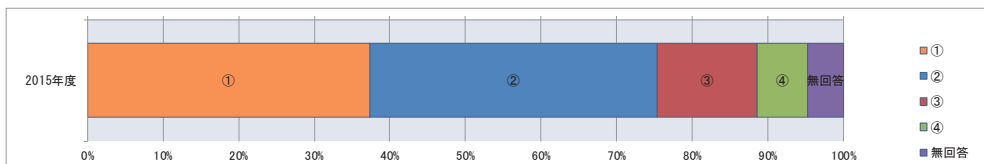
### ・No. 11-(2)「英語を読んで概要や要点をとらえる活動」

No. 11 次の学年の英語の授業では、英語を読んで、  
(一文一文ではなく全体の) 概要や要点をとらえる活動をしていましたか。

(2) 第2学年

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
2015年度	回答数	367,893	374,590	130,205	66,407	45,897	984,991
	選択率	37.3%	38.0%	13.2%	6.7%	4.7%	100%



### ・No. 11-(2)「英語を読んで概要や要点をとらえる活動」

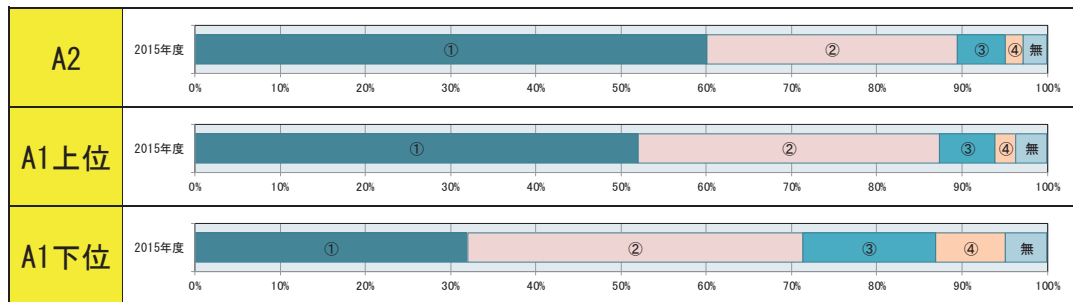
#### クロス集計(生徒質問紙×読むこと)

No. 11 次の学年の英語の授業では、英語を読んで、  
(一文一文ではなく全体の) 概要や要点をとらえる活動をしていましたか。

(2) 第2学年

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない

OEFR	実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
A2	2015年度	回答数	17,843	8,695	1,707	618	821	29,683
		選択率	60.1%	29.3%	5.7%	2.1%	2.8%	100%
A1上位	2015年度	回答数	117,705	79,895	14,817	5,447	8,400	226,264
		選択率	52.0%	35.3%	6.5%	2.4%	3.7%	100%
A1下位	2015年度	回答数	230,704	283,562	112,538	58,849	35,026	720,679
		選択率	32.0%	39.3%	15.6%	8.2%	4.9%	100%



生徒質問紙 No.11 「次の学年の英語の授業では、英語を読んで、(一文一文ではなく全体の) 概要や要点をとらえる活動をしていましたか。」という問いに対して、英語を読んで、概要や要点をとらえる活動をしていた(選択肢①②合計)生徒は、75.3%である。「読むこと」のテストスコアが高いほど、授業において「英語を読んで(一文一文ではなく全体の) 概要や要点をとらえる活動をしていましたかと思う(選択肢①②合計)生徒の割合が高い。

「英語を聞いて概要や要点をとらえる活動」「英語を読んで概要や要点をとらえる活動」をしている生徒はともに7割以上であることがわかる。

## 4技能を通じた言語活動に対する生徒の意識「話すこと」

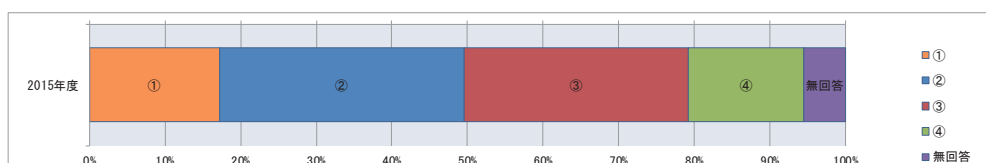
### ・No. 13-(2) 「与えられた話題について、即興で話す活動」

No. 13 次の学年の英語の授業では、与えられた話題について、  
(特に準備をすることなく) 即興で話す活動をしていましたか。

(2) 第2学年

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
2015年度	回答数	169,222	318,672	292,439	150,711	53,946	984,991
	選択率	17.2%	32.4%	29.7%	15.3%	5.5%	100%



### ・No. 13-(2) 「与えられた話題について、即興で話す活動」

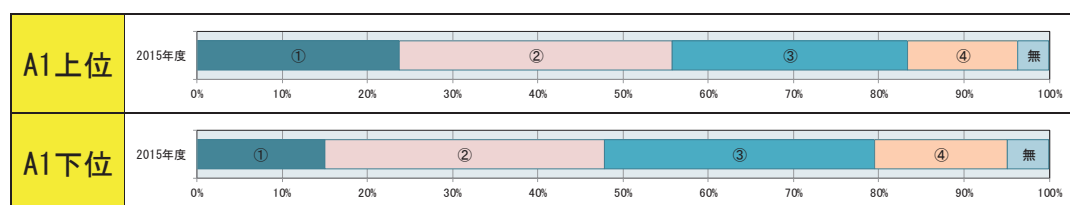
#### クロス集計(生徒質問紙×話すこと)

No. 13 次の学年の英語の授業では、与えられた話題について、  
(特に準備をすることなく) 即興で話す活動をしていましたか。

(2) 第2学年

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない

GEFR	実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
A2	2015年度	回答数	0	0	0	0	0	0
		選択率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
A1 上位	2015年度	回答数	23,433	31,428	27,173	12,664	3,626	98,325
		選択率	23.8%	32.0%	27.6%	12.9%	3.7%	100%
A1 下位	2015年度	回答数	30,203	66,097	63,765	31,387	9,831	201,284
		選択率	15.0%	32.8%	31.7%	15.6%	4.9%	100%



生徒質問紙 No.12 「次の学年の英語の授業では、与えられた話題について、(特に準備をすることなく) 即興で話す活動をしていましたか。」という問いに対して、与えられた話題について、即興で話す活動をしていた(選択肢①②合計)生徒は、49.6%である。「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「与えられた話題について、即興で話す活動をしていましたか」(選択肢①②合計)生徒の割合が高い。

#### 4技能を通じた言語活動に対する生徒の意識「話すこと」

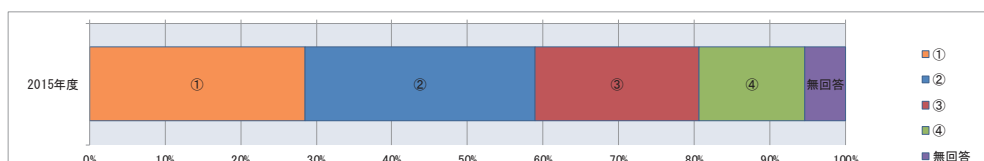
##### ・No. 15-(2)「英語でスピーチやプレゼンテーションをする活動」

No. 15 次の学年の英語の授業では、英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思いますか。

(2) 第2学年

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
2015年度	回答数	280,626	300,905	212,420	138,882	52,158	984,991
	選択率	28.5%	30.5%	21.6%	14.1%	5.3%	100%



##### ・No. 15-(2)「英語でスピーチやプレゼンテーションをする活動」

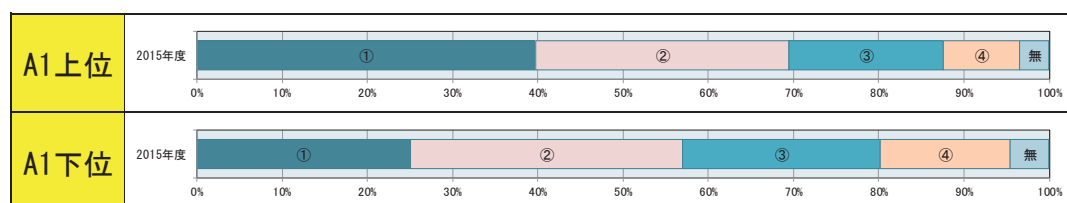
##### クロス集計(生徒質問紙×話すこと)

No. 15 次の学年の英語の授業では、英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思いますか。

(2) 第2学年

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない

OEFR	実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
A2	2015年度	回答数	0	0	0	0	0	0
		選択率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
A1上位	2015年度	回答数	39,119	29,205	17,784	8,731	3,486	98,325
		選択率	39.8%	29.7%	18.1%	8.9%	3.5%	100%
A1下位	2015年度	回答数	50,595	64,128	46,636	30,630	9,295	201,284
		選択率	25.1%	31.9%	23.2%	15.2%	4.6%	100%



生徒質問紙 No.15「次の学年の英語の授業では、英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思いますか。」という問いに対して、英語でスピーチやプレゼンテーションをする活動をしていた（選択肢①②合計）生徒は59.0%である。「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

「英語を聞いて概要や要点をとらえる活動」「英語を読んで概要や要点をとらえる活動」をしている生徒の割合に対すると、「与えられた話題について即興で話すこと」「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思う」生徒の割合は低いということがわかる。

#### 4技能を通じた言語活動に対する生徒の意識<技能統合型: 聞いたり読んだりして話すこと>

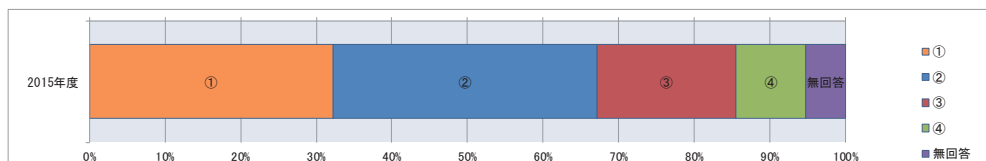
##### ・No. 12-(2)「聞いたり読んだりしたことについて意見を述べ合う活動」

No. 12 次の学年の英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりしていたと思いますか。

(2) 第2学年

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
2015年度	回答数	317,592	344,439	180,475	91,354	51,132	984,991
	選択率	32.2%	35.0%	18.3%	9.3%	5.2%	100%



##### ・No. 12-(2)「聞いたり読んだりしたことについて意見を述べ合う活動」

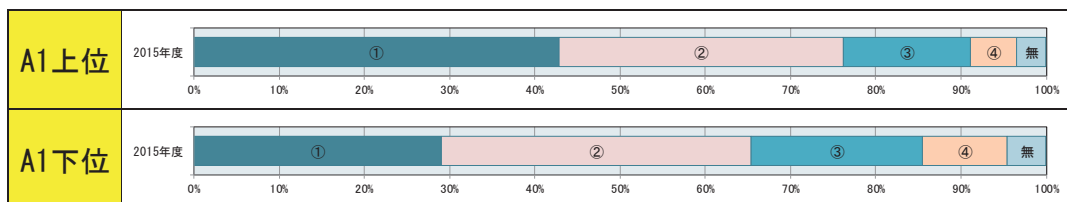
##### クロス集計(生徒質問紙×話すこと)

No. 12 次の学年の英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりしていたと思いますか。

(2) 第2学年

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない

CEFR	実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
A2	2015年度	回答数	0	0	0	0	0	0
		選択率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
A1上位	2015年度	回答数	42,106	32,875	14,613	5,303	3,429	98,325
		選択率	42.8%	33.4%	14.9%	5.4%	3.5%	100%
A1下位	2015年度	回答数	58,511	73,094	40,551	19,959	9,168	201,284
		選択率	29.1%	36.3%	20.1%	9.9%	4.6%	100%



生徒質問紙 No.12「次の学年の英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりしていたと思いますか。」という問いに対して、聞いたり読んだりしたことについて、英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動をしていた(選択肢①②合計)生徒は、67.2%である。「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりしていたと思う」(選択肢①②合計)生徒の割合が高い。



#### 4技能を通じた言語活動に対する生徒の意識<技能統合型: 聞いたり読んだりして書くこと>

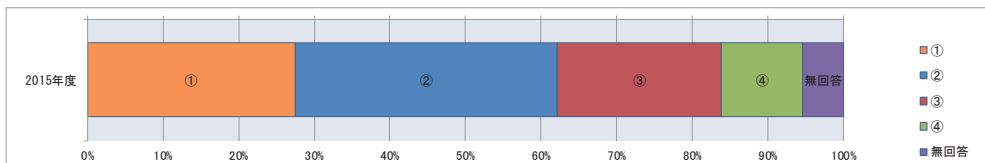
##### ・No. 14-(2)「聞いたり読んだりしたことについて書いてまとめたり意見を書く活動」

No. 14 次の学年の英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思いますか。

(2) 第2学年

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
2015年度	回答数	270,569	342,194	213,710	106,252	52,266	984,991
	選択率	27.5%	34.7%	21.7%	10.8%	5.3%	100%



##### ・No. 14-(2)「聞いたり読んだりしたことについて書いてまとめたり意見を書く活動」

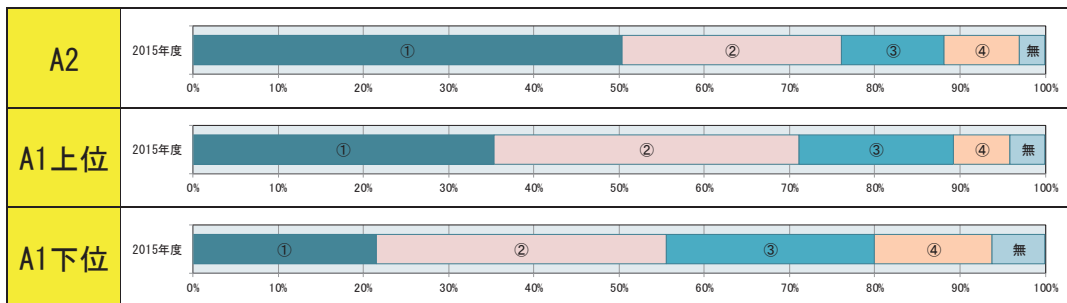
#### クロス集計(生徒質問紙×書くこと)

No. 14 次の学年の英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思いますか。

(2) 第2学年

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない

CEFR	実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
A2	2015年度	回答数	742	379	177	131	44	1,473
		選択率	50.4%	25.8%	12.0%	8.9%	3.0%	100%
A1上位	2015年度	回答数	149,549	151,650	76,828	28,400	17,423	423,851
		選択率	35.3%	35.8%	18.1%	6.7%	4.1%	100%
A1下位	2015年度	回答数	119,259	188,600	135,516	76,631	34,431	554,437
		選択率	21.5%	34.0%	24.4%	13.8%	6.2%	100%



生徒質問紙 No.14「次の学年の英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思いますか。」という問いに対して、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動をしていた(選択肢①②合計)生徒は 62.2%である。「書くこと」のテストスコアが高いほど、授業において「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思う」(選択肢①②合計)生徒の割合が高い。

**(6) 中学入学後に資格・検定試験を受験した経験を持つ生徒は少ない。**

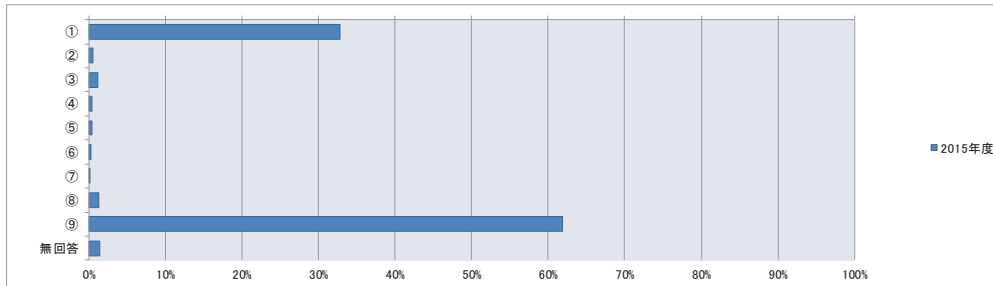
**・No. 5 「英語に関する資格・検定試験の受験経験」**

<英語に関する資格・検定試験の受験経験について>

No. 5 中学生になってから、今回の試験以外に、英語に関する資格・検定試験を受験したことがありますか。  
受験したことがあるものをすべて選んで下さい。受験したことがなければ⑨を選んで下さい（複数回答可）。

①英検（実用英語技能検定） ②ケンブリッジ英検 ③GTEC for STUDENTS ④TOEFL ⑤TOEFL Junior  
⑥TOEIC ⑦TOEIC Bridge ⑧その他 ⑨英語に関する資格・検定試験を受験したことはない

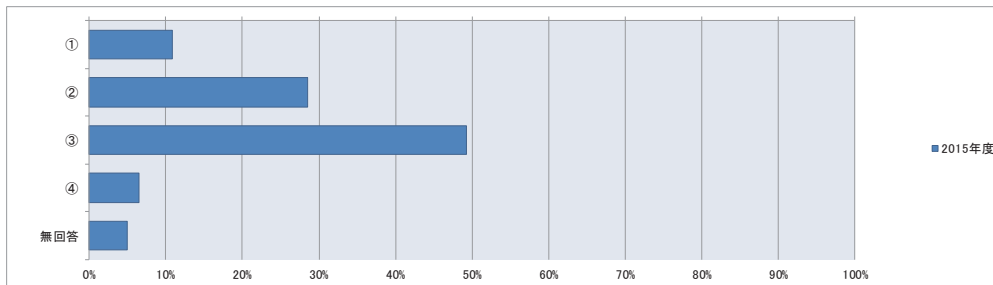
実施年度	選択番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	無回答	計
2015年度	回答数	326,822	5,377	10,547	4,272	3,046	2,210	1,395	12,019	616,704	14,031	996,424
	選択率	32.8%	0.5%	1.1%	0.4%	0.3%	0.2%	0.1%	1.2%	61.9%	1.4%	100%



No. 6 (No. 5で⑨と回答した方のみ) 受験したことがない理由は何ですか。当てはまるものをすべて選んで下さい（複数回答可）。

①受験したかったが、その機会がなかった ②受験したいとは思わなかった（受験する必要性を感じなかった）  
③自分の英語力に自信がない ④その他

実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
2015年度	回答数	73,006	193,173	333,429	43,764	33,519	676,891
	選択率	10.8%	28.5%	49.3%	6.5%	5.0%	100%



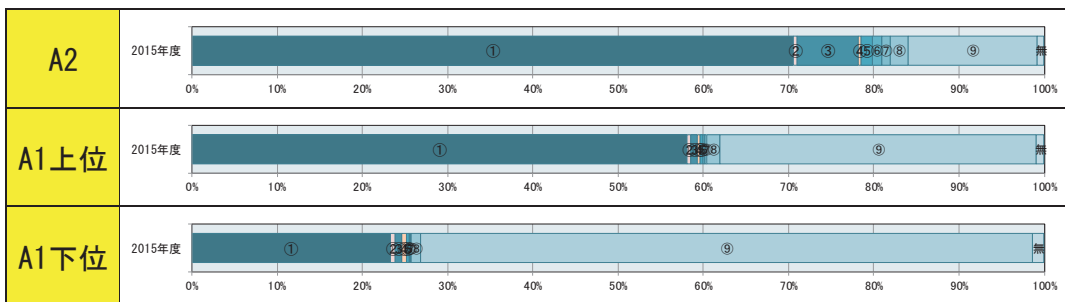
## ・No. 5 「英語に関する資格・検定試験の受験経験」

### クロス集計(生徒質問紙×読むこと)

No. 5 中学生になってから、今回の試験以外に、英語に関する資格・検定試験を受験したことがありますか。  
受験したことがあるものをすべて選んで下さい。受験したことがなければ⑨を選んで下さい(複数回答可)。

①英検(実用英語技能検定) ②ケンブリッジ英検 ③GTEC for STUDENTS ④TOEFL ⑤TOEFL Junior  
⑥TOEIC ⑦TOEIC Bridge ⑧その他 ⑨英語に関する資格・検定試験を受験したことはない

CEFR	実施年度	選択番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	無回答	計
A2	2015年度	回答数	22,968	133	2,341	107	421	343	317	676	4,957	271	32,533
		選択率	70.6%	0.4%	7.2%	0.3%	1.3%	1.1%	1.0%	2.1%	15.2%	0.8%	100%
A1 上位	2015年度	回答数	134,025	862	1,902	602	651	671	569	3,351	85,631	2,041	230,306
		選択率	58.2%	0.4%	0.8%	0.3%	0.3%	0.3%	0.2%	1.5%	37.2%	0.9%	100%
A1 下位	2015年度	回答数	168,639	4,318	6,128	3,498	1,909	1,175	488	7,865	520,771	10,279	725,068
		選択率	23.3%	0.6%	0.8%	0.5%	0.3%	0.2%	0.1%	1.1%	71.8%	1.4%	100%



生徒質問紙 No.5 「中学生になってから、今回の試験以外に、英語に関する試験を受験したことがありますか」との問いに対し、「英語に関する資格・検定試験を受験したことはない」(選択肢⑨)と回答した生徒が半数以上(61.9%)いる。その理由としては、No.6より「自分の英語力に自信がない」(選択肢③)が49.3%と半数近くに及ぶ。

「読むこと」とのクロス集計を確認すると、英語力が高い生徒ほど「英語に関する資格・検定試験を受験したことはない」(選択肢⑨)と回答する生徒は少ない(A1 下位: 71.8%、A1 上位: 37.2%、A2: 15.2%)。

### 3.2 学校・教員質問紙調査から

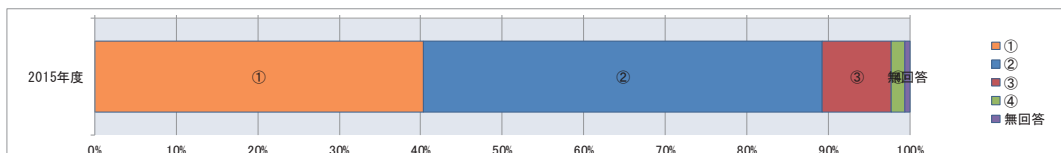
(1)外国語科教員の間で指導目標やその達成に向けた方策は共有されており、言語活動に重点を置いた指導計画が作成されている。しかし、CAN-DO リストを技能別に設定している学校は少ない。

#### ・No. 4 「外国語(英語)科の指導目標やその達成に向けた方策を、全外国語(英語)科教員の間で共有し、取組にあっている」

No. 4 外国語(英語)科の指導目標やその達成に向けた方策を、全外国語(英語)科教員の間で共有し、取組にあっていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
2015年度	回答数	3,706	4,490	774	150	58	9,178
	選択率	40.4%	48.9%	8.4%	1.6%	0.6%	100%

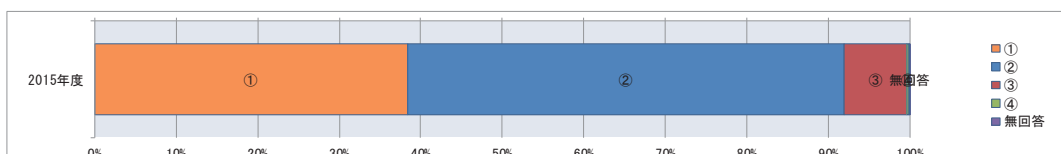


#### ・No. 3 「英語教育に関して、言語活動に重点を置いた指導計画を作成している」

No. 3 英語教育に関して、言語活動に重点を置いた指導計画を作成していますか。

①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる ③どちらかといえば当てはまらない ④当てはまらない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
2015年度	回答数	3,519	4,916	710	22	12	9,178
	選択率	38.3%	53.6%	7.7%	0.2%	0.1%	100%

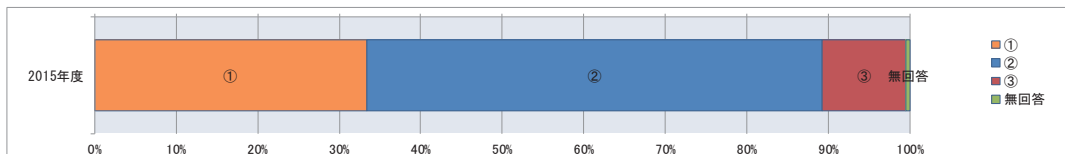


## ・No. 8 「生徒の英語力に関する学習到達目標について、CAN-DO リストを技能別に設定している」

No.8 生徒の英語力に関する学習到達目標について、CAN-DO リストの形で技能別に設定していますか。

①設定している ②今は設定していないが、今後設定する予定である ③設定しておらず、今後も設定する予定がない

実施年度	選択番号	①	②	③	無回答	計
2015年度	回答数	3,062	5,133	941	43	9,178
	選択率	33.4%	55.9%	10.3%	0.5%	100%



学校質問紙 No.4 「外国語（英語）科の指導目標やその達成に向けた方策を、全外国語（英語）科教員の間で共有し、取組にあたっていますか」という問いに対して 89.3%の学校が「よくしている」「どちらかといえば、している」（選択肢①②）と回答している。学校質問紙 No.3 「英語教育に関して、言語活動に重点を置いた指導計画を作成していますか」という問いに対しては、91.9%の学校が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」（選択肢①②）と回答している。

一方で、学校質問紙 No.8 「生徒の英語力に関する学習到達目標について、CAN-DO リストの形で技能別に設定していますか」との問いに対する回答から、「設定している」（選択肢①）と回答した学校は全体の 33.4%と半数を下回った。「今は設定していないが、今後設定する予定である」（選択肢②）と回答した学校は、全体の 55.9%である。今後、各学校における CAN-DO 形式での学習到達目標の設定が進むと推察される。

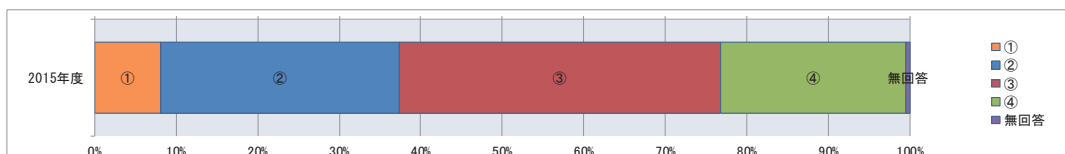
**(2)授業以外での国際交流やコミュニケーション能力育成のための取組は少ない。**

**・No. 5 「現在第3学年の生徒に対して、入学してからこれまで、授業以外で国際交流や外国語のコミュニケーション能力育成のための取組を実施しましたか」**

No. 5 現在第3学年の生徒に対して、入学してからこれまで、授業以外で国際交流や外国語のコミュニケーション能力育成のための取組を実施しましたか。

①よく行った ②どちらかといえば、行った ③あまり行っていない ④ほとんど行っていない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
2015年度	回答数	747	2,682	3,615	2,090	45	9,178
	選択率	8.1%	29.2%	39.4%	22.8%	0.5%	100%

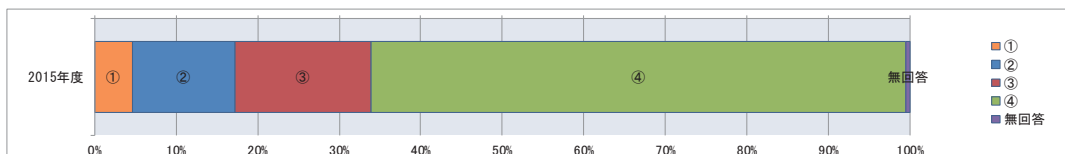


**・No. 6 「積極的に留学生を受け入れていますか」**

No. 6 積極的に留学生を受け入れていますか。

①積極的にしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
2015年度	回答数	421	1,155	1,533	6,023	46	9,178
	選択率	4.6%	12.6%	16.7%	65.6%	0.5%	100%

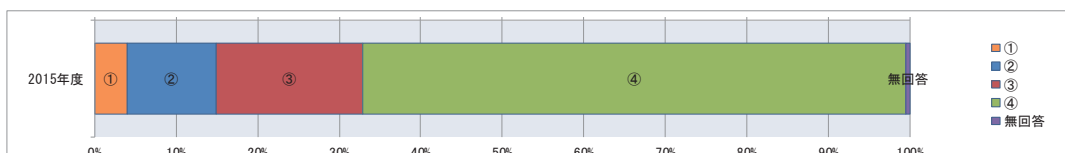


**・No. 7 「積極的に生徒を留学させていますか」**

No. 7 積極的に生徒を留学させていますか。

①積極的にしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
2015年度	回答数	369	997	1,656	6,110	46	9,178
	選択率	4.0%	10.9%	18.0%	66.6%	0.5%	100%



学校質問紙 No.5 「現在第3学年の生徒に対して、入学してからこれまで、授業以外で国際交流や外国語のコミュニケーション能力育成のための取組を実施しましたか」との問いに対して、「あまり行っていない」「ほとんど行っていない」（選択肢③④）の回答の合計は全体の62.2%であり、十分な取組が行われているとは言えない。また、No.6「積極的に留学生を受け入れていますか」及びNo.7「積極的に生徒を留学させていますか」の結果より、留学生の受け入れも送り出しともに少ない状況であることがわかる。

**(3)技能の統合を意識した言語活動への取組に関して改善の余地がある。**

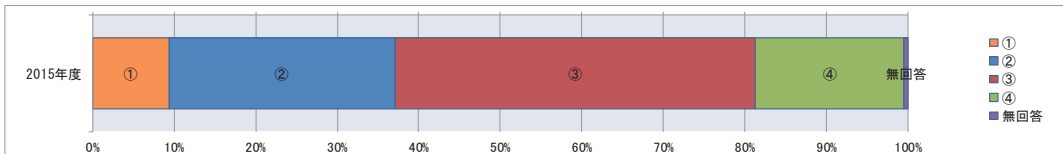
**・No. 1-(7)「聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりする活動」**

No. 1 普通の英語の授業において、以下の言語活動や指導を行っているかについて、最も当てはまる選択肢を回答して下さい。

(7) 聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどする活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
2015年度	回答数	2,893	8,554	13,661	5,644	130	30,883
	選択率	9.4%	27.7%	44.2%	18.3%	0.4%	100%



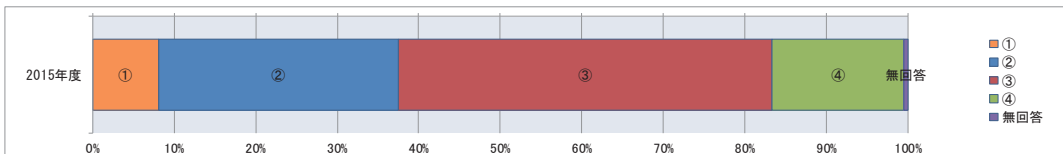
**・No. 1-(17)「聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどする活動」**

No. 1 普通の英語の授業において、以下の言語活動や指導を行っているかについて、最も当てはまる選択肢を回答して下さい。

(17) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどする活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
2015年度	回答数	2,495	9,089	14,157	4,989	153	30,883
	選択率	8.1%	29.4%	45.8%	16.2%	0.5%	100%



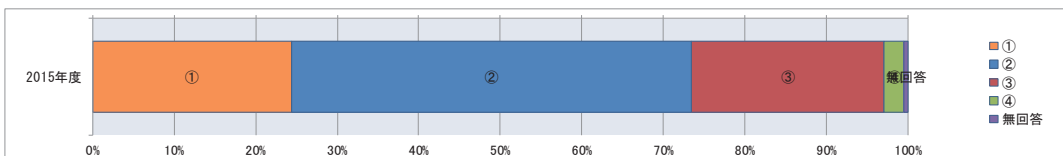
**・No. 1-(5)「まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取る活動」**

No. 1 普通の英語の授業において、以下の言語活動や指導を行っているかについて、最も当てはまる選択肢を回答して下さい。

(5) まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取る活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
2015年度	回答数	7,535	15,156	7,303	759	130	30,883
	選択率	24.4%	49.1%	23.6%	2.5%	0.4%	100%



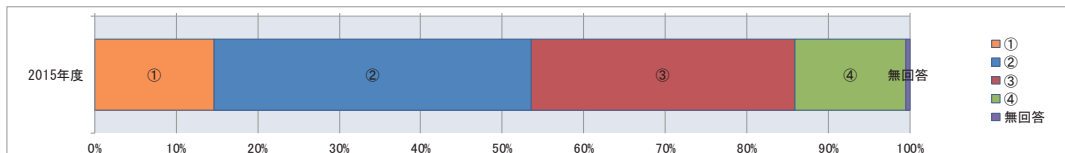
### ・No. 1-(9) 「与えられたテーマについて簡単なスピーチをする活動」

No. 1 普段の英語の授業において、以下の言語活動や指導を行っているかについて、最も当てはまる選択肢を回答して下さい。

(9) 与えられたテーマについて簡単なスピーチをする活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
2015年度	回答数	4,538	11,985	9,994	4,214	151	30,883
	選択率	14.7%	38.8%	32.4%	13.6%	0.5%	100%



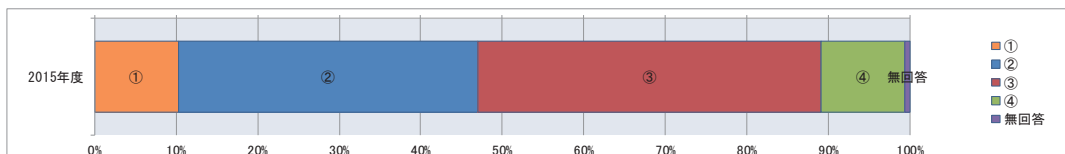
### ・No. 1-(13) 「伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じる活動」

No. 1 普段の英語の授業において、以下の言語活動や指導を行っているかについて、最も当てはまる選択肢を回答して下さい。

(13) 伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じる活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
2015年度	回答数	3,155	11,366	12,996	3,170	197	30,883
	選択率	10.2%	36.8%	42.1%	10.3%	0.6%	100%



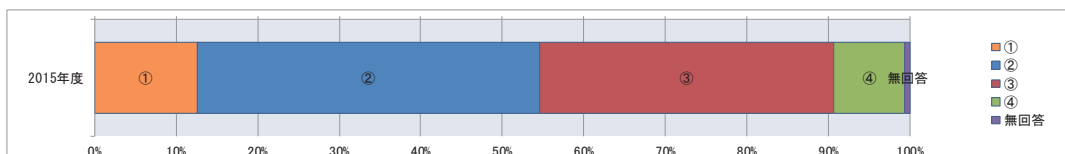
### ・No. 1-(19) 「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように文章を書く活動」

No. 1 普段の英語の授業において、以下の言語活動や指導を行っているかについて、最も当てはまる選択肢を回答して下さい。

(19) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書く活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
2015年度	回答数	3,891	12,954	11,161	2,703	173	30,883
	選択率	12.6%	41.9%	36.1%	8.8%	0.6%	100%



学校質問紙 No.1 「普段の英語の授業において、以下の言語活動や指導を行っているかについて、最も当てはまる選択肢を回答してください。」(7) 「聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどする活動を行っていますか。」という問いに対して、「よくしている」「どちらかといえば、している」(選択肢①②)の回答の合計は全体の37.1%である。(17) 「聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどする活動を行っていますか。」という問いに対して「よくし



ている」「どちらかといえば、している」(選択肢①②)の回答の合計は37.5%である。半数以上の教員が、こうした技能統合型の活動を「あまりしていない」(選択肢③)、「ほとんどしていない」(選択肢④)と回答しており、いずれも、十分な取組が行われているとは言えない。

一方で、学校質問紙 No.1 (5)「まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取る活動を行っていますか。」という問いに対して「よくしている」「どちらかといえば、している」(選択肢①②)の回答の合計は全体の73.5%。学校質問紙 No.1 (9)「与えられたテーマについて簡単なスピーチをする活動を行っていますか。」という問いに対して「よくしている」「どちらかといえば、している」(選択肢①②)の回答の合計は全体の53.5%でありいずれも半数を上回る。学校質問紙 No.1 (13)「伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じる活動を行っていますか」という問いに対して「よくしている」「どちらかといえば、している」(選択肢①②)の回答の合計は全体の47.0%と半数に迫り、各技能単独での活動は広がりつつある。

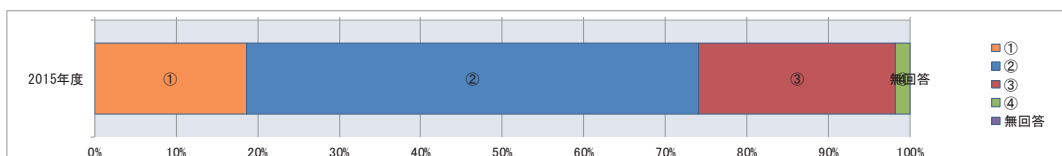
(4)「実践的な研修」は多くの学校で行われており、教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できる状況もある。

・No. 1 「英語教育に関して、模擬授業、授業相互参観、事例研究など、実践的な研修を行っている」

No.1 英語教育に関して、模擬授業、授業相互参観、事例研究など、実践的な研修を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
2015年度	回答数	1,706	5,098	2,209	166	0	9,178
	選択率	18.6%	55.5%	24.1%	1.8%	0.0%	100%

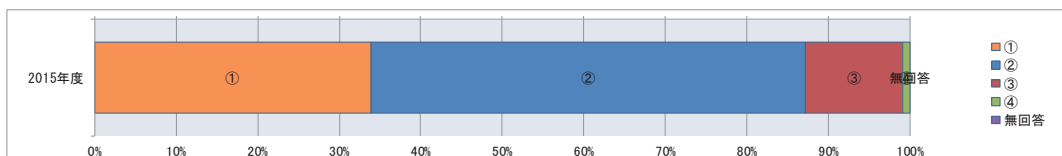


・No. 2 「英語教育に関して、教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか」

No.2 英語教育に関して、教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
2015年度	回答数	3,107	4,899	1,093	79	0	9,178
	選択率	33.8%	53.4%	11.9%	0.9%	0.0%	100%



学校質問紙 No.1 「英語教育に関して、模擬授業、授業相互参観、事例研究など、実践的な研修を行っていますか」との問いに対して「よくしている」「どちらかといえば、している」(選択肢①②)と回答した学校は全体の74.1%である。学校質問紙 No.2 「英語教育に関して、教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか」との問いには「よくしている」「どちらかといえば、している」(選択肢①②)と回答した学校は全体の87.2%である。

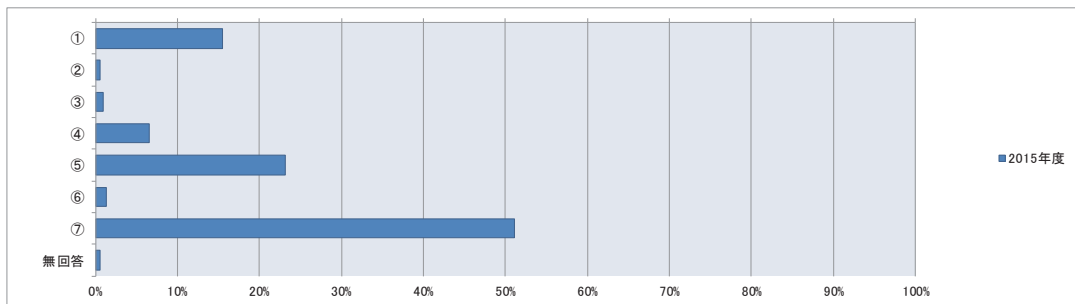
7割以上の学校で「模擬授業、授業相互参観、事例研究など、実践的な研修」が行われ、8割以上の学校で「教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしている」状況がみられた。

(5) 教員になってから英語に関する資格・検定試験を受験し、かつ英検準1級、TOEFL iBT80点、TOEIC730点以上のいずれかを取得している教員は少ない。

No.6 教員になってから、英語に関する資格・検定試験を受験しましたか（複数回答可）。

①英検（実用英語技能検定） ②GTEC ③IELTS ④TOEFL ⑤TOEIC ⑥その他 ⑦受験していない

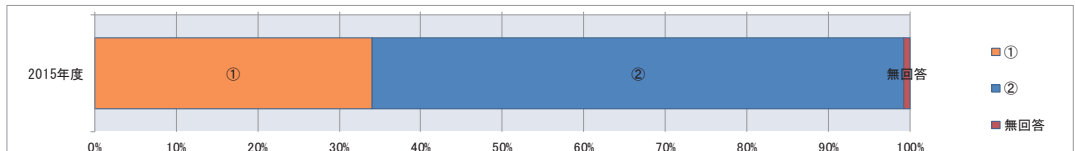
実施年度	選択番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	無回答	計
2015年度	回答数	5,497	208	326	2,347	8,166	511	18,093	227	35,375
	選択率	15.5%	0.6%	0.9%	6.6%	23.1%	1.4%	51.1%	0.6%	100%



No.7 外部検定試験を受験し、英検準1級、TOEFL iBT 80点、TOEIC 730点以上のいずれかを取得していますか。

①取得している ②取得していない

実施年度	選択番号	①	②	無回答	計
2015年度	回答数	10,522	20,132	228	30,883
	選択率	34.1%	65.2%	0.7%	100%



教員質問紙 No.6 「教員になってから、英語に関する資格・検定試験を受験しましたか」との問いに対して、「受験していない」（選択肢⑦）が 51.1%となっている。No.7 「外部検定試験を受験し、英検準1級、TOEFL iBT80点、TOEIC730点以上のいずれかを取得していますか」との問いに対しては、「取得している」（選択肢①）は 34.1%にとどまっている。

## 4. 改善のポイント

### <目標の設定>

生徒質問紙調査の結果から、「英語の学習が好きである」という回答は約半数であり、中学校第3学年の半数近くが英語学習を否定的にとらえている状況がみられた。一方で、将来の英語使用のイメージとして、「高校入試に対応できる力をつけたい」と回答する生徒が多く、自主的な英語学習時間も十分とはいえない結果がみられた。このように、英語の学習が好きではない生徒が多い上、実際の言語使用を目標として持つことができていないことがわかる。

学校・教員質問紙の結果から、英語学習の目標設定の現状についてみると、多くの学校において外国語科教員の間で指導目標やその達成に向けた方策は共有されており、言語活動に重点を置いた指導計画が作成されている。しかし、CAN-DO リストを技能別に設定している学校は少ない。このような状況から、現状では教員が設定した英語学習の目標は、生徒にとっては具体的に言語使用をイメージできる目標までは落とし込まれておらず、英語学習に対する強い内発的な動機付けには至っていない場合が多いのではないかと推察される。

こうした現状を改善するには、「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標を技能別に設定し、「生徒がどのような英語力を身に付けたいのか」、「いま生徒自身が英語を使って何ができるのか」を実感できるような目標設定や振り返りを行うことも一つの方法として考えられる。また、イングリッシュキャンプ、スピーチ大会、プレゼンテーション大会、ディベート大会、留学など、「英語を実際に使う」体験型の学習は、その活動自体を通して英語力を高める効果が期待できると同時に、将来につながる目標を持つきっかけとしても有効であると考えられる。

### <学習方法・指導内容>

生徒は、英語で概要や要点をとらえる活動や、聞いたり読んだりした内容をもとに英語で話し合ったり書いたりするなどの技能を統合した活動を、ある程度経験していると回答している。一方で、教員質問紙調査の結果では、英語で概要や要点をとらえる活動はある程度実施しているが、技能の統合を意識した言語活動への取組は行っていないと回答した教員が多かった。このことは、生徒が活動していると考えられる度合いと、教員が活動させたいと考える度合いの乖離も一つの要因ではないかと推察される。

教員質問紙調査では同時に、「実践的な研修」は多くの学校で行われており、教員が他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できる状況にあるという結果が得

られた。研修で得た成果を実践に移すための工夫が必要となる。

### <生徒の英語に関する資格・検定試験の受験経験>

中学生になってから資格・検定試験を受験した経験を持つ生徒は少ない。資格・検定試験を受験したことがない理由として、「自分の英語力に自信がない」と回答した割合が最も高く、「受験したいとは思わなかった（受験する必要性を感じなかった）」「受験したかったが、その機会がなかった」と回答した割合が次いで高かった。

「目標設定」における課題として、英語の学習が好きではない生徒が多く、将来につながる目標を持つことができていない状況が推察された。この対応策としては、資格・検定試験の診断的側面（試験結果から有益な情報を得て学習方法を改善していくなど）を強調し生徒の受験をうながすことも一案として考えられる。もちろん、資格・検定試験の受験準備そのものが英語学習の目標とならないよう、コミュニケーション能力の向上につながる授業展開の成果が反映されるよう留意すべきである。

## 5. まとめ

今回は、公立学校での調査データを中心に分析を行った。この分析を通して、公立の中学校の多くの生徒が英語学習に対して好意的なイメージを持っていないことがわかった。さらに、多くの中学生は、実際に英語を使用する各種体験を中学生活の中で経験できておらず、英語学習の目的として「高校入試」を考えている現状も明らかになった。特に英語力の低い生徒にとっては、自主的な英語学習を継続できていないことが推察される。

彼らの英語学習を支える学校・教員は、授業外での国際交流・コミュニケーション能力育成のための取組や、授業内での技能統合を意識した言語活動の展開などにおいて、さらなる工夫が必要な状況にあることがわかった。

教員が学校内外の各種研修に参加できるように学校側は体制を整えているという回答がみられたが、今後は、研修の成果を実際に授業につなげていく工夫が必要である。その一つの案としては、英語教育推進リーダーなど地域で積極的に指導改善を進める教員の活用が考えられる。また、「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標を技能別に設定し、それを教員と生徒の共通の目標とした上で、指導と評価が一体的に行われるように工夫することも有効であろう。このような工夫を通じて、英語の学習を「好き」にさせる指導や評価を行っていくことが重要である。そうすることが、生徒が英語力について将来の言語使用につながる目標を持ち、授業以外でも積極的に英語に接する生徒の育成につながる事が期待される。

## 5章 学校の取組紹介

<b>A 中学校</b> 「習熟度別の指導と『ことば科』授業で『論理的な思考力・表現力』を育成する」	110
<b>B 中学校</b> 「即興で話すペア・ワーク、グループ・ワークを多用し3年間を通じて表現力を育成する」	118
<b>C 中学校</b> 「小中一貫した少人数指導で英語を使う機会を増やし、生徒の英語に対する前向きな気持ちを育む」	126
<b>D 中学校</b> 「アウトプットを意識した授業を実施し、4技能をバランスよく育む」	132
<b>E 中学校</b> 「CAN-DO リストの運用と毎授業の言語活動で生徒のスピーキング力を伸ばす」	140
<b>F 中学校</b> 「技能を統合した活動の充実と見通しをもった授業展開で、生徒の意欲と4技能をバランスよく育む」	148

取組紹介① A 中学校

習熟度別の指導と「ことば科」授業で  
「論理的な思考力・表現力」を育成する

◎学校プロフィール（※学級数及び生徒数は平成28年1月調査日時点）

設立・形態	平成16（2004）年設立・併設型中高一貫教育校
学級数・生徒数	第1学年…4学級（160人）、第2学年…4学級（160人）、第3学年…4学級（158人）
ALT活用状況	常勤1人。非常勤1人。
取組の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中高の教員連携と生徒の交流から生まれる、「将来へつなげる英語」</li> <li>・1年次2学期から習熟度別授業を展開</li> <li>・「ことば科」授業で英語の運用力を高め、「論理的な思考力・表現力」を強化</li> </ul>

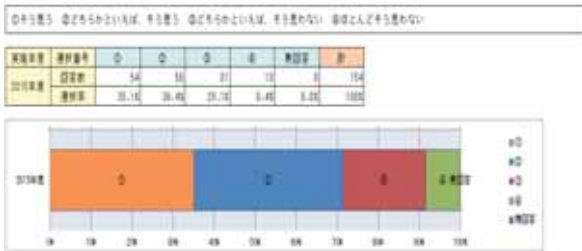
◎試験結果、質問紙における学校の特徴

・第3学年の平均スコア（点）

	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
A 中学校	145.2	138.0	56.9	12.5
全国平均（公立学校）	82.6/170	90.5/170	28.5/96	7.4/14

・生徒質問紙結果

No.1 英語の学習は好きですか。最も当てはまるものを1つ選んで



No.15 次の学年の英語の授業では、英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと



全国平均を大きく上回るスコア、言語活動は  
2倍の実施率

4技能すべてにおいてスコアは全国平均を大きく上回った。生徒質問紙No.1「英語の学習は好きですか」では、71.5%の生徒が「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答。全国平均の56.1%を約15ポイント上回り、学習への前向きな姿勢が表れていた。また、No.15「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思いますか」では、全国平均で「そう思う」が28.5%に対して、同校は約2倍の57.1%となった。

なお、同校は中高一貫校である。6か年の指導構想がどう機能しているかにも注目したい。

◎調査結果に寄与したと考えられる授業内の取組

1. 中高の教員連携と生徒の交流から生まれる、「将来へつながる英語」

中高一貫校である同校では、6年間の計画的・継続的な教育活動が営まれており、生徒は英語を使えるようになるための英語学習に取り組める環境にある（図1）。高等学校で先行してCAN-DO形式の学習到達目標が設定され、現在は中学校でも作成され、運用されている（図2）。今後は中高一貫での学習到達目標設定を目指すという。

このような目標設定や授業改善などを組織的に推進することはもちろんであるが、同校は中学校と高等学校が一つの校舎内にあるため、中高の教員は同じ職員室を使い、日々の連携も密である。外国語（英語）科では高等学校の教員が中学校の授業を担当することが日常的に行われ、逆に中学校の教員が高等学校の生徒を教えることもある。これにより中学校の教員も、高等学校卒業段階で必要とされる英語力に実感を持てる。そのレベルに到達するためには中学段階でどのようなことができる必要があるのかを考え、長期的な視点から教材選定や指導、生徒への意識付けを行っている。生徒としても、英語学習者のロール・モデルとなる高校生が身近にいることは大きな励みになる。先輩が各時期にどのような活動をし、どのような努力をして力を伸ばしているかを実際に見て、時には直接相談することもできる。高校生は将来的な英語力の目標を具体的に持っていることから、先輩との交流はよい刺激となるだろう。

図1 外国語（英語）科6年間の教科等プログラム

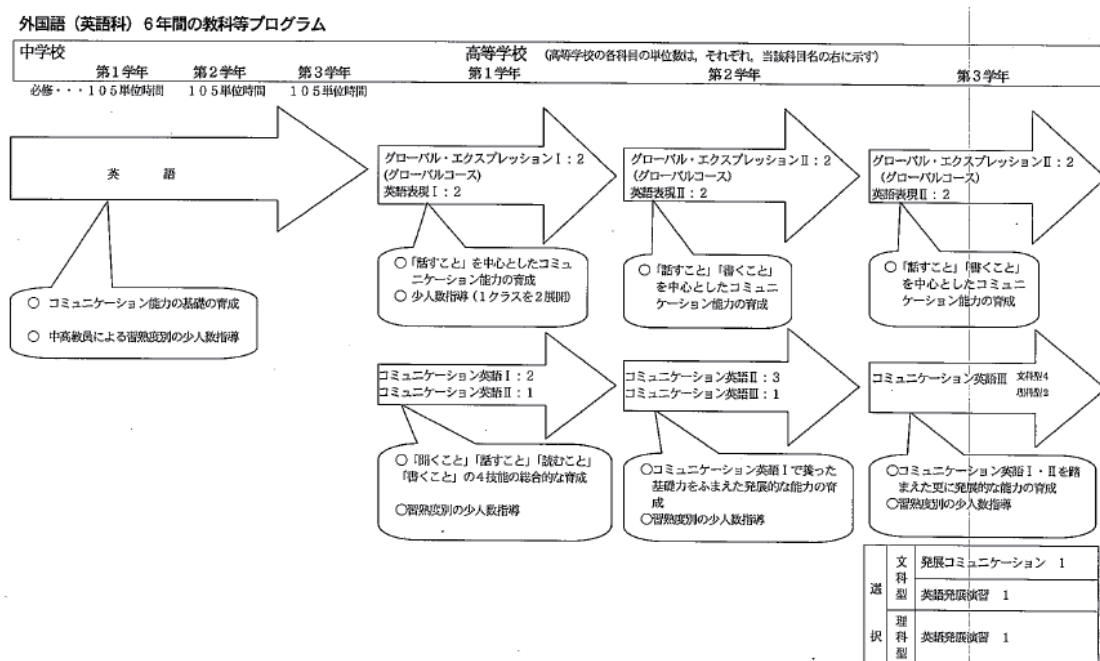
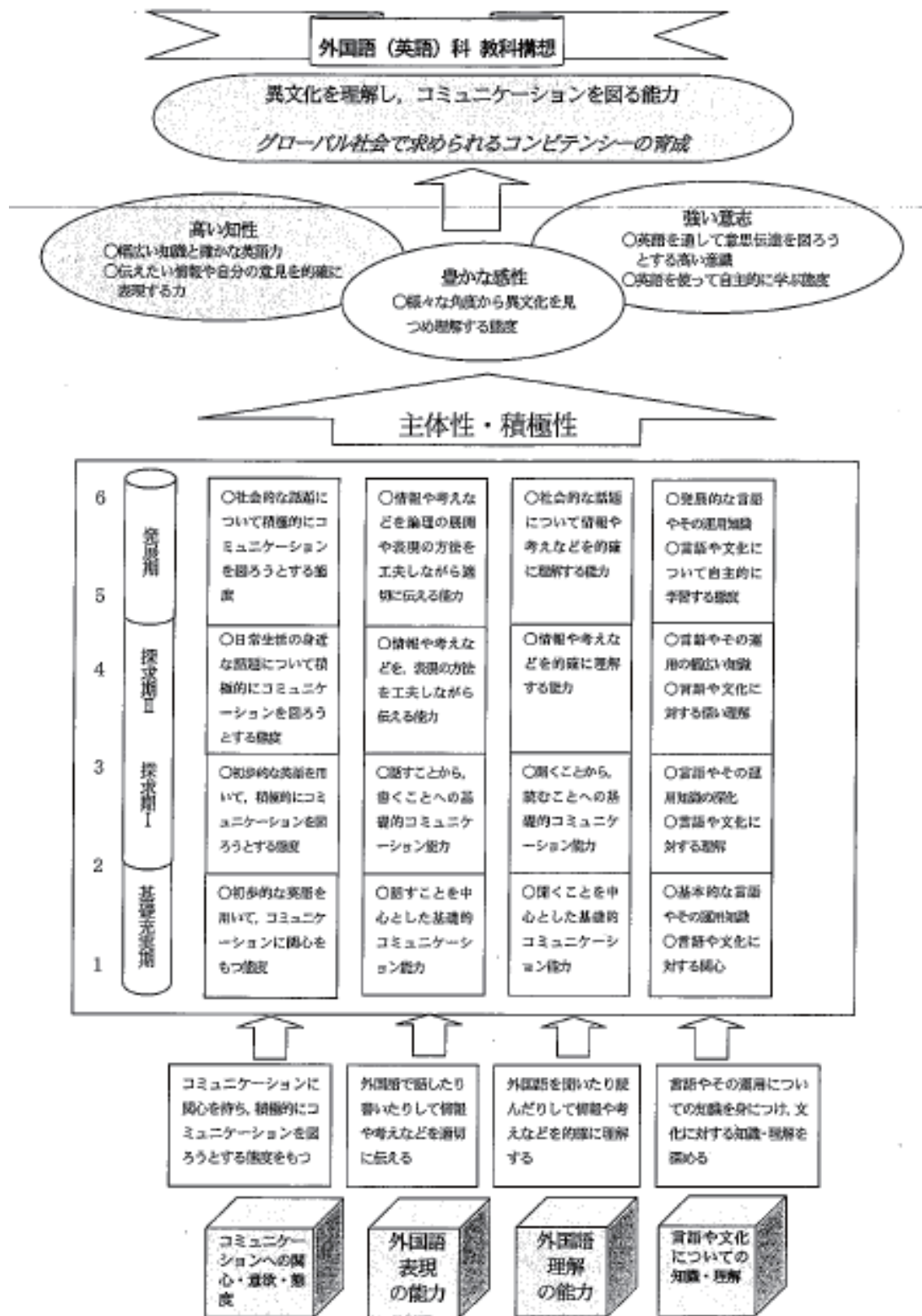




図2 外国語（英語）科 教科構想



## 2. 1年次2学期から習熟度別授業を展開

同校では1年次の2学期から習熟度別に英語の授業を行っている。習熟度は定期考査等の結果から判断する。年間を通してコースを固定することはなく、考査結果等を参考にしてコース変更する生徒もいる。1年次は1クラスを2展開にコース分けし、2年次からは2クラスを「スーパー発展」「発展」「標準」の3展開に分ける。これによって少人数制のより細やかな授業を行うことが可能となった。3年次の「スーパー発展」は高等学校の教員が担当する。

### [授業例]

学習の初期段階は、家族など身近な話題を扱う。英語で家族構成を紹介する、ペア・ワークによりゲーム感覚で進行するなど、英語への抵抗感を少なくすることがねらいである。

2年次の「スーパー発展」コースの授業では、「英語で古典を読んでみよう」と題して授業を行った。教科書の主人公が山形県を訪れ、松尾芭蕉のゆかりの地である山寺を訪ねる場面を題材として、代表作『奥の細道』より立石寺が英語でどのように表現されているかを読ませ、さらに日本語の『奥の細道』と比較させて感想を発表し合うところまで展開する。

具体的には、音声で芭蕉の俳句の説明文を聞かせた後、ワークシートを用いて日本語での芭蕉の句と、英語に翻訳された句の内容を照らし合わせて理解させる。教科書に掲載されていない俳句とその英訳も取り上げ、生徒が発展的な読解に取り組む課題を設定している。生徒には俳句を味わう目的を持たせているので、未知語等も注釈を助けに乗り越え、3～4名の班で協力しながら、理解を進めることができるという。

内容を理解した後は、それを班で話し合う。話し合う際には、個人で簡単なメモを用意するが、あくまでも即興性を重視している。生徒は人の発表を聞いた際には、同意を示したり、質問をしたりするなど必ず何らかの反応を示すように指導されている。このように同校では、題材となる英文を理解するだけにとどまらずに、意見交換までを含めた授業が多く行われている。

### [評価手法]

英文素材を読み、その内容について話し合う活動は、評価においても一貫して行われている。各学年とも年2～3回、生徒1対教員1で面接形式のパフォーマンステストを行っている。3年次の夏休みの課題として与えられたオードリー・ヘプバーンに関する物語について、教員がカードを準備し、ランダムで生徒に渡して音読させた後、カードの質問について英語でコミュニケーションするという手法をとった。また、自己評価も重視している。考査結果を生徒自ら振り返るために、答案に対して誤答分析ノートを作成させている。これによって習得未習得や得意不得意を自ら発見できるため、自発的に弱点克服を試みる

姿勢につながっているという。

### **3. 「ことば科」授業で英語の運用力を高め、「論理的な思考力・表現力」を強化**

同校は、教育課程特例校に指定されており、グローバル化時代に必要な「論理的な思考力・表現力」を身に付けることを目的として教科「ことば科」を開設している。

「ことば科」は1年間で60時間の授業を行っている。うち35時間を「ロジカル・コミュニケーション領域」として、4技能を統合的にトレーニングし、国語科との合科的な表現活動を行っている。「ことば科」では、生徒が英語でプレゼンテーションができるようになることから始め、最終的には3年次に英語でディベートができるレベルに到達することを目標にしている。

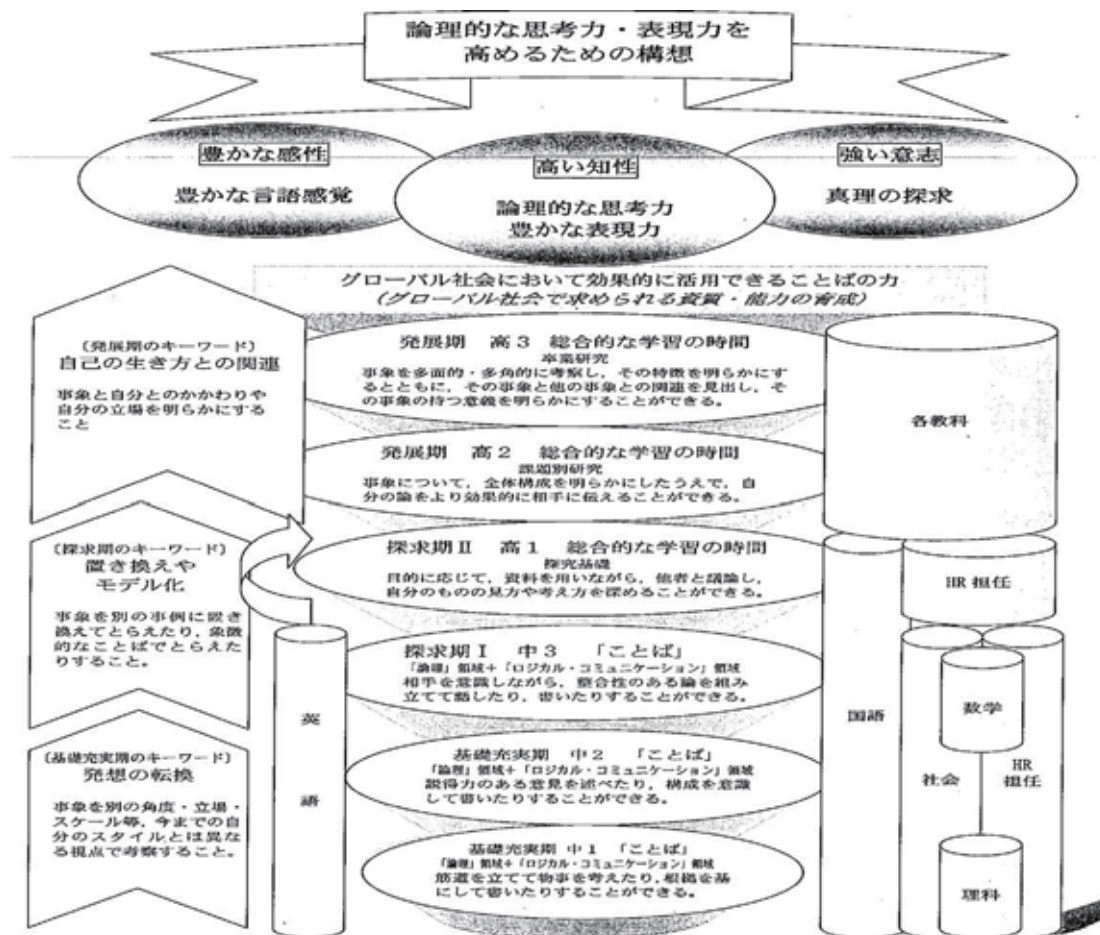
生徒は自分たちの主張を説得力をもって相手や審判に伝えるために、自ら客観的データを収集し、わかりやすい表現方法をグループ内で協議する。発表の場として、校内で英語ディベート大会が行われる。クラスでの予選を経て、各クラス1チームが代表として本大会に出場する仕組みとなっている。英語ディベート大会の課題としては「Convenience stores should stop selling 24 hours a day. ～コンビニエンスストアは24時間営業をやめるべきである～」を設定した。

この到達目標に向けて1年次より段階的、多角的に指導が行われる。1年次では身近なテーマについて英語でプレゼンテーションすることから始まるが、話す対象や目的を具体的に設定するという。例えば、架空の留学生を設定し、その留学生にすすめたい食べ物や帰国時のお土産を生徒自身が考えて表現する。また、「再話力」という再現する力を養うために、英語の物語を、メモを取りながら聞き、それを書き起こしていくという活動や、日本や外国の物語のあらすじをもとに英語で寸劇の台本をつくり、実際に演じるスキットコンテストを行っている。

2年次では論理的コミュニケーション力の育成に欠かせないパラグラフライティングや、英語表現力の育成のためのレシテーション（暗唱）コンテストを行う。コンテストでは、素材として『トム・ソーヤーの冒険』などの作品を生徒自身に選ばせ、名作の豊かな英文に多く触れる機会をつくっている。

このようにして、「ことば科」で得た経験が他教科の学習に生かせたり、英語の授業で得た基礎力が「ことば科」で活用できたりといった、経験と知識のサイクルが、高い相乗効果を生むことが期待される。

図3 論理的思考力・表現力を高めるための「ことば科」構想  
 (高等学校における「総合的な学習の時間」につながる)



◎授業以外の取組

1. カナダ語学研修の実施

高等学校の方はスーパーグローバルハイスクール (SGH) 指定を受けており、グローバルリーダー育成キャンプやハワイへの修学旅行を実施している。これらの活動に向けて中学校では、希望者に対して毎年春期にカナダでの10日間の語学研修を実施している。

生徒はそれぞれ現地の一般家庭にホームステイし、生活を通して生の英語や異文化に触れる貴重な経験ができる。また、現地学校では午前中に英語での語学研修を受け、午後には市長訪問を始めとした各種文化体験が盛り込まれる。充実した研修内容は生徒にとっても魅力的である。研修費は自己負担であるが、毎回40名の催行人数を上回る希望者が出るために抽選になるほどの人気となっている。





取組紹介② B 中学校

即興で話すペア・ワークやグループ・ワークを多用し  
3年間を通じて表現力を育成する

◎学校プロフィール（※学級数及び生徒数は平成 28 年 1 月調査日時点）

設立・形態	昭和 24（1949）年設立
学級数・生徒数	第 1 学年… 8 学級（321 人）、第 2 学年… 7 学級（285 人）、第 3 学年… 8 学級（329 人）
ALT 活用状況	常勤の ALT 1 人によるパフォーマンステストを実施。
取組の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味付けと目標設定で生徒の取り組み意欲を伸ばし続ける</li> <li>・ペア・ワーク、グループ・ワークでコミュニケーション能力の基礎を育成</li> <li>・ALT とのパフォーマンステスト</li> </ul>

◎試験結果、質問紙における学校の特徴

・第 3 学年の平均スコア（点）

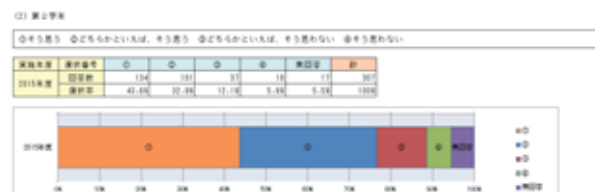
	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
B 中学校	117.0	123.2	47.1	11.2
全国平均（公立学校）	82.6/170	90.5/170	28.5/96	7.4/14

・生徒質問紙結果

No.1 英語の学習は好きですか。最も当てはまるものを 1 つ選んで下さい。



No.13 次の学年の英語の授業では、与えられた話題について、  
(特に準備をすることなく) 即興で話す活動をしていましたか。



4 技能すべてが全国平均を上回り、即興で話す活動の実施率が高い

4 技能ともにスコアは全国平均を上回った。生徒質問紙 No.1 「英語の学習は好きですか」においても、73.0%の生徒が「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答し、全国平均の 56.1%を 17 ポイントほど上回った。特徴的なのは No.13 「与えられた話題について、(特に準備をすることなく) 即興で話す活動をしていましたか」に対する回答である。「そう思う」との回答が、全国平均 17.2%に対して、同校ではその割合は 2 倍以上の 43.6%である。生徒が英語学習に前向きに取り組み、話す活動にも親しんでいる状況が、どのような指導の成果なのかに注目したい。

## ◎調査結果に寄与したと考えられる授業内の取組

### 1.興味付けと目標設定で生徒の取り組み意欲を伸ばし続ける

同校の校区は英語を使う職業に就く保護者や英語の重要性を感じる家庭が多く、早期英語教育にも積極的である。また、市では小学校1年生からの英語教育を推進していることもあり、生徒全体としては、入学段階での英語に対する拒否反応は少ないという。しかしながら一部の生徒には、中学校での初期の授業での戸惑いが苦手意識につながる傾向も見られた。そこで同校では、英語に対する興味・関心を持たせる仕掛けを取り入れた授業で、生徒の意欲を引き出し続けている。

具体的には、英語の歌を歌うことを積極的に授業に取り入れている。既に親しみのある歌を歌うことで、英語への抵抗感をなくし、次のステップである教科書を基本とした学習への移行もスムーズになる。また、生徒は歌いながら自ずと正しい発音や単語間の音声のつながりを体得していく。

別の例として、「ポイント制」が挙げられる。生徒一人一人に「ENGLISH STAMP CARD」というポイントカードを配付している（図1、2）。授業中の発言や宿題の提出、英語のゲームのような活動に積極的に取り組むと、生徒のカードにその都度ポイントが蓄積されていく。小さな努力が目に見える形で残り、評価されることが励みになるようである。目の前の授業に集中させる効果もあるという。

もちろん、歌やポイント制のように楽しいだけでは、本調査結果のような高い英語力は得られない。力を伸ばすための指導の根底には、教員間で行われている目標設定がある。同校の場合は、教科書で学習した文法事項を生徒が実際にどの程度使えるようになることを目指すかをCAN-DO形式で設定している。また、英語科会を毎週実施し、進捗や評価方法、授業での活動やハンドアウトの共有が行われている。継続的に事例を共有することで、指導方法が学校全体として改善し、クラス間での指導内容の差も縮小した。



図 1 ENGLISH STAMP CARD (外面)

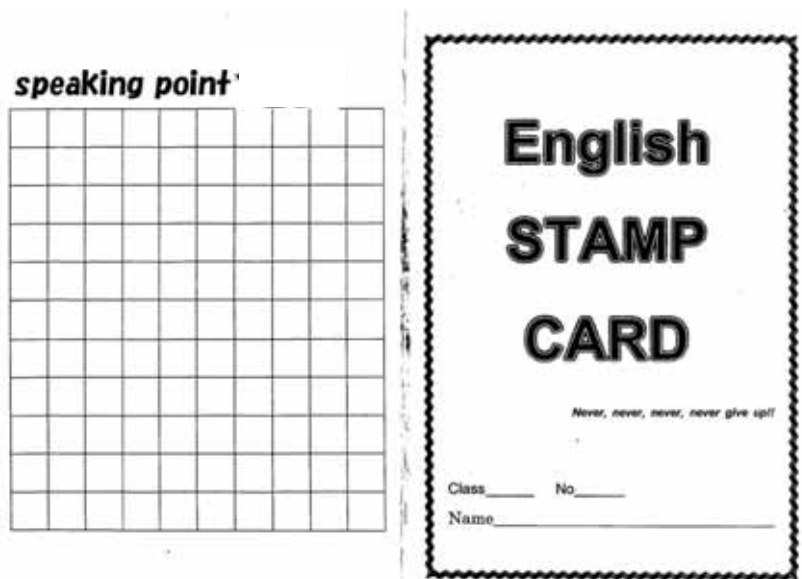
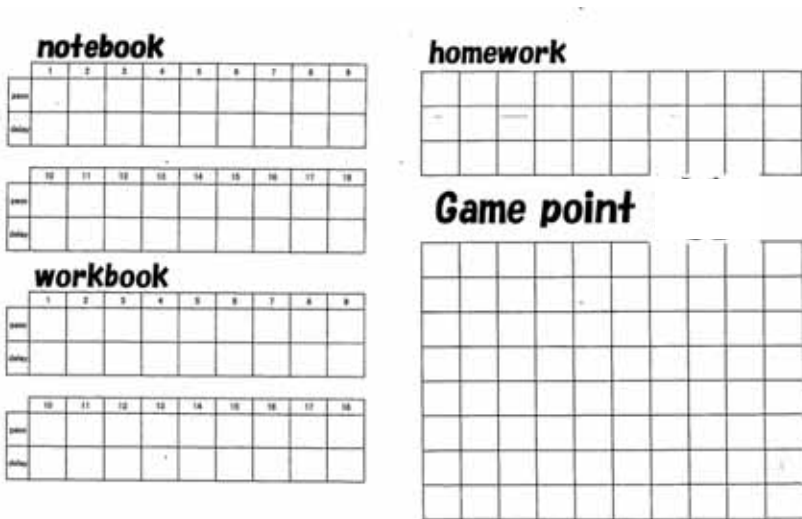


図 2 ENGLISH STAMP CARD (内面)



**2. ペア・ワーク、グループ・ワークでコミュニケーション能力の基礎を育成**

同校では4技能の中でも聞く・話す力から英語力の育成に取り組み、コミュニケーション手段としての英語を身に付けさせることをねらっている。そのために、授業ではペア・ワークを多用する。この結果として、前述のように「即興で話す活動」の実施状況が高かったものと推測される。生徒が気軽に英語を話す機会は、実際には教員の入念な事前準備によって創出されていく。同校の計画的・段階的な指導の流れに着目したい。

1年次の初期指導から、授業でペア・ワークを実施する。そのため生徒は、中学校での英語学習の型として、抵抗なく受け入れる。ただし、生徒が尻込みして会話が成立しにく

くならないよう、まずは YES/NO で答える Q&A 方式の会話から開始する。慣れた頃に、YES/NO に「プラス1」として1文を付け加えた応答を目標にする。

ペアは席順ではなく、カードを使ってランダムに組む。これは毎回同じペアで緊張感が薄れてしまうことを防ぐとともに、新しい相手の未知の情報を引き出すという活動自体の必然性を高めるためである。

2年次以降は、スポーツや趣味など毎回テーマを設定し、テーマにそったスモール・カンバセーションができるようになることを目標とする。3年次では、授業時間のかなりの時間をペア・ワークに費やす。図3のようなシートを用いて書く活動も加え、会話内容を発表するなど、4技能の総合的な育成を行う。

図3 チャットシート (ペア・ワークでの会話内容を書き出し、皆の前での発表に使う)

Group Chat time No.1				
Date		Partner	アイコンタクト	積極性
/	/		A・B・C	A・B・C
メモ欄				
Date		Partner	アイコンタクト	積極性
/	/		A・B・C	A・B・C
メモ欄				
Date		Partner	アイコンタクト	積極性
/	/		A・B・C	A・B・C
メモ欄				
Date		Partner	アイコンタクト	積極性
/	/		A・B・C	A・B・C
メモ欄				
Date		Partner	アイコンタクト	積極性
/	/		A・B・C	A・B・C
メモ欄				

最終的には、ペア・ワークから4人1組によるグループ・ワークへと発展させ、英語でプレゼンテーションを行う。1対1だけではなく、複数人とのコミュニケーションにつなげるのがねらいである。また、ワーク中のメモは英語で取らせ、実践的・実用的な場面を創出していく。

以下がグループ・ワークの具体的な流れである。

### **[ショート・スピーチ]**

4人のグループ内の1人が、英語で1分ほどのショート・スピーチを行う。テーマは直前に教員から与えられる。生徒は簡単なメモを基に、即興でスピーチを行う。

### **[質疑応答]**

スピーチの内容に対して他の3人が英語で質問や感想を述べる。この流れを前提としているので、目的意識を持って聞くことができる。不明点を質問する姿勢は、英語を使う場面に限らずコミュニケーションの重要な能力といえよう。また、スピーチの内容把握と同時に自分の意見をまとめる作業を行い、それを英語で的確に相手に伝える力を養っていく。これを1セットとし、全員が行う。

### **[プレゼンテーション]**

各グループから代表者1人が出て、スピーチと質疑をまとめたプレゼンテーションを行う。それに対してクラス全体で質疑応答、意見交換が行われる。同校の授業では、プレゼンテーションを希望する積極的な生徒が多いという。

### **[学習の振り返りと気づき]**

グループ・ワーク終了後に、各自が学習の振り返りを行う（図4）。このように、学習した文法事項等を使う機会を経て、英語によるコミュニケーション能力を高めていく。ただし、グループ・ワークは、英語を使うことだけが目的ではなく、相手に意図が伝わることの重要性に気付かせることも大きなねらいである。

英語力の高い生徒は、複雑な構文や文法を使いたがる傾向にあるという。その意欲自体は評価できるものの、現実として平易な表現を正確に使う方が相手に伝わりやすいという経験もする。

図4 Group talk の振り返りシート

**Group talk Theme: TV & Music**

Class( ) No.( ) Name( )

---

4(3)人1グループでグルーブトークをします!  
(グルーブディスカッションを目指して!)

**目標**

- ・テーマに関する自分のこと色々な文法を使って伝えることができる。
- ・相手のスピーチをしっかりと聞き取ることができる。
- ・友達の話から質問を投げかけ、自分の意見を伝える。

**流れ**

1. 話す順番を決める。
2. Speech time  
1人30~40秒程度。テーマについてスピーチをする。(間15秒×E time)
3. Question time  
1人終わった後、約2分間、スピーチに関することから順番に質問をしていく。
4. Writing time  
全員が終わったら1人につき、3文以上、英語で書く。
5. Share time *Share your opinion*  
グループ代表者を決め、どんな話をしたかを全体に伝える。

**評価**

A: 聞いている側を考慮してスピーチをし、その後の質問も友達の話をよく聞いて、自分の意見を英語で述べている。

B: 聞いている側を考慮してスピーチをし、その後のきちんと質問をしている。

C: 自分のことばかりで、相手の話を聞いていない。

Your Opinion

- I think so too.    • I also like it.    • I don't like it. (Because~)
- It is (easy, difficult, hard, interesting, important, dangerous, necessary, exciting, frustrating,) for me to ~.
- It makes(made) me (happy, sad, angry, nervous, confused,).

I like Music.  
My favorite movie is "The Godfather" and "The Godfather Part II".  
Because I like "The Godfather". And I like "The Godfather Part II" story.  
It made me exciting and wonderful!!  
I like Jibori too.  
I especially like Mamekichi.  
Mamekichi sound track is very great!!  
I like it.

Date	Partner
7/1	<p>He likes life. His favorite is interesting. Life is like a story. So I like it too. His favorite story is "The Godfather". Because he likes "The Godfather".</p>
	<p>He likes Jibori. His favorite story is "The Godfather". Jibori is interesting. Jibori is written. Yoshihito is main character. Jibori is performed at 1992. I don't know this drama.</p>
	<p>She likes Disney. / She likes sun better than land. She wants to see "The Godfather". Her favorite story is "The Godfather" and "The Godfather Part II". Because "The Godfather" is very cute. I like "The Godfather" too.</p>

自己評価	話をよく聞いて、質問ができた	A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/>
	自分の意見や考え、感情を書いた	A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/>

### 3. ALTとのパフォーマンステスト

同校では評価の一環として、1学期に1回、ALTと1対1で会話を行い、英会話力を確かめるテストを実施している。時間は1人約1分半、ALTからの質問に答えながら、フリートークを行う。事前に大まかなテーマは与えられ、会話がスムーズに盛り上がっていくことを理想としている。生徒の方でテーマから逸脱していくことは減点対象となる。A/B/Cの3段階で評価され、これが成績にも加味される(図5)。

生徒もパフォーマンステストでの成績評価を意識している。日々の授業においても「英語を話せる、コミュニケーションできる」という目標を自分のものとして実感を持ってとらえられるであろう。

図5 パフォーマンステストの評価表 (観点は生徒に共有され、意識付けに役立っている)

<i>conversation test</i>		
attitude	アイコンタクト、積極的に話そうとしているか	A ▪ B ▪ C
grammar	文で答えたり、正しい答え方、文法を正しく使えているか	A ▪ B ▪ C
natural	テーマの話、会話が自然な流れで続いている、プラス1や質問で返す等	A ▪ B ▪ C
creative	相手の内容をきちんと理解し、話を膨らましていける	A ▪ B ▪ C

Class \_\_\_\_ No \_\_\_\_ Name

◎授業以外の取組

1. AETを招いてのトーク会

同校では年1回、AET(この自治体における呼び方で、Assistant English Teacher の略。小学校や中学校などで英語の授業の助けをするネイティブ・スピーカー。)との交流会を開催している。これは生徒4~5人のグループの輪の中にAETが加わり、英語のみで自由に会話するというもの。ネイティブ・スピーカーと触れ合う経験が少ない生徒にとっては、自分の英会話力を試してみる好機となり、多くの生徒が楽しみにしている。また、振り返りを行い、授業内のペア・ワークやグループ・ワークのテーマとして活用している(図6)。

図6 AETを招いての交流会とその振り返り

**SEPRO report**  
4人、または5人のAETについてレポートを書きましょう！(巻数32)  
必要事項 - 名前  
レイアウトも考え、相手の話や質問にこたえましょう。

First, we talked with . He is 26 years old.  
He likes snack, his favorite snack is Gummy.  
He thinks sweet taste is the most delicious.  
I think so too! He likes Japanese girls comic.  
Because they make him happy. He has a dog.  
He is very kind and very funny! (His name is Akira)

Second, we talked with . He is 31 years old.  
He is from England.  
He costumed spider man, and Zombi.  
He said Zombi's make is so easy.

and, we talked with . He likes yohitori.  
He is from London, England.  
He likes basasi and yakitori.  
He has been in Japan for eight weeks.

He is 26 years old. He likes Pumpkin.  
His horse is very tall. I think he is very cool.  
It is difficult for me to write kanji.  
His favorite kanji is "と" and "川".  
Because it's easy for him.

I had a very good time!  
I want to do again!  
Alina

**SEPRO report**  
4人、または5人のAETについてレポートを書きましょう！(巻数32)  
必要事項 - 名前  
レイアウトも考え、相手の話や質問にこたえましょう。

He is from England.  
His favorite place in his country is Tokyo.  
He likes movies better than CDs.  
Because city is so noisy.  
I thought he was adult.

I like Superman!  
Japanese people are so nice!

She's from America.  
She lived in Texas.  
She likes these better than New York.  
Because New York is so noisy.  
I thought she is similar to Mr. Parker.

He is from England.  
His favorite kanji is "Mr".  
He can play skate boarding.  
I thought he was so cool.

I like sushi!  
I like movies in English!

I like soccer!  
I like to do soccer in school!

He is from America.  
His favorite baseball team is Cubs.  
Because he likes "Cubs" in America.  
He has a girl friend in Japan.  
I thought he was very good at Japanese.

But, I was so excited!  
I don't talk with so many people from abroad.  
It was good experience for me!  
I will try to talk with more people from other J.  
Alina

All of them were so tall.  
And all of them looked into my eyes.  
I was so surprised.  
And I became so tired.



## 小中一貫した少人数指導で英語を使う機会を増やし、 生徒の英語に対する前向きな気持ちを育む

### ◎学校プロフィール（※学級数及び生徒数は平成 28 年 1 月調査日時点）

設立・形態	平成 22（2010）年設立
学級数・生徒数	第 1 学年…1 学級（13 人）、第 2 学年…1 学級（10 人）、第 3 学年…1 学級（14 人）
ALT 活用状況	非常勤 1 人。
取組の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫、9 か年の継続的な英語学習を実現</li> <li>・少人数の環境を生かした、個々の習熟度に沿った細やかな指導</li> <li>・全校生徒の英語作品を共有</li> </ul>

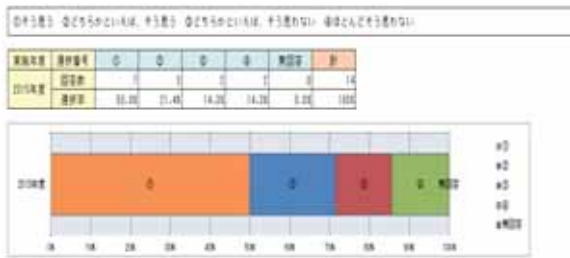
### ◎試験結果、質問紙における学校の特徴

#### ・第 3 学年の平均スコア（点）

	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
C 中学校	94.9	102.5	38.1	9.6
全国平均（公立学校）	82.6/170	90.5/170	28.5/96	7.4/14

#### ・生徒質問紙結果

No.1 英語の学習は好きですか。最も当てはまるものを 1 つ選んで下さい。



No.12 次の学年の英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、  
生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりしていたと思いますか。



#### 少人数の環境を生かし、生徒の英語に対する 前向きな姿勢を引き出す

4 技能ともにスコアは全国平均を上回った。生徒質問紙 No.1 「英語の学習は好きですか」においても、71.4%の生徒が「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答し、全国平均の 56.1%を約 15 ポイント上回った。特徴としては、No.12 「生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりしていたと思いますか」に対して「そう思う」50.0%と、全国平均「そう思う」32.2%を大きく上回り、「英語を話す」活動に積極的に取り組んでいる点が挙げられる。

同校は小中一貫校で、生徒数は第 3 学年が 14 人と小規模校でもある。生徒個々に目を配り、積極的に英語で発話させるための指導がなされている。

## ◎調査結果に寄与したと考えられる授業内の取組

### 1. 小中一貫、9か年の継続的な英語学習を実現

地域の少子化による生徒数減少に直面していた同校は、校区内1小1中という特性を生かして施設一体型の小中一貫校として設置された。第1学年（小学校第1学年）から第9学年（中学校第3学年）までが同じ校舎内で学んでいる。

同校は地方の子どもに対してこそ、学校がグローバル化の推進役となるべきと考え、小学部から「英語科」を設置した。そして現在は、文部科学省の「英語教育強化地域拠点事業」の研究校として初等・中等教育における体系的な英語教育を実施している。

もちろん構想から実現に至る経緯は平坦ではなく、当初は小学部では第5・6学年にししか英語科授業を行っていなかった。そこから複数年かけて体制を構築し、英語教育実施の早期化、教科化に取り組んできた。小学校第1・2学年でアルファベットやローマ字の学習を始め、週1時間の外国語活動、小学校第3・4学年は朝活動として週に4日、10分ずつの英語学習と週1時間の外国語活動、小学校第5・6学年は週1時間ずつの外国語活動と英語科の学習を行っている。ALTによる授業や民間からの出前授業も8年ほど前から導入し、今も先駆的な試み続けている。

同校全体として英語の好きな生徒、興味を持つ生徒が増加したのは、これらの取組が生徒の英語経験の土台となり、功を奏したものと考えられる。また、小中一貫校として、中学校の英語の初期指導に際しては小学部からの連続性を考慮しやすい。生徒は中学校での英語学習にも抵抗感なく臨めるであろう。

さらなる取組として、現在、小中9年間を通してのCAN-DO形式の学習到達目標設定を進めている。これまでは指導方法や評価方法が各教員の裁量に任せられていた部分も多いが、これからは担当教員全員が目線を合わせつつ、学校全体としてより有効な指導を目指すという。

### 2. 少人数の環境を生かした、個々の習熟度に沿った細やかな指導

同校は生徒数が少なく、第3学年は1クラスのみで計14人である。この規模でもやはり家庭環境は多様であり、小学校入学段階での英語経験も異なる。中学校段階では、生徒の習熟度にはさらに開きが出やすくなる。同校では家庭学習の課題などは個々の状況に応じたものを与える場合も多い。

例えば、英語の習得には量的な観点是不可欠であるが、課題を出す場合は全員一律の内容とは限らない。どうしても英語が苦手な生徒に対しては、厳選した単語と文法の反復練習に絞ったものとする一方、習熟度が比較的高い生徒には、副読本や発展的な英文を与え、多読につなげていく。



授業はクラス全員が積極的に参加し、英語を使う場になっている。ペア・ワークも取り入れ、英語を話しながらゲーム感覚で反復練習を行っている。より多くの相手と多くの対話を繰り返す必然性を持たせ、教科書にある基礎知識を「話す」活動を通じて定着させることをねらったものである。

### **3. 全校生徒の英語作品を共有**

同校では生徒が英語授業で制作した作品を廊下や掲示板に展示し、それを全生徒が見ることができる。小学生には中学での英語学習をイメージするきっかけとなり、中学生には過去の学習内容の振り返りとなる。同校は近年、その展示をさらに進化させ、共有のパソコン内に生徒の成果物をデータ化して蓄積し、簡単に閲覧できるようにした。

生徒は英語授業で取り組んだ職業体験や沖縄での平和授業のプレゼンテーション資料をパワーポイントで作成し、パソコン内に設けられた各生徒別のフォルダに保管。それらはパソコン教室にある約 20 台のパソコンで、全生徒・教員が自由に閲覧できるようになっている。生徒は、先輩の過去の作品を見て自分が取り組む予定の課題の予習をしたり、自分の過去の成果物の振り返りを行ったりして活用する。教員にとっても、生徒の習熟度を具体的な作品を通して把握しやすくなったという。

同時に、英語学習の副産物として生徒のパソコンスキルの向上も挙げられる。同校では、パソコン上での作品収蔵を考えた場合の利便性も考慮して、作品やレポートはパソコンで作成するように指導している。パソコン操作自体は小学部から導入しているが、英語の課題と結び付くと生徒たちのモチベーションも全体としてますます高まるという。イラストやデザインが苦手な生徒にとっては、パソコンを使うと美しく仕上がるのが励みにもなる。最初は短文の入力に長時間を要していた生徒も、すぐにパワーポイント等を使いこなしてレポートを作成するまでになるという。操作が得意な生徒であれば、英語自体には苦手意識があっても課題には前向きに取り組める。

図1 生徒が作成したプレゼンテーション資料



### ◎授業以外の取組

#### 日常生活から学校行事まで、英語に触れる機会を確保

校舎内の壁や窓、階段にはアルファベットや数、色、指示名詞等の英語が小学生の興味を引くように掲示されており、日常生活で出合うべき英語が自然に目に入ってくる。中学校での行事としては、例年、広島や沖縄での平和教育を行っている。これらの機会には外国人とのコミュニケーションを促す。また、職業体験ではそのレポートを日本語だけでなく、英語でもプレゼンテーションする。このように、まずは英語に親しむ環境からスタートし、9か年で段階的に英語を用いて何ができるかを意識させるまでに引き上げていく。

少人数の環境は、ともすると固定的な学習に陥ってしまう恐れもあるだろう。しかし同校では、少人数だからこそそのきめ細かな指導に加えて、多彩な活動を展開しており、生徒が前向きに英語で発信する姿が実現しているといえる。

図2 校内掲示（階段の様子）



図3 校内掲示（壁への掲示）





取組紹介④ D 中学校

アウトプットを意識した授業を実施し、  
4 技能をバランスよく育む

◎学校プロフィール（※学級数及び生徒数は平成 28 年 1 月調査日時点）

設立・形態	昭和 22（1947）年設立
学級数・生徒数	第 1 学年…3 学級（97 人）、第 2 学年…3 学級（108 人）、第 3 学年…3 学級（95 人）
ALT 活用状況	常勤の ALT が 1 人、連携先の小学校でも教えている。1 クラス週 1 回程度授業に入る。
取組の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に引き寄せたテーマ設定で関心を高め、話す機会を授業に盛り込む</li> <li>・目標に対する振り返りの徹底により、ライティング力を伸ばす</li> <li>・生徒把握を重視した、指導体制の工夫</li> </ul>

◎試験結果、質問紙における学校の特徴

・第 3 学年の平均スコア（点）

	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
D 中学校	91.8	95.6	32.9	8.4
全国平均（公立学校）	82.6/170	90.5/170	28.5/96	7.4/14

・生徒質問紙結果

No.12 次の学年の英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりしていたと思いますか。



No.14 次の学年の英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思いますか。



アウトプット活動に力を入れることにより、全技能で平均点を上回る

4 技能の得点はすべて全国平均を上回った。生徒質問紙 No.12 の「問答したり意見を述べ合ったり」する活動では、全国平均が「そう思う」32.2%、「どちらかといえば、そう思う」35.0%だったのに対し、同校では「そう思う」44.9%、「どちらかといえば、そう思う」39.3%となった。さらに、生徒質問紙 No.14 「英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたり」する活動でも、全国平均が「そう思う」27.5%、「どちらかといえば、そう思う」34.7%であったが、同校ではどちらも上回った。技能のバランスのとれたアウトプット活動の充実が図られている。

## ◎調査結果に寄与したと考えられる授業内の取組

### 1. 生徒に引き寄せたテーマ設定で関心を高め、話す機会を授業に盛り込む

同校が行っているアウトプット活動のポイントとして、生徒が話をしたくなるようなテーマ設定をするということが挙げられる。教員が教科書の題材を、目の前の生徒に合わせてアレンジする。図1は、教科書の「東京の小金井市の特徴」について内容を理解するという単元を発展させた指導案である。同校のALTが新婚であるということを取り口、「都道府県の特徴を紹介し、ALTの先生に新婚旅行先を決めるヒントにしてもらおう」ということを単元のゴールに置いた。

詳しい単元展開を見ていこう。

[1時間目]【導入】Lesson Goalを生徒に伝えた上で、教科書の内容理解を行う。町の紹介をする際には、「観光地」「食べ物」などの要素が必要なことを理解させる。

[2時間目]【展開1】教科書のモデル文に習い、長野県（同校のある県）についての紹介文を作る。まずは1文、続いて2文というように、表現を増やしていき、最終的に4文以上でまとめさせる。

[3時間目]【展開2】前時で作成した英文を参考に、各都道府県について、写真や情報を頼りに4文以上の文を作る。

[4時間目]【終末】生徒1人ずつが、都道府県の特徴についてALTに紹介する。ALTからの質問にも答えるステップを入れることで、即興性も養えるように工夫している。

更に、スピーキングの機会となるようなペア・ワーク、グループ・ワークも授業に積極的に取り入れている。特筆すべきは、モニターの生徒を配したペア・ワークである。ペアでの対話をモニター役の生徒が観察し、気付いた点をフィードバックする。「相手の顔を見て話せていなかった」「語尾が小さくなって聞き取れなかった」など、基本的な対話姿勢から、「既習の構文がきちんと使えていたか」といった会話の内容面まで確認する。モニター役の生徒からの助言により、生徒は自分のスピーキング力を客観的に把握することができる。また、モニター役の生徒は支援者として、「授業で習ったこの文法を使えばよい」などのアドバイスも行う。毎授業、教員がすべての生徒に張り付いて指導することは、現実的ではない。モニター役の生徒を置くことで、生徒同士で学び合いができ、確実に力を育むことができるのである。

また、同校では、スピーキング技能を測るために、パフォーマンステストを実施している。評価のポイントは、発音、流暢さ、既習構文を使えているかなどで、英語科の教員とALTで定める。パフォーマンステストは、ALTが生徒全員と1対1で行う。第3学年の最終段階では、ディベートなどにおいて長い文章を自分の意見を交えて表現できるようになるという目標の下、各学年の学期末にパフォーマンステストを実施している。

図1 単元展開

6 単元展開		50分授業 全4時間扱い 本時は第3時	
段階	○学習活動	◇教師の指導 ◆評価	時間
導 入	①AETとJTEの対話を聞き、本単元のLesson Goalを確認する。	◇AETの新婚旅行について、AETとJTEが対話する場面を提示する。AETが生徒との口頭でのやり取りを通して、Lesson Goalを確認する。	1
	Lesson Goal:チェン先生に、都道府県の特徴を紹介し、新婚旅行先を決めてもらおう。	◇都道府県の特徴について紹介するために、まず教科書の本文をモデル文として理解していくことを促す。	
展 開	Today's Goal:東京の小金井市はどんな町か、内容を理解しよう。	◇Oral Interactionで教科書本文の内容を理解したあと、町の紹介をするときには「地理的な位置や〇〇からの時間」「観光地」「食べ物」「特色」などの観点について紹介していることを確認させる。	1
	②教科書本文「東京の小金井市の特徴」について内容を理解する。	◇教科書本文の内容を確認した後、適切な声量で明瞭に音読させる。 ◇教科書本文をグループで、強勢、イントネーション、区切りに注意し、お互いに正しく音読できているか確認させる。◆(ウ)	
展 開	Today's Goal:長野県の特徴について、4文以上の英語で書いてまとめよう。	◇Oral Interactionで長野県の特徴を生徒から引き出し、書く活動へつなげる。	1
	③教科書のモデル文を参考にして、長野県の特徴についての紹介文を4文以上の英語で書く。	◇前時に学習した教科書本文を参考にさせながら、長野県の特徴について「長野からの時間」「観光地」「食べ物」「特色」などの観点をもとに紹介文を書くことを確認する。 ◇うまく書けない生徒には、教科書のモデル文を参考にしたり、早く書けた生徒の英文を板書させ、参考にしたりするように促す。 ◇できるだけ暗記して発表するように促す。同じ長野県の特徴について書いた英文でも、人によって表現の仕方が異なり、長野県には様々な特徴があることを確認させる。◆(イ) - ①	
展 開	Today's Goal:写真や情報を見ながら、都道府県の特徴について4文以上の英語で紹介しよう。	◇一部を隠して音読をさせることで、少しずつ英文を見なくてもできるように音読させる。つまづきがある生徒には再度モデル文を見せたり、リピートさせたりして支援する。	本 時
	⑤前時に学習した長野県の特徴についての紹介文をモデル文として音読する。 ⑥モデル文から「長野からの時間」「観光地」「食べ物」「特色」の観点を、確認し、他の都道府県の特徴を紹介する練習を行う。 ⑦インフォメーションカードをもとにグループ活動で英語表現を行う。	◇3つの都道府県の特徴について写真や情報を提示し、モデル文を参考にして、全体で紹介の仕方を確認したり、実際に口頭で練習したりする活動を位置付ける。 ◇グループ活動では、3人グループを作り、インフォメーションカードにある都道府県の特徴についての写真と情報を見て、英語で表現するように促す。 ◇1人1文、2文と表現を増やしていき、最終的には4文以上で言えるように活動を仕組む。◆(イ) - ②	
終 末	Today's Goal:都道府県の特徴を紹介し、チェン先生に新婚旅行先を決めるヒントにってもらおう。	◇3人のグループで、都道府県の特徴について4文以上の英文で紹介する練習を行う。4文で表現できていない場合には友の意見を参考にさせたり、前時のモデル文を参考にさせたりする。	1
	⑧1人1つ、都道府県の特徴についてAETに紹介し、AETからの質問に答える。	◇大型画面に都道府県の写真と情報を提示し、4文以上の英語で即興的に紹介するように促す。発表後、AETから発表について質問をして、その質問に答えさせる。◆(ア)	

## 2. 目標に対する振り返りの徹底により、ライティング力を伸ばす

授業の特徴として、振り返りを徹底し、定着を促している点が挙げられる。振り返りとしてポイントとなる指導は二つある。一つは、授業導入時に掲げた「Today's Goal」（本時の目標）をどれだけ達成できているか、振り返りを書かせることである。感想で終わらないように、英作文であれば「4文以上で表現することができたか」など振り返りの観点を教員が示している。これにより、生徒自身が自分の本時の達成状況を再確認することができるのである。

もう一つの指導の特徴は、すべての授業を「書かせる」ことで終えることである。具体的には、ワークシートや提出ノートに、ペア・ワークでの Q&A やスピーチ内容を書かせる。この取組は、アクティビティをただだけでは、「何が間違えていたのか」が見えにくくなってしまおうという理由から行っている。生徒が書いてきた英文は、構造が正しいか、既習事項を使えているか、テーマをとらえた内容となっているかなどを評価して学期末の成績に加味する。スペルもチェックするが、評価には入れない。この取組により、スピーキングの力とライティングの力を連動して育むことができるのである。同校教員は、「ペーパーテストでもきちんと高得点を取れるようにしてあげることが、英語を話すことが楽しい子のさらなる励みになる」と考えている。



図2 授業の最後にライティングと振り返りを行うためのシート

**Multi+2 町紹介**

2. Name \_\_\_\_\_

Lesson Goal

先生に都道府県の特徴を紹介し、新婚旅行先を決めてもらおう。

**Today's Goal**

写真や情報を見ながら、 \_\_\_\_\_

2

(1) 自分が、都道府県の特徴について紹介した英文を書いてみよう。

---

---

---

---

---

---

---

---

(2) 書き終わった人は、2つ目の都道府県の特徴の紹介にチャレンジしてみよう。

---

---

---

---

---

---

---

---

3. 今日の授業の振り返り

---

---

---

---

---

---

---

---

### 3. 生徒把握を重視した、指導体制の工夫

同校では、英語の授業を1クラス2展開の15~16人ほどの少人数で実施している。習熟度別ではなく、等質で生徒を分ける。ねらいは、1人の生徒あたりの活動時間を増やし、学び合いを充実させることである。さらに、生徒一人一人に教員の目が行きわたることで、低学力層の生徒の引き上げを行うことができる。学級経営に配慮して、1年次は2学期からクラスを2つに分け、逆に3年次は2学期から分けるのをやめる。1年次の最初の時期に学級を一つに固めたいという配慮と、3年次の後半の時期には卒業を意識した「団体戦」の雰囲気醸成したいと考えているためである。

もう一つの組織体制の工夫として、英語科教員は全員が第1学年から第3学年までを縦持ちする。このことで、3年後のゴールを見通した指導を行っていくことができる。また、成長段階に応じた指導の仕掛けも可能である。具体的には、1年生が書いた英作文を3年生に「間違い探し」として提示する取組を実施している。「1年生の間違いなんだから、3年生だったらわかるよね」などと声掛けすることで、授業の導入時にクイズ感覚で問題に挑むことができる。図3は、現在完了の学習に寄せた例である。英文の間違いに気付き、正しい表現に訂正する活動を仕組むことができる。「彼との付き合いは3年になる」と表現するにあたり、1年生では辞書などを調べたが「he's a relationship of three years.」と書いてしまう。一方で、完了形を習得した3年生であれば、「We've been friends for three years.」という正しい表現の仕方がわかる。

こうした取組を経ることで、生徒自身が3年間で表現の幅が広がったことを実感することができるのである。

#### 図3 1年生の英作文を3年生に「間違い探し」として投げかける

(図版は、生徒が書いた英作文を教員が打ち直したもの)

**間違い探し**  
以下の英語や英文にはいくつか間違いが見受けられます。時間内に探して下の余白に正しく書き直さないさい。

Him name is Ryosuke.  
I know him father.  
Do you know him?  
He is a good friend.  
It is also a game companion (仲間) with him.  
And he's a relationship (関係) of three years.  
But together club with him.  
I want continue to get close to him in future.  
(仲良している)

## ◎授業以外の取組

### 1. 各教員が積極的に校外研修へ参加し、学びを指導にフィードバックする

同校教員は積極的に校外の研修に参加している。中でも、「英語教育推進リーダー中央研修」を受け、大きく指導を変えた教員がいる。研修参加前は、リーディングの授業で生徒に事前に日本語訳を渡していたのだが、研修を受けて和訳を渡すことをやめた。「英語を英語で理解してほしいのに、日本語訳を渡してしまったら生徒の読む気が削がれてしまう」というのがその理由である。それに付随し、授業の展開も大きく変えた。導入として、写真などを見せテーマに引きつけ、その後新出単語の読み方だけ確認する。これは、発音を確認すれば、意味を推測できる単語が多いためである。続いて、長文読解のように英文を読ませていく。授業の最後に、意味を確認したり、文法を確認したりする。研修に参加し、言語を学ぶ際には、まずは「(書かれている) 内容を知りたい」という思いから入るものだという気付きから、このような授業展開としたという。校内で実施する研究授業の際や教科会などを使って、こうした研修での学びを英語科内で共有しているという。

### 2. 小中連携により、英語指導の接続を図る

同校は、主に3校の小学校から生徒が入学してくる。その中の1校と重点的に連携を強化している。ALT が連携校でも教えていることで、その小学校から入学した生徒は非常に英語の指導に慣れており、中学校の英語の授業も初回から積極的に取り組むことができる。また、他の小学校から入学してきた生徒も、連携小学校から来た生徒から刺激を受けて、英語を楽しめるようになるという。

さらに、連携先の小学校に英語科の教員が訪問し、外国語活動の時間に参加することもあるという。また、小学生が中学校で英語の体験授業に参加することもある。このような交流により、入学する生徒の実態を事前に把握することができる。入学前後の英語学習の接続をスムーズにすることで、英語に対して前向きな生徒を育てることができるのではないだろうか。



## CAN-DO リストの運用と毎授業の言語活動で 生徒のスピーキング力を伸ばす

### ◎学校プロフィール（※学級数及び生徒数は平成 28 年 1 月調査日時点）

設立・形態	昭和 22（1947）年設立
学級数・生徒数	第 1 学年… 5 学級（160 人）、第 2 学年… 6 学級（203 人）、第 3 学年… 4 学級（155 人）
ALT 活用状況	常勤の ALT が 1 人。1 クラス週 1 回程度授業に入る。
取組の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CAN-DO リストに基づいて授業の充実を図る</li> <li>・ 毎授業にスピーキング活動を取り入れることで表現の幅を広げていく</li> <li>・ 必然性のある学習活動を設定し、生徒のアウトプット力を高める</li> </ul>

### ◎試験結果、質問紙における学校の特徴

#### ・ 平均スコア（点）

	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
E 中学校	74.3	86.6	25.2	9.5
全国平均（全国公立）	82.6/170	90.5/170	28.5/96	7.4/14

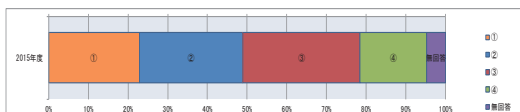
#### ・ 生徒質問紙結果

No.13 次の学年の英語の授業では、与えられた話題について、  
（特に準備をすることなく）即興で話す活動をしていましたか。

(2) 第 2 学年

①「そう思う」 ②「どちらかといえば、そう思う」 ③「どちらかといえば、そう思わない」 ④「そう思わない」

実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
2015年度	回答数	34	39	44	23	7	148
	選択率	22.8%	25.2%	29.5%	16.8%	4.7%	100%

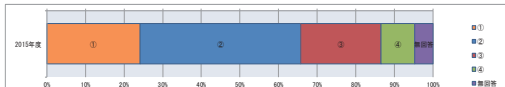


No.15 次の学年の英語の授業では、英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思いますか。

(2) 第 2 学年

①「そう思う」 ②「どちらかといえば、そう思う」 ③「どちらかといえば、そう思わない」 ④「そう思わない」

実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
2015年度	回答数	39	52	31	13	7	143
	選択率	24.2%	41.8%	20.8%	8.7%	4.7%	100%



#### スピーキング力を確実に育む活動の充実に注目

同校のスピーキングの得点は、全国平均の 7.4 点を上回り、9.5 点となった。

授業の中での取組について聞いたところ、生徒質問紙 No.13 の「即興で話す活動をしていましたか」に対して、全国平均では「そう思う」が 17.2%だったのに対して、同校では 22.8%と上回る結果が出た。さらに、No.15 の「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思いますか」の質問に対して、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計が全国平均の 59.0%よりも高い 65.8%となった。

## ◎調査結果に寄与したと考えられる授業内の取組

### 1. CAN-DO リストに基づいて授業の充実を図る

同校は平成 25・26 年度の 2 年間、県で実施している「中学生英語力育成事業」に指定された。研究事業の内容は、CAN-DO リストを作成し、それを基に授業改善を図るというものである。現在の第 1 学年～第 3 学年はその考え方のもとで授業を受けてきたこととなる。

図 1 の同校の CAN-DO リストは、県のモデル版 CAN-DO リストを基に作成したが、同校の生徒の実態に合うように英語科の教員で協議した。「卒業時の学習到達目標」は、学習指導要領に準拠しており、それを達成するためにはどんな取組が必要か、学年を 3 段階に分け、グレードを設定した。

CAN-DO リストの運用も工夫している。年度初めに、教員間はもちろん生徒とも学年ごとの CAN-DO リストを共有する。各教師は、リストに基づいて授業を構築していく。学期末に、「自己評価シート (到達度チェックシート)」を生徒が記入し、「1. できない」～「4. 簡単にできる」で評価をする。教師はこれを回収し、定期テストの結果 (平均点) とともに「英語科授業改善に向けて」(図 2) のシートにまとめていく。さらに、各教師が考察し、教科会で CAN-DO リストの達成状況を確認する。もしも到達できていなければ、目標の妥当性や達成できなかった理由を分析する。これにより、CAN-DO リストの内容を定期的に見直すことができ、生徒の実態に合わせた目標設定を随時確認することができるのである。

生徒も CAN-DO リストの項目を理解しているため、「1 年間でここまで学力をつけることが目標だから、今この学習をする必要があるのだ」と納得することができる。なお、CAN-DO リストから具体的な指導に落とし込んだ年間指導計画 (図 3) も作成している。生徒と教師が目指す方向性を共有しているからこそ、効果的な英語指導が行えていると考えられる。

図1 CAN-DO リスト

版 CAN-DOリストの形での学習到達目標

育てたい生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 外国語を通じて言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒。</li> <li>○ 考えや気持ち、情報を的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力の基礎を身に付けた生徒。</li> </ul>			
卒業時の学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話したり書いたりすることができる。</li> <li>○ 初歩的な英語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意図を理解できる。</li> </ul>			
学年段階	話すこと (Speaking)	書くこと (Writing)	聞くこと (Listening)	読むこと (Reading)
3	Orads 初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができる。	英語を書きこむに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができる。	初歩的な英語を聞いて話し手の意図などを理解できる。	英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意図などを理解できる。
	⑨ 社会的な話題に関するテーマについて、賛否、理由、感情を明確にしながら自分の意見や立場を話すことができる。 【評価方法】 活動の観察、ALTIによるスピーキングテスト	社会的な話題に関するテーマについて、賛否、理由、感情を明確にしながら、自分の意見や立場を20語以上で書くことができる。 【評価方法】 ワークシート、ライティングテスト	社会的な話題をテーマにした英文(90語程度)を2回聞き、概要や要点を把握した上で、詳細情報を聞き取ることができる。 【評価方法】 ワークシート、リスニングテスト	社会的な話題をテーマにした英文(300語程度)を読み取り、概要や要点を把握した上で、詳細情報を読み取ることができる。 【評価方法】 ワークシート、読解テスト
	⑧ 身近な事柄について、あいづちを打ったり、受け取った情報に照準した質問をしたりしながら、会話を続けることができる。 【評価方法】 活動の観察、ALTIによるスピーキングテスト	聞いたり、読んだりしたことについて、概要や要点に照らし、自分の感想や意見を書くことができる。 【評価方法】 ワークシート、ライティングテスト	内容的にまとまりのある90語程度の英文を2回聞いてその概要や要点を理解することができる。 【評価方法】 ワークシート、リスニングテスト	内容的にまとまりのある300語程度の英文を読み、その概要や要点を理解することができる。 【評価方法】 ワークシート、読解テスト
	⑦ 社会的な話題に関するテーマについて正しい態度を用い、適切に伝えることができる。 【評価方法】 活動の観察、ALTIによるスピーキングテスト	社会的な話題に関するテーマについて、文のつながりに注意して伝えたいことが読み手に正しく伝わるように書くことができる。 【評価方法】 ワークシート、ライティングテスト	社会的な話題をテーマにした、自然な口調で話される英語を2回聞いて、条件に従って、必要な情報を正しく聞き取ることができる。 【評価方法】 ワークシート、リスニングテスト	まとまりのある英文を読み、条件に従って必要な情報を理解した上で、正し(適切な表現方法で)書換えることができる。 【評価方法】 ワークシート、書換テスト
2	Orads 与えられたテーマや話題を聞いて話したり読んだりした内容について、自分の意見や理由を付け加えて話すことができる。	読解や話法などに注意しながら、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができる。	話し手に聞き取らせないで話したりしながら、初歩的な英語を聞いて、話し手の意図などを理解することができる。	書かれた内容を考えながら、初歩的な英語を読んで書き手の意図などを理解できる。
	⑥ 学校生活や地域社会等のテーマについて、自分の意見や理由を明確にしながら、話速を立てて話すことができる。 【評価方法】 活動の観察、ALTIによるスピーキングテスト	学校生活や地域社会等のテーマについて、文のつながりや文の構成などを利用して自分の意見を話速を立てて20語以上で書くことができる。 【評価方法】 ワークシート、ライティングテスト	学校生活や地域社会等をテーマにした英文(70語程度)を2回聞き、概要や要点を把握した上で、詳細情報を聞き取ることができる。 【評価方法】 ワークシート、リスニングテスト	学校生活や地域社会等をテーマにした英文(200語程度)を読み取り、概要や要点を把握した上で、詳細情報を読み取ることができる。 【評価方法】 ワークシート、読解テスト
	⑤ 身近な事柄について、話の進み方、あいづちを打ったりしながら会話を続けることができる。 【評価方法】 活動の観察、ALTIによるスピーキングテスト	聞いたり読んだりしたことについて概要や要点を整理して書くことができる。 【評価方法】 ワークシート、ライティングテスト	内容的にまとまりのある70語程度の英文を2回聞いてその概要や要点を理解することができる。 【評価方法】 ワークシート、リスニングテスト	内容的にまとまりのある300語程度の英文を読み、その概要や要点を理解することができる。 【評価方法】 ワークシート、読解テスト
	④ 過去の出来事や出来事の手続きなどについて、聞き手に正しく伝えたり、聞き手からの質問に適切に反応することができる。 【評価方法】 活動の観察、ALTIによるスピーキングテスト	過去の出来事や出来事の手続きなどについて、読み手に正しく伝わるよう書くことができる。 【評価方法】 ワークシート、ライティングテスト	様々な場面における、ある程度自然な口調で話される英語を2回聞いて、条件に従って、必要な情報を正しく聞き取ることができる。 【評価方法】 ワークシート、リスニングテスト	まとまりのある英文を読み、条件に従って必要な情報を理解した上で、正し(適切な表現方法で)書換えることができる。 【評価方法】 ワークシート、書換テスト
1	Orads 活動、インタビュー、適切な初歩的な英語の音声の特徴を捉え、初歩的な英語を用いて、自分のことや身近なことについて話すことができる。	文字や音声の属性や文構造などに注意しながら、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができる。	活動、インタビュー、適切な初歩的な英語の音声の特徴を捉え、初歩的な英語を聞いて話し手の意図などを理解できる。	文字や音声の属性や文構造などに注意しながら、初歩的な英語を読んで書き手の意図などを理解できる。
	③ 自分や友達、家族等に関するテーマについて、伝えようとする内容を整理しながら、話すことができる。 【評価方法】 活動の観察、ALTIによるスピーキングテスト	自分や友達、家族等に関するテーマについて、伝えようとする内容を整理しながら、10語以上で書くことができる。 【評価方法】 ワークシート、ライティングテスト	自分や友達、家族等をテーマにした英文(60語程度)を2回聞き、概要を把握した上で、話し手の最も伝えたいことを聞き取ることができる。 【評価方法】 ワークシート、リスニングテスト	自分や友達、家族等をテーマにした英文(120語程度)を読み取り、概要を把握した上で、書き手の最も伝えたいことを理解することができる。 【評価方法】 ワークシート、読解テスト
	② 身近な事柄について簡単な会話をすることができる。 【評価方法】 活動の観察、ALTIによるスピーキングテスト	聞いたり読んだりしたことについて要点を書くことができる。 【評価方法】 ワークシート、ライティングテスト	内容的にまとまりのある60語程度の英文を2回聞いて条件に従って、必要な情報を正しく理解することができる。 【評価方法】 ワークシート、リスニングテスト	内容的にまとまりのある120語程度の英文を読み、条件に従って、必要な情報を正しく理解することができる。 【評価方法】 ワークシート、読解テスト
	① 身近な事柄や基本的な活動やインタビュー、適切な初歩的な英語を用いて話したり読んだりすることができる。 【評価方法】 活動の観察、ALTIによるスピーキングテスト	アルファベットの文字列が文字、音や単語と結びついて書かれていること、正しい文構造で書かれていることなどについて話したり読んだりすることができる。 【評価方法】 ワークシート、ライティングテスト	最初の英語による指示・説明や、身近な場面における簡単な英語を正しく聞き取ることができる。 【評価方法】 ワークシート、リスニングテスト	アルファベットや日常生活の身近な英語を正しく読むことができる。 【評価方法】 ワークシート、書換テスト

【使用語句について】

- 1 「要点」 情報の発信者が最も伝えたい情報、条件に従って受信者が正しく理解する必要がある情報。
- 2 「概要」 話の全体の要点をとりまとめたもの(大要、あらまし)。
- 3 「まとまりのある文」 文章の構成や情報の提示の仕方に一貫性のある文。

図2 英語科授業改善に向けて

【3年生】

英語科授業改善に向けて【1学期】

1 1学期自己評価シート（到達度チェックシート）について

(1) 結果一覧：生徒の「分かる、できる感」の把握のために…

Stage	No	学習到達目標	到達度(平均値)	Stage	No	学習到達目標	到達度(平均値)
Warm-up Feedback	1	S7, S8	2.62	Reading	10	R 8	2.55
	2	W 7	2.41		11	R 8	2.35
	3	W 8	2.07		12	R 9	
	4	S 7	2.14		Task-based activity Project	13	W 7
Listening	5	L 7	2.55	14		S 7	1.97
	6	L 8	2.28	15		W 7	1.96
	7	L 9		16		S 7	1.96
Reading	8	R 7	2.92	17		W 9	
	9	R 7	2.75	18		S7, S8	

(2) 考察：

Small Talkにおけるspeakingでは、単なる問答は比較的容易にできるが、理由や感想等まで話す力は不足している。ListeningやReadingにおいては、要点は比較的理解できるが、語数が増えるにつれ内容理解に関する力が弱いと思われる。Writingにおいては、単なる和文英訳には対応できるが、Speakingと同様、理由や感想、概要等を書く力は弱く、苦手意識を持っている生徒が多い。いずれも発展的学習になると、語彙力や表現力の弱さが目立ち、発表や意見を述べる活動が難しいと思われる。

2 1学期定期テストについて

(1) 定期テストの結果

	1組	2組	3組	4組
中間テスト	男 52.2	男 51.4	男 50.3	男 48.6
	女 57.8	女 48.3	女 55.9	女 52.1
	手紙 55.3	手紙 49.7	手紙 53.1	手紙 50.5
期末テスト	男 56.7	男 50.2	男 50.7	男 45.7
	女 54.4	女 48.1	女 52.4	女 51.0
	手紙 55.7	手紙 49.1	手紙 51.6	手紙 48.5

(2) 考察

中間テストでは2年生の復習を主に出题したが、助動詞や4文型の問題につまづきが見られ、定着率が低かった。また、不規則動詞や基本熟語のミスが目立ち、語彙力の不足が目立った。長文総合問題は約500語の長文に時間を要し、内容読解が不十分であったと思われる。比較的正確率が高かったのはリスニングと比較の問題であった。

期末テストでは受け身、疑問詞+不定詞、現在完了形(完了)が主な出題であったが、受け身の定着率が低かった。特にbe動詞の時制のミスが多く見られ、今後の課題となった。また、内容読解に関する英問英答や指示語の問題の正確率が低く、読解力の低さが目立った。条件英作文の正確率も期待したほど高くはなく、表現力のアップが課題である。

3 2学期の指導について

Small Talkはこれまで通り継続して行うが、Q Aの際に理由、感想等まで答えられるように会話を続ける指導をしたい。また、読解力アップのために単語テストや要点、概要を日本語、英語でまとめる活動を取り入れていきたい。発展的学習については、下位の生徒にとって難があると思われるので、グループ活動を増やして助け合い学習ができるように指導していきたい。生徒たちが最も苦手としている書く活動については、基本文をもとに和文英訳、条件英作文、自由英作文等の活動を随時取り入れて、苦手意識を緩和させていきたい。



図3 年間指導計画（第3学年）

【3学年の「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標】

学年	段階	話すこと【Speaking】	書くこと【Writing】	聞くこと【Listening】	読むこと【Reading】
		学習時の学習到達目標	学習時の学習到達目標	学習時の学習到達目標	学習時の学習到達目標
3	⑥	社会的な話題に関するテーマについて、質問、理由、意見を明確にしながら自分の意見や主張を述べることができる。 【評価方法】 活動の観察、ALTによるスピーキングテスト	社会的な話題に関するテーマについて、質問、理由、意見を明確にしながら、自分の意見や主張を20語以上書くことができる。 【評価方法】 ワークシート、ライティングテスト	社会的な話題をテーマにした英文(90語程度)を2回聞き、概要や要点を把握した上で、詳細情報を聞き取ることができる。 【評価方法】 ワークシート、リスニングテスト	社会的な話題をテーマにした英文(300語程度)を読み、概要や要点を把握した上で、詳細情報を読み取ることができる。 【評価方法】 ワークシート、読解テスト
	⑦	身近な事柄について、あいづちを打ったり、受け取った情報に関連した質問をしたりしながら、会話を続けることができる。 【評価方法】 活動の観察、ALTによるスピーキングテスト	あいづち、読み取ったことについて、概要や要点に加え、自分の感想や意見を書くことができる。 【評価方法】 ワークシート、ライティングテスト	内容的にまとまりのある90語程度の英文を2回聞いてその概要や要点を把握することができる。 【評価方法】 ワークシート、リスニングテスト	内容的にまとまりのある300語程度の英文を読み、その概要や要点を把握することができる。 【評価方法】 ワークシート、読解テスト
	⑧	社会的な話題に関するテーマについて正しい発音を用い、適切に応えることができる。 【評価方法】 活動の観察、ALTによるスピーキングテスト	社会的な話題に関するテーマについて、文のつながりに注意して読み取ることが読み手に正しく伝わるように書くことができる。 【評価方法】 ワークシート、ライティングテスト	社会的な話題をテーマにした、自然な口調で話される英語を聴いて、条件に応じて、必要な情報を正しく聞き取ることができる。 【評価方法】 ワークシート、リスニングテスト	まとまりのある英文を読み、条件によって必要な情報を理解した上で、正しい適切な表現方法で答えることができる。 【評価方法】 ワークシート、書読テスト

### 3 学年英語科 年間指導計画

月	担当 先生	課名と内容	主な言語材料	指導目標	評価	反省
4	4	<b>Pre-Lesson</b> <b>Do You Eat Breakfast?</b> クラス内で朝食の摂取状況を調査し、結果を報告する。 S7 W7 L7 R7		<ul style="list-style-type: none"> <li>●2半年で学習した言語材料(動名詞、助動詞表現、比較表現、従文(接続詞when, that)、過去進行形など)を用いた対話/報告文を、正しく聞き取ったり読み取ったりすることができる。</li> <li>●身近なテーマについて、クラスで調査したものをまとめて発表することができる。</li> <li>●友達との発表内容を正しく聞ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●Taskに挙げられている質問を使って、相手に尋ねて調査することができる(問)。</li> <li>●調査結果をレポートにまとめ、クラスで発表することができる(答)。</li> </ul>	
5	8	<b>1 Report for Our School Trip.</b> 修学旅行に際して事前に学習したことを英語新聞にまとめ、その内容について話し合う。 S7 W7 L7 R7	S+V+O+C(名詞) 受動態(現在、過去) 付加疑問文 ・...call me Taku... ・...is written in... ・...was made by... ・Is English spoken...?	<ul style="list-style-type: none"> <li>●S+V+O+C(名詞)や受動態を用いて表現したり、相手に尋ねたり、適切に応答することができる。</li> <li>●S+V+O+C(名詞)や受動態の文構造を理解する。</li> <li>●京都、奈良の地理・歴史や法隆寺の建造について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●S+V+O+C(名詞)の文構造を用いて、友達とコミュニケーションを築くことができる(答)。</li> <li>●言葉や製品を話題に、受動態を用いて話し合うことができる(答)。</li> <li>●身の回りのものの生産地や生産国を調べて、クラスの前で報告することができる(言)。</li> <li>●S+V+O+C(名詞)や受動態を用いた文を読む/書くことができる(読)。</li> </ul>	
5	2	<b>A Do You Know How to...?</b> 何かをする方法を調べているか尋ねる/たれにその方法を教えてもらったかを尋ねる。 S7 L7	S+V+O(howなど+to不定詞) S+V+O+O(howなど+to不定詞) to不定詞 ・Do you know how to...? ・...taught me how to...	<ul style="list-style-type: none"> <li>●S+V+O(howなど+to不定詞)やS+V+O+O(howなど+to不定詞)を用いて表現したり、相手に尋ねたり、適切に応答することができる。</li> <li>●S+V+O(howなど+to不定詞)とS+V+O+O(howなど+to不定詞)の文構造を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●S+V+O(howなど+to不定詞)やS+V+O+O(howなど+to不定詞)を用いて、友達と会話をすることができる(答)。</li> <li>●「知っていることや、それを教えてくれた人について」の会話を聞くことができる(理)。</li> <li>●what to ~やwhere to ~などの疑問詞も用いて、話したり書いたりすることができる(答)。</li> </ul>	
5	2	<b>B Scenery</b> 風景を描写する表現を		<ul style="list-style-type: none"> <li>●自然環境や生物、交通機関や公共設備を表す名詞を用いて表現したり、活用することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●絵を見て、景色や情景を描写することができる(理)。</li> </ul>	

## 2. 毎授業にスピーキング活動を取り入れることで表現の幅を広げていく

同校では、スピーキング活動を授業の中に多数取り入れている。毎授業行っているのは、「スモール・トーク」という活動である。生徒をペアにして起立させ、課題が達成できたら着席させる。ゲーム的なアクティビティで生徒の対話の意欲を高めることができる。5分~10分程度の取組だが、毎授業3年間繰り返し実施することで、英語で話すことに抵抗感がなくなり、表現の幅も広がっていく。スモール・トークでは、既習文法を盛り込んだ

対話をさせることも多い。例えば、関係代名詞を習った後は、関係代名詞を使用した発問を行うというように、文法の定着とスピーキング力の育成を企図した活動としている。一方で、学力下位層の生徒がいつも残ってしまわぬように、しりとりのようなゲームを取り入れたり、命令文の構文を加え上位層の生徒もうっかり間違えてしまうようなテーマとしたりすることもあるという。

続いて、「ショート・スピーチ」も実施している。たとえば、「不定詞の3要素を使って」や「過去形・現在進行形・未来形と時制を変えて表現してみましよう」など文法習得の要素も交えて、スピーチを行う。「自分の好きなものの紹介」など、テーマを与えることもあれば、ペア・ワークで話し合った後、相手が話していた内容を他者に伝えるといった技能統合の取組とすることもある。

第3学年の最終段階では、10文以上の英文で、ロング・スピーチをする力を付けさせることが同校教師のねらいである。論理的なスピーチも可能となるよう、接続詞であれば「So,」だけでなく、「First,」「Second,」など順序立てて言えるようにするなど表現の幅を広げる指導にも注力している。

### **3. 必然性のある学習活動を設定し、生徒のアウトプット力を高める**

生徒が意見をまとめたり調べ学習をしたりした上で、アウトプットにつなげていく課題解決型の学習も同校の取組の一つである。教科書に掲載されている「プロジェクト学習」のテーマをそのまま活用することもあれば、教科書で提示されているテーマを自校の生徒に合わせてアレンジすることも少なくない。

第2学年の「職業体験」学習単位では、教科書で学習した文構造をもとにして、「オリジナル・マジックジュースを作ろう」という授業を行った（図4）。「願いを叶えるオリジナル・マジックジュースを作ろう」とALTがICTを用いて動画で生徒にメッセージを送る。生徒にとっては「将来何になりたいか」などは、小学校の外国語活動でも話したことがあるテーマであり、教師は「自分の意見を発表したくなるテーマ」にアレンジすることが重要だと考えた。モデル文章を参考にしながら、ライティングを行う。個人とグループ内で発表練習をした上で、本番の発表会を実施し、その様子を録画してALTへビデオレターを送る。

本授業では、ALTのメッセージのリスニング、紹介文を書くライティング、発表するスピーキングの技能を統合した活動を行う。さらに、ICTを含む教材・教具の工夫により、生徒を引き付け、プロジェクト活動への意欲を高めていることもポイントだろう。

図4 「オリジナル・マジックジュースを作ろう」の指導案

段階	教師の働きかけ	生徒の活動	留意点 ○評価(評価方法) ◇評価の手立て ●支援の手立て ※生徒指導の三機能
	1 Greeting あいさつ	・あいさつを行う。	
復	2 Teacher's Talk 話題の紹介 (1) 本時の話題: 「冬休みの予定」 (2) 教師の「冬休みの予定」の紹介	・教師の「冬休みの予定」を聴きながら、使用表現を確認する。	
習	3 Small Talk スピーキング活動 (1) Q&A in pairs: 本時の話題について (2) Short speech: 本時の話題について (3) Q&A with JTE: 本時の話題について	・ペアになり、「冬休みの予定」について対話する。 ・ペアになり、冬休みにしたいことを既習の不定詞の3つの用法を取捨選択しながら、説明する。	○Q&A シートの活用 ○スピーチシートの活用
導	4 Context 場面設定の説明	・先生(ALT)が魔女役で、生徒たちは魔法魔術学校の生徒になる。	
入	5 Introduction 学習課題の提示	・先生の指令「願いを叶えるオリジナル・マジックジュースを作る」を、VTRを通して受け取る。	○タブレットのビデオ機能の活用
(3)		オリジナル・マジックジュースを考えよう!	
展	6 Explanation 作り方の説明	・オリジナル・マジックジュースの紹介文の作り方を聴く。 ・①～④に当てはまるフレーズを自分なりに考え、紹介文を書く。 ・ビデオレターとして先生に送る。	○プロジェクターの活用
		<p>Hello, Ms.</p> <p>This is magic juice ① [ to be strong ].</p> <p>When you want to be ② [ a superman ] and ③ [ work for many people ], this drink will help you.</p> <p>And, when you need to go to the ④ [ space ] to ⑤ [ save the earth ], this drink is very useful.</p> <p>This is magic juice to make your dream come true.</p> <p>Thank you.</p>	
	7 Writing 紹介文の作成	・例を参考に、自分の考えを効果的に表現できるフレーズを取捨選択しながら、自分なりの紹介文を書く。	評価 ア (グループワーク、行動の観察) ●ヒントカードの活用 ●机間指導 ※自己決定
開	8 Proofreading 紹介文の校正 【校正ポイント】 ① 表記上のミス ② 文章のつながり	・4人グループになり、校正ポイントを基にお互いの紹介文を読み、校正する。	○プロジェクター及び実物投影機の活用
(25)	9 発表個人練習	・校正した紹介文を音読し、練習する。	○発音等について机間指導する。
ま	10 グループ内での発表練習	・4人グループの中でペアになり、発表練習する。	評価 イ (観察) ●学び合い、机間指導 ※共感的人間関係
め	11 次時の予告	・学級発表と相互評価及びビデオレターの録画を行う。	
(5)			

◎授業以外の取組

**1. 校外研修の内容や研究授業の指導案を1冊に収録し指導を共有**

同校の教師は積極的に校外研修に参加している。研修で学んだ内容はすべてレポートを書いて報告し、最終的には研究収録にまとめていく。その研究収録には、各教員が年に1回行う研究授業の指導案やCAN-DOリストの達成状況の報告書「英語科授業改善に向けて」（図2）も収録される。この1冊で、教師の指導ノウハウの共有が行われている。それぞれの教師の指導を学校の財産にしていく取組といえるだろう。

**2. 学校外で活躍する生徒たちの頑張りを校内に還元する**

同校では伝統的に校外で実施される英語弁論大会への出場に力を入れている。毎年、各学年一人ずつが選出され、出場している。昨年度は、学校賞を受賞し、本年度は、全国大会に出場する生徒も出た。こうした生徒たちの活躍は全校生徒にも報告されるため、毎年有志の生徒が積極的に集まるといえる。また、市の台湾との交流事業にも生徒が自ら立候補して参加した。英語や外国への高い関心が生徒の中で育まれていることがうかがえる。

## 技能を統合した活動の充実と見通しをもった授業展開で、 生徒の意欲と4技能をバランスよく育む

### ◎学校プロフィール（※学級数及び生徒数は平成 28 年 1 月調査日時点）

設立・形態	昭和 22 年（1947）年設立
学級数・生徒数	第 1 学年... 3 学級（111 人）、第 2 学年... 3 学級（117 人）、第 3 学年... 4 学級（129 人）
ALT 活用状況	常勤の ALT が 1 人。週 1 回程度授業に入る。小中連携を行っており、連携先の小学校でも教えている。
取組の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒と教師で授業の見通しを共有することで、合理的に技能を育成する</li> <li>・リーディングを深めることで、スピーキング力の育成にもつなげる</li> <li>・自分の意見をライティングし、スピーキング力を駆使し他者に伝える場も設ける</li> </ul>

### ◎試験結果、質問紙における学校の特徴

#### ・第 3 学年の平均スコア（点）

	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
F 中学校	91.3	95.5	30.8	10.0
全国平均（公立学校）	82.6/170	90.5/170	28.5/96	7.4/14

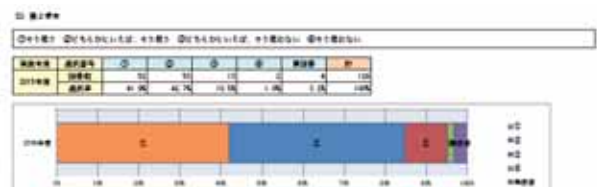
#### ・生徒質問紙結果



英語を「好き」という気持ちを高めて、  
発信につなげている取組に注目

同校では、4 技能バランスよく全国平均点を上回り、さらに英語への意欲も高いことが生徒質問紙 No.1 の「英語が好きですか」を尋ねた結果からわかった。全国平均 56.1%に対して、77.9%と上回っているのである。生徒の英語に対する意欲を育てる仕掛けが授業のなかに盛り込まれていることが予測される。さらに、生徒質問紙の No.14 の自分の意見をライティングする活動を授業で行っているか問う質問に対しても、全国平均 62.2%に対して、同校は 84.6%と上回った。生徒の意欲を引き上げるような発信活動の充実にも注目していきたい。

No.14 次の学年の英語の授業では、開いたり読んだりしたことについて、その内容を基礎を積み重ねてまとめた自分の意見を基礎を積み重ねたうえで発信したいと思いますか。



## ◎調査結果に寄与したと考えられる授業内の取組

### 1. 生徒と教師で授業の見通しを共有することで、合理的に技能を育成する

教師が教科書を生徒にわかりやすくアレンジして、授業用の冊子を作成している。プログラム（単元）ごとに1冊となっており、生徒の学びはこの1冊に集約されていく（図1）。授業の流れである、(1)導入でチャンツ、(2)本時で習得するトピック・文法などを確認、(3)前のプログラムの復習、(4)単語の発音、(5)英文のリスニングかリーディング、(6)スピーキングでアウトプットの順序で冊子にまとめていくことで、生徒はスムーズに活動に移っていくことができる。第1学年から第3学年まで同じパターンで授業を組んでいるため、生徒は順調に英語を習得していくことができる。(2)のトピック・文法理解では、新たに習う構文をイメージで理解できるように工夫している。例えば、「恋愛」を例にとって現在完了形を解説する。「彼のことを好きだった」という過去形を「恋が終わったイラスト」で示し、「今でも彼のことを好き」という現在完了の構文を「老人になっても恋が続いているイラスト」で説明した。概念を理解できていることが英文を使う上で重要となるという考えから、細かな解説よりもまずはビジュアルでとらえることを重視している。その上で(5)の英文のリスニングかリーディングに入るため、和訳を事前に伝えなくとも、生徒は英文の理解を深めていくことができる。英文をリスニングするか、リーディングするかは、題材によって変えていく。リーディングにするのは、会話文など一気に読んで内容をつかませたいもの、リスニングさせるのは、長文で生徒が黙読していると集中力が切れてしまう可能性があるようなものである。そうした長文の題材は、教師が細かく切って読むことで、一つ一つ理解しながら読み進めることができる。

こうした授業の流れを、毎時間の冒頭、黒板に教師が書く。冊子と黒板への流れの提示によって、生徒は見通しを持って授業に参加することができる。生徒と教師の目線が合うような適切なパターン化があるからこそ、合理的に技能を習得していくことができる。

図1 教科書のプログラムごとに作成した冊子



## 2. リーディングを深めることで、スピーキング力の育成にもつなげる

同校の授業の中では、ペア・ワークを頻繁に取り入れている。授業で教員が話しているのは10分ほどで、ほかの時間は生徒が活発に活動をしている。ペア・ワークを重視しているのは、学んだことをすぐに実践して、さらにそれを教え合うことで脳が一番活性化すると考えているためである。ペア・ワークでも一連の流れを重視している。教師の指示によって、前後、左右、ななめの3パターンで組む。最初にじゃんけんをし、ウィナーとルーザーを決定する。教師は、「ウィナーは〇〇して」「ルーザーは△△しよう」という活動を促す。ペアで立ち上がり、それぞれ課題を終えたら着席することができる。インプットのみになりがちな単語練習などにも、「ウィナーが発音練習をして、ルーザーがチェックをする」といったペア・ワークを取り入れることで効果的に習得できることをねらっている。

特筆すべきは、教科書の会話文を通した学びである。まずは、会話文の黙読や音読を生徒に一人でさせる。

(教科書より抜粋)

「人やものについてくわしく説明する別の言い方ができるようにしよう。」のダイアログ

A: I love apple pies.

B: Do you? Have you ever tried the pies that my father bakes?

A: No, never.

B: You must try some. He's the best cook in town.

そして、「なぜ、Aは突然“I love apple pies.”などと言い出したのだろうか？」と教師が発問する。生徒は、ペアになって“I love apple pies.”と言う状況を検討していく。どういった状況で会話がなされているのかを想定することで、リーディングを深めることができる。この工程で重要なのは正解を探ることではなく、英文を言葉として理解することである。会話がなされたシーンに思いを馳せることで、生徒は適切なイントネーションで音読できるという。「こういうシチュエーションだから、この単語を強調すべき」ということが実感をもって理解できるのである。リーディングを深めることで、スピーキングの技能を高めることにつなげている取組といえるだろう。

### 3. 自分の意見をライティングし、スピーキング力を駆使し他者に伝える場も設ける

同校では生徒に自分の考えをライティングさせることを重視している。学期に1度エッセイを書かせ、1年に1度はそのエッセイの発表会を設ける。第3学年2学期のテーマは、「We should study English.」とした。高校入試も意識して、5文以上の英文で書くように指示を出した上で、生徒は自分のノートにエッセイを書く。その後、ペアになり、正しい英語が使われているかをチェックしながらスピーキング練習をする。このスピーキング練習も、前後・左右・ななめの生徒同士で繰り返し行う。クラスメイトの指摘で間違いが発覚した場合には、修正しエッセイを仕上げていく。教師はその間赤ペンを持って机間指導し、生徒が書いたエッセイを確認する。この時間に、内容が十分か、文法や単語が正しく使えているかなどをチェックしていくのである。一度書かせた文章は暗唱できるようになるまで、練習する。授業の冒頭でペアでエッセイを読ませる活動を繰り返し行うのである。

発表会はクラスメイトの前で行う。エッセイをプロジェクタに投影して、ジェスチャーを付けて暗唱する(図2)。ジェスチャーについては、「コミュニケーションの中では、身振り手振りを付けると伝わりやすいよね」と促した。この発表会をスピーキングテストとして評価する。ALTが発音をチェックし、英語科の教師が活動に取り組む姿勢やエッセイの内容を確認していく。一人30秒～1分ほどの発表だが、「失敗して再チャレンジをしたい」という生徒には、発表会の最後にチャンスを与える。生徒たちの英語に取り組む意欲



を大切にしたいと考えているためである。生徒は授業の中でアウトプット活動を積み重ねてきているので、エッセイの発表会にも抵抗感なく取り組むことができるという。

◎授業以外の取組

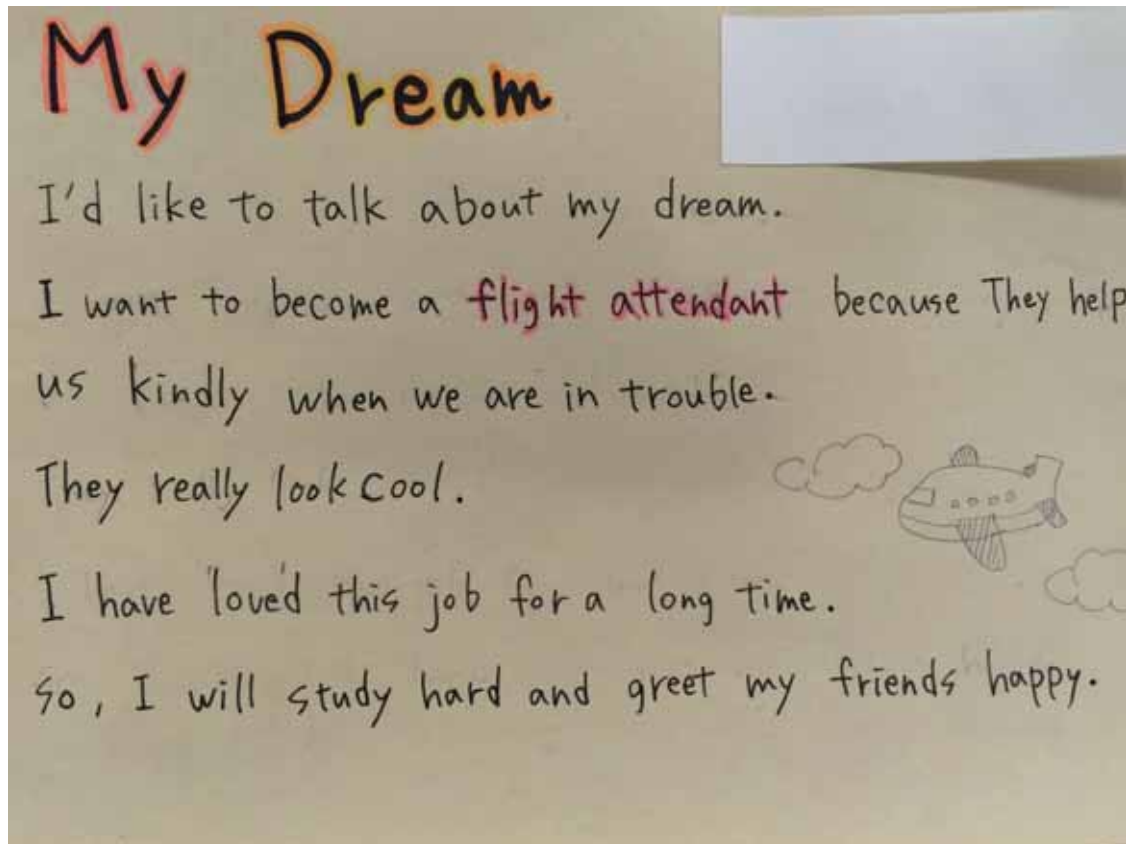
### 1. 全校生徒の前で行う立志式とリンクさせ、アウトプット力を高める

同校では伝統的に立志式という取組を行っている。これは、全校生徒、教師、保護者、地域の方々の前で一人一人が所信表明をする取組である。県内の他の中学校の教師なども見学にくる、地域では有名な行事となっている。生徒各自が将来への思いを発表する。「世界に飛び出して働きたい」、「国際ボランティアとして世界の人々を支援したい」といったグローバルな活躍を見据えた将来の目標を発表する生徒も少なくないという。この立志式で発表した内容を英語のエッセイにして、クラスの前で発表するという活動を授業で実施した。行事、授業、部活動など学校全体で生徒の考える力と表現力を高めているからこそ、相乗的に英語のアウトプット力が伸びていると考えられる。

### 2. 英語弁論大会へ出場する生徒の学びを、全校生徒に還元する

市主催の英語弁論大会があるが、同校から毎年生徒が立候補で出場している。今年は第3学年から2名が参加した。英語科の教師は、生徒が書いてきた英文をチェックして正しい表現に導いたり、発音についてALTと一緒に指導したりする。大会前には、出場する生徒たちに全校生徒の前で本番さながらに発表をさせた。こうした3年生の勇姿を見て憧れを抱き、毎年立候補で出場者が決まっていくという。英語への積極的な姿勢を個人の活動で完結させず、全校生徒に広げていくことが成功している好例といえるだろう。

図2 生徒が書いたエッセイ





## 終章

## 1. 本調査の意義

### (1) 英語の資格・検定試験団体との連携により開発した4技能テストを活用した大規模調査によって中学生の英語力を把握

「第2期教育振興基本計画」（平成25年6月閣議決定）において、グローバル人材育成に向けた取組として、外部検定試験を活用した生徒の英語力の把握・検証などによる戦略的な英語教育改善の取組の支援を行うことが掲げられたことを受け、本年度初めて中学生を対象とした大規模なフイージビリティ調査を実施した（高校生を対象としたものは、昨年度と本年度に実施した）。

全国の中学校第3学年約5.7万人（約570校）を無作為抽出し（「話すこと」については1校あたり1クラスを対象、合計約1.8万人を調査）、生徒の英語力（聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの4技能）と英語の学習状況について調査・分析し、これまでの英語教育の成果と課題を検証した。また、高等学校と同様に、本調査では、CEFR（Common European Framework of Reference for Languages：ヨーロッパ言語共通参照枠）という国際的な指標を活用して測定・分析を行った。

その結果、英語力は4技能全てにおいて課題があり、国の目標であるCEFR A1上位レベルに達している生徒は目標の50%を下回り、英語力がバランスよく育成されていない状況が認められた。特に、「書くこと」の得点者はA1上位の割合が高いが、一方で、無解答者が12.5%となるなど全体にばらつきが見られた。

また、このような結果とともに、本調査においては、生徒及び英語担当教員を対象に実施した質問紙調査の結果を分析することで、学校における指導上の課題、特に、授業指導や学習評価の具体的な方法に関する状況を改善する必要があることを明らかにしようとしている。

学校及び教育委員会等においては、今回の調査結果を、授業指導や学習評価の充実、生徒の学習状況や英語担当教員の研修の改善に役立てることが期待されるとともに、国としては、次期学習指導要領の改訂に向けた検討材料として役立てることができるであろう。

### (2) 英語4技能テストの実行可能性を検証

本調査は、文部科学省が学習指導要領に基づき、生徒の英語4技能の力を総合的に測るテストの仕様を作成し、民間の資格・検定試験団体（今回は株式会社ベネッセコーポレーションへ委託、ベネッセ教育総合研究所が協力）とともにテスト及び質問紙調査を作成・実施するという「フイージビリティ調査」の側面もあった。筆記テストの試験監督及びスピーキングテストの試験官は調査対象校の英語担当教員などが務め、試験官の事前の研修を含めたテストの運用について実験的な要素を持たせた。

現在、国の専門家会議において、本調査から得られた結果も参考にしながら、中学生3年生の全国的な学力調査の在り方に関する検討が行われている。これまでの中学生の英語力については、国の「英語教育実施状況調査」においてアンケート形式で行われ、また、その結果については改善が見られなかったことから、文部科学省において、平成27年6月に「生徒の英語力向上プラン」が公表され、平成31年度の学力調査の実現を目指し、その検討が打ち出されたものである。

同専門家会議の論点整理（平成28年2月）においては、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」について全国で一斉に行う学力調査と同日に行い、「話すこと」については、別の日程で生徒と教員の対面による調査を行うことについて提案がなされている。本調査の実施は来年度も予定されているが、全国的な学力調査の検討に資する調査となるよう、実施対象人数、実施方法などに関するさらなる検討を期待したい。

また、このような結果の活用による指導改善に関する取組を通じて、中学校の英語教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立していくことが期待される。全国的な無作為抽出による調査であるため、調査参加校以外では、全体の傾向の把握、技能ごとの課題や指導改善の方向性などの把握となる結果ではあるが、これらを参考に、地域及び校内の研修会や研究会等において活用し、授業指導や学習評価などの改善につなげていただきたい。

## 2. 改善への取組のポイント

### (1) 指導上の主な問題点と改善への指針

本編でも言及しているが、ここで改めて、本調査によって明らかになった指導上の問題点及び改善策を整理しておく。

#### 【リーディング】

短い英文の概要を把握することに関しては、正解率が50%を超えるものもあるものの、わからない単語があっても、文脈や前後関係を押さえながら長い英文を読むことに課題がある。

「わからない単語があったらすぐに辞書を引く」という習慣は、単語の意味がすべてわからないと英文の概要や必要な情報がわからない、という考えにつながりやすく、読む力を育成するには必ずしもよい習慣とは言えないことを指導者は理解すべきであろう。文脈や前後関係から意味を類推しながら読む習慣を育ててもらいたい。

また、英文は読む際には、その目的を意識させることも大切である。書き手の主張を読み取るのか、自分が必要とする情報を探すのか、ストーリーの展開を楽しむのかなど、読

む目的を意識させた上で読む活動を取り入れるべきである。

いずれにしても、逐語的な読みから脱却し、英文を意味のかたまりとしてとらえる活動を行う必要がある。そのためにも、既習レベルまたはそれ以下の語彙レベルで書かれた長めの英文を多読する活動を導入すべきである。そして、日本語に訳さなくてもわかるということを実感できる経験が必要だろう。その上で、時事問題、哲学的な課題など、難易度の高い内容の英文も読めるようになることが望まれる。

さらに、読んだ英文の概要や要点について英語で話したり書いたりする活動や、自分の感想や要点を述べる活動を取り入れるなど、深い読みにつながるような工夫をしたい。

### 【リスニング】

短い英文を聞いて、問いの答えとなる語句が明示されている場合は、それを認識して正答を導く力はある。しかし、まとまった英語を聞いた上で、文脈から話し手の意図や重要な情報を聞き取ることにっては課題がある。

これは、通常の授業及び家庭学習において、教科書本文以外の英語を聞く量が極端に少ないことに起因していると思われ、まとまった英語を聞く時間を増やすことが肝要である。

授業においては、場面や状況を明確にした上で聞く目的を意識させ、様々な英語（会話、アナウンスメント、スピーチなど）を聞いて情報や話し手の意図などを理解したり、それらについて英語で説明したりする活動を行うことが望まれる。

### 【ライティング】

身近なテーマであれば、自分の考えとその理由を書くことができる生徒の割合は増えている。しかし、まったく何も解答を書いていない生徒も見受けられるので、授業ではまず、モデルとなる英文の一部を変えるだけでまとまりのある英文になるような活動から始めるとよいだろう。

身近なテーマでは書けるようになっているものの、論理的に構成する力については改善の余地がある。パラグラフ・ライティングの指導を強化するとともに、書く目的や伝える相手を意識させるなどしながら、書く活動を大幅に増やす必要がある。

さらに、書いた英文を他の生徒と交換して読んだ上で、自分の感想や考えを書くといったインタラクティブな活動も取り入れることが、4技能をバランスよく育成するという観点からも望まれる。

### 【スピーキング】

母語（日本語）のアクセントが残っているものの、与えられた英文を聞き手がある程度理解できる発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを音読できる生徒の割合は比較的高い。

しかし、基本的で身近な話題に関する即興的な質問については、半分以上の生徒が、相

手の発話に対して適切な内容で応答できていない。特に、コミュニケーションにとって支障になりうる時制の誤りが目立つ。また、使う文のパターンに多様性がなく、表現も限定的である。また、やや難しいトピックについて、ある程度の準備をした上で、立場を決めて意見や理由を述べるということが上手にできない生徒が大半である。

授業においては、ごく簡単なトピックを決めて、ペアもしくは3～4人のグループで、即興で話をする機会を増やす必要がある。一方、まとまった話をする場合の流れについて、ライティングの構成に関する指導と連動させた上で、論理的に話をまとめるための表現の例を指導することが求められる。同時に、生徒にとって話したくなるような興味・関心のある話題であり、かつ英語のレベルも適当である話題を選択することが極めて重要である。

以上、本調査で明らかになった各技能に係る課題とその改善策の例について述べた。

中学生の英語における4技能をバランスよく育成することが課題である。スピーキングやライティングによるアウトプット活動を行うことを前提として、リスニングやリーディングの活動を行い、統合的な活動とすることで、4技能を総合的に育成する必要がある。つまり、聞いたり読んだりしたことを理解するだけにとどまらず、聞いたり読んだりしたことについて、主体的に考えを話したり書いたりして人に伝えることを最終的な目的とした指導が行われることが望ましい。

日々の授業において、生徒が英語の基礎的・基本的な知識・技能を活用し、考えや気持ちなどを英語で伝え合う対話的な言語活動を豊富に経験することで、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりし、互いに学び合う意識を高め、コミュニケーション能力を向上させていく必要がある。そのため、「聞いて書く」など複数技能を統合して使う活動を通して、生徒自らが、実社会や実生活に関連した課題を発見し、思考力・判断力・表現力等を向上させて、主体的・協働的な学びにつながる学習・指導方法（「アクティブ・ラーニング」の視点を含む）を改善・充実させることが求められる。

## （2）総合的なコミュニケーション能力の育成に資する目標の設定など

中学校卒業時に、生涯にわたり「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能を積極的に使えるような総合的なコミュニケーション能力を身に付けていることが重要であるが、本調査では、4技能に係る生徒の英語力の弱点及び指導上の問題点が明確になった。また、生徒の英語学習に対する意識面では、英語が好きではないとの回答が4割を超えた。一方、テストのスコアが高い生徒ほど将来の英語使用のイメージが具体的であった。

現在、中央教育審議会・教育課程企画特別部会において、次期学習指導要領が審議されているが、その検討においては、将来の英語使用のイメージを持ちながら学習意欲の維持・向上を図るため、身に付けた知識・技能を主体的に活用して、「英語を使って何ができるようになるか」という観点から一貫した教育目標（4技能に係る具体的な指標の形式）が設定されることが強く望まれる。



併せて、生徒の英語力を把握し、きめ細かな指導の改善・充実や生徒の学習意欲の向上につなげるため、従来設定されている英語力の目標（学習指導要領に沿って設定される目標〈中学校卒業段階：英検 3 級程度以上、高等学校卒業段階：英検準 2 級程度から 2 級程度以上〉）を達成した中高校生の割合（50%）を確実に達成するために、必要な課題の把握、必要な指導方法の改善などが教育委員会の研修や学校において行われることが期待される。

### （3）学校における指導・評価の改善

生徒は、概要や要点をとらえる活動はある程度経験しているが、それを基にして英語で議論したり書いたりする活動をあまり経験していない。また、与えられた課題について、自分の意見や立場を話したり書いたりする活動を経験している生徒が少ない。聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で問答したり意見を述べ合ったりしていたと思う生徒の割合はテスト結果がよいほど高いことなどから、「話すこと」や「書くこと」などを通じて主体的に互いの考えや気持ちを英語で伝え合う言語活動を更に展開することが重要である。

各校では、学習指導要領を踏まえながら、4 技能を通じて「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、学習到達目標を CAN-DO 形式で設定し、技能の統合を意識した言語活動に関する指導・評価の方法を改善することが必要である。併せて、生徒の 4 技能の英語力とともに、学習状況の調査・分析を行い、その結果を教員の指導改善や生徒の英語力の向上に生かすことが重要である。特に、英語の学習が好きではないという回答が 4 割を上回ることから、主体的な学びにつながる「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」を重視した評価を行うことによって、生徒自らが主体的に学ぶ意欲や態度などを含めた多面的な評価方法を検証し、活用していくことが重要である。

そのためにも、次年度は経年比較を行うこと、教員の指導力向上に資する教材や指導事例集などを作成して活用すること、平成 26 年度から文部科学省が行っている「英語教育強化地域拠点事業」や「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」などを継続していくことが求められる。

### （4）教科書・教材の改善

これまで述べたような指導改善を行うに当たっては、技能統合型の言語活動を積極的に取り入れ、総合的なコミュニケーション能力を育成する必要がある。

次期学習指導要領では、指標形式の目標を明示することが求められるが、それに伴い、教科書・教材を大幅に見直す必要が出てくると考えられる。特に、今後の教科書・教材については、これらの指標形式の目標を達成できるように言語活動を効果的に行うため、どのような英文のレベル、内容、長さなどが適当であるかについて十分な検討が求められる。

さらに、教科書検定の在り方や基準の見直しとともに、コミュニケーション能力を効率的かつ効果的に育成するために、音声や映像を含めた ICT を活用した教材の開発と効果的な使用法の検討を促進すべきである。

#### (5) 英語担当教員の養成・採用・研修の改善

本調査から見えてきた様々な課題に対し、英語担当教員の英語力及び指導力の向上も喫緊の課題であると言える。英語担当教員が4技能を通じて高いコミュニケーション能力と指導力を修得できるよう、教職課程の在り方、採用、現職の英語担当教員に対する研修を一体的に見直す必要がある。

教職課程においては、生徒の英語による言語活動が中心となる授業を展開する力を身に付けることが求められる。そこで、4技能を総合的に育成するための指導法、技能統合型の言語活動の充実に対応した指導計画の作成をはじめ、ペア・ワークやグループ・ワークの展開方法、時事的な話題や社会課題などについて意見交換などを行う模擬授業、4技能の能力を適切に測ることができる評価方法（筆記テストに加え、特に「話すこと」や「書くこと」の能力を測るためのパフォーマンステストなど）の在り方、さらには教材の効果的な活用などに関する内容の改善が必要である。

現在、国の委託事業として「英語教員の英語力・指導力強化のための調査研究事業」が行われ、大学、教育委員会、有識者からの意見などを踏まえた教員養成のためのコア・カリキュラム策定などの試みが進められているが、本調査の結果なども踏まえた上で、各大学には、中学校の授業において必要な知識や技能に焦点を当てた現在の開講科目の総点検や、英語の4技能をバランスよく育成するという観点からの教員養成課程の抜本的な改革が期待される。

採用時においては、資格・検定試験による一定の英語力（例 CEFR B2 レベル）を求めるとともに、模擬授業などによる実践的な指導力を評価することが必要である。また、海外留学や海外インターンシップの体験を加点するなど、採用方法の大幅な改善を図ることが求められる。

また、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語を用いて話し合ったりする授業をあまり行っていない教員が多いことが明らかになった。そのため、現職教員の研修においても、前述の教職課程で扱うべき内容と同様の事項について研修の機会を充実させることが求められる。

さらに、こうした取組を通じて、現職の英語担当教員の英語力を、少なくとも CEFR B1 レベル（例 英検 2級、GTEC CBT 1000-1249 点、TOEFL iBT 42-71 点程度）以上に高めていくことなどが期待される。

## (6) 今後の取組について

本調査は、生徒の4技能を直接測るフィージビリティ調査として行った。

この調査から得られた課題や今後どうあるべきかの方向性については、引き続き、学習指導要領の改訂や、各地域の研修における研修会、校内研修、研究会などにおいて活用され、地域及び学校におけるPDCAサイクル構築に資するものとなることが期待される。また、今後の全国的な学力調査の検討においては、本調査のような国際的な基準(CEFR)を活用した生徒の英語力の達成度を測る調査が、その検討に資するものとなることを期待する。

**<関連資料>**

## **(1) 「英語教育改善のための英語力調査の分析・活用に関する検討委員会」の設置**

平成 27 年 5 月 1 日  
初等中等教育局長決定

### **1. 設置の趣旨**

平成 27 年度「英語教育改善のための英語力調査事業」を活用して、生徒の英語力の現状等を検証するとともに、調査結果に関する分析及びその活用の推進のための方策等について検討を行う「英語教育改善のための英語力調査の分析・活用に関する検討委員会」を設置する。

### **2. 取扱事項**

- (1) 生徒の英語力の現状把握及び調査結果の分析
- (2) 調査結果を活用した改善に向けた取組の推進方策の検討
- (3) その他

### **3. 実施方法**

- (1) 本委員会の構成員は別紙のとおりとする。
- (2) 本委員会のもとに、必要に応じてワーキンググループを置くことができる。
- (3) 必要に応じて、別紙以外の関係者にも協力を求めることができる。

### **4. 実施期間**

平成 27 年 5 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日

### **5. その他**

この作業に関する庶務は、初等中等教育局国際教育課において行う。